

Ⅷ. シラバス（博士前期課程）

○ 共通科目…………… 49 ～ 59

○ 専門科目

実践看護学分野

小児看護学…………… 60 ～ 73

母性看護学…………… 74 ～ 97

精神看護学…………… 98 ～ 110

がん看護学…………… 111 ～ 128

実践看護学特別研究…………… 129

地域看護管理学分野

老年看護管理学…………… 130 ～ 135

地域看護管理学…………… 136 ～ 141

診療看護技術管理学…………… 142 ～ 147

地域看護管理学特別研究…………… 148

授 業 科 目 名	看護管理・政策論	共通科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	春山 早苗			
到 達 目 標	保健・医療・福祉システムにおいて有効に機能する看護活動や管理の組織化の方法、ならびに看護職の資質向上のための制度改革や政策決定に関する看護職の働きかけについて理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：春山 早苗、水流聡子・平野真紀・福田順子（非常勤） ○概要：看護マネジメントや看護サービスの組織化、施策化など看護管理における理論と看護管理の過程、活動方法を教授する。保健医療福祉システムにおける安全管理や看護の質保証などのための高度実践看護職の機能役割とリーダーシップ、高度実践看護職の行う医療チーム内及び保健医療福祉関係者間の調整とリーダーシップ、管理的立場にある看護職との協働に関わる活動方法を教授する。またケアの質向上や看護職の資質向上のための制度改革や政策決定過程への高度実践看護職の働きかけについて教授する。				
授業内容				
第 1 回	看護制度の変遷と構造			(平野)
第 2 回	看護政策の基本的考え方と政策過程			(平野)
第 3 回	資格制度に関する政策の課題			(平野)
第 4 回	人材確保策に関する政策の課題			(平野)
第 5 回	保健医療福祉制度の課題と高度実践看護職の関わり			(平野)
第 6 回	政策課題に関する討議			(平野)
第 7 回	情報管理と看護政策、日本の保健医療福祉制度下における情報管理の課題			(水流)
第 8 回	看護情報の標準化と医療・看護の質保証に向けての政策課題			(水流)
第 9 回	看護管理論と看護組織論			(福田)
第 10 回	看護管理の過程、看護管理の組織と運営の実際と課題			(福田)
第 11 回	看護マネジメントとリーダーシップ、人的資源活用論			(春山)
第 12 回	チーム医療を進める組織運営			(福田)
第 13 回	リスクマネジメントの実際と課題			(福田)
第 14 回	看護職のキャリア開発の実際と高度実践看護職の機能・役割			(福田)
第 15 回	高度実践看護職の行う保健医療福祉に携わる人々の調整とリーダーシップ			(春山)
第 16 回	高度実践看護職の行う看護管理に携わる看護職との協力			(春山)
評 価 方 法	レポート等の記録物の提出（30%）、授業への参加態度（プレゼンテーションおよび討議内容を含む）（70%）			
テ キ ス ト	野村陽子：看護制度と政策、法政大学出版局、2015.			
履修上の留意事項	・本科目は、専門看護師教育課程（38 単位）の共通科目 A「看護管理論」（1 単位）、「看護政策論」（1 単位）に相当する。 ・事前準備（予習）として、保健師助産師看護師法を一読し、また看護管理の基本について自己学習した上で授業に臨むこと。事後（復習）は、現在の看護政策の動向および実践現場の看護管理上の課題に対し、本科目で学修したことを適用し、高度実践看護職としての活動方法を考えること。			

授 業 科 目 名	病態生理学特論	共通科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	倉科 智行			
到 達 目 標	日常的によくみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、エビデンスに基づいた病態生理学の状態を判断するために必要な知識と技術を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：倉科智行、村上礼子、佐藤幹代、長谷川直人 竹下克志・高山 剛（非常勤講師）				
○概要：臓器別の恒常性維持機能を踏まえた上で日常的によく見られる病態について学習し、原因・症状と経過・診断と治療の原則を系統的に教授する。より高度な看護実践に向け、エビデンスに基づいた病態生理学の状態を判断できるよう、事例演習を交えて教授する。				
授業内容				
第 1・2 回	総論			(倉科)
	・病態とは何か～疾患・症状との関連 糖代謝異常を例に ・臨床推論の考え方と活用			
第 3 回	各論 1	感覚機能とその障害 (疼痛、眩暈)		(倉科)
第 4 回	各論 2	運動機能とその障害 (外傷、変性疾患、ロコモティブ・シンドローム)		(竹下)
第 5 回	各論 3	血液とその障害 (貧血、免疫異常)		(倉科)
第 6 回	各論 4	呼吸機能とその障害 (呼吸困難、喘息、肺炎、閉塞性肺疾患)		(倉科)
第 7 回	各論 5	循環機能とその障害 (高血圧、ショック、不整脈、狭心症、心筋梗塞)		(倉科)
第 8 回	各論 6	腎機能と体液、酸塩基調節とその障害 (排尿障害、尿路感染症、浮腫)		(倉科)
第 9 回	各論 7	消化・吸収機能とその障害 (下痢、便秘、嚥下障害、腹痛)		(倉科)
第 10 回	各論 8	脳・神経機能とその障害 (脳血管障害、脳腫瘍)		(倉科)
第 11 回	各論 9	内分泌機能とその障害 (糖尿病、骨粗しょう症)		(倉科)
第 12 回	各論 10	生殖機能とその障害 (更年期障害)		(高山)
第 13 回	よくみられる主訴に関するケーススタディ演習 1 胸痛を訴える患者の病態生理学的变化と看護実践の判断方略			(倉科)
第 14 回	よくみられる主訴に関するケーススタディ演習 2 呼吸困難を訴える患者の病態生理学的变化と看護実践の判断方略			(倉科)
第 15 回	よくみられる主訴に関するケーススタディ演習 3 腹痛を訴える患者の病態生理学的变化と看護実践の判断方略			(倉科)
評 価 方 法		授業への参加態度・プレゼンテーション (50%)、演習 (50%)		
テ キ ス ト		清村紀子、工藤二郎編：機能障害からみたからだのメカニズム、医学書院、2014.		
履修上の留意事項		本科目は、専門看護師教育課程 (38 単位) の共通科目 B 群「病態生理学」(2 単位) に相当する。 事前準備として、テキストの他、自ら文献にあたり、1 人 1～2 テーマでプレゼンを行ってもらう。本科目で学んだことは、「フィジカルアセスメント特論」受講に活かすこと。		

授 業 科 目 名	フィジカルアセスメント特論	専 門 科 目	1 年 次 前 期	2 単 位
科 目 責 任 者	村上 礼子			
授 業 目 標	高度実践看護職として、複雑な健康問題をもった対象の身体状況を査定し、臨床判断を行うために必要な知識と技術を修得する。			
授 業 概 要				
○担当教員：村上 礼子、倉科 智行、古島 幸江、阿久津 美代・三須 侑子・谷島 雅子(非常勤)				
○概要：高度実践看護職として、複雑な健康問題をもった対象の身体状況を的確にアセスメントし、臨床判断を行うために、高度な知識・技術の修得についてシミュレーション学習を取り入れながら教授する。特に、対象の複雑な症候に対する臨床判断プロセスを磨くための技能を教授する。				
授業内容				
第 1 回	Advanced 呼吸器系のフィジカルイグザミネーション (問診・視診・打診・聴診・触診) と臨床判断	e-ラーニング受講コンテンツ：第 2 回、第 5-6 回、第 13-14 回 (古島、倉科)		
第 2 回	Advanced 循環器系のフィジカルイグザミネーション (問診・視診・打診・聴診・触診) と臨床判断	e-ラーニング受講コンテンツ：第 2 回、第 5-6 回 (村上、倉科)		
第 3 回	Advanced 消化器系、腎・泌尿器系のフィジカルイグザミネーション (問診・視診・打診・聴診・触診) と臨床判断 受講コンテンツ 第 2 回、第 7-8 回	e-ラーニング受講コンテンツ：第 2 回、第 7-8 回 (村上、倉科)		
第 4 回 第 5 回	Advanced 筋骨格系、中枢神経系・内分泌代謝系のフィジカルイグザミネーション (問診・視診・打診・聴診・触診) と臨床判断	e-ラーニング受講コンテンツ：第 1 回、第 2 回、第 9-10 回、第 11-12 回、第 15-16 回 (村上、倉科)		
第 6 回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ① 胸痛	(阿久津) / (村上)		
第 7 回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ② 腹痛	(阿久津) / (村上)		
第 8 回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ③ 複雑な健康問題 (胸痛・腹痛) の事例検討	(阿久津) / (村上)		
第 9 回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ④ 呼吸困難	(三須) / (古島)		
第 10 回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ⑤ 複雑な健康問題 (呼吸困難) の事例検討	(三須) / (古島)		
第 11 回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ⑥ 意識障害・頭痛	(谷島) / (村上)		
第 12 回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ⑦ 複雑な健康問題 (意識障害・頭痛) の事例検討	(谷島) / (村上)		
第 13-15 回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ⑧ 複雑な健康問題の技術演習 / 呼吸困難・胸痛 ⑨ 複雑な健康問題の技術演習 / 腹痛・発熱 ⑩ 複雑な健康問題の技術演習 / 意識消失・頭痛	(倉科、古島、村上)		
評 価 方 法	参加態度 20%、討議内容 50%、課題 30%をもとに総合的に評価する。			
テ キ ス ト	Margaret A. Fitzgerald：NURSE PRACTITIONER Certification Examination and Practice Preparation 5th, F.A. DAVIDS Company, 2017. 山内豊明著：フィジカルアセスメントガイドブック目と手と耳でここまでわかる(第 2 版) 、医学書院、2012。 ほか、適宜、論文を紹介または提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、専門看護師教育課程 (38 単位) の共通科目 B「フィジカルアセスメント」(2 単位) に相当する。なお、第 1 回～5 回までの e-ラーニングは、自治医科大学学習管理ソフト (Moodle) の「臨床推論/フィジカルアセスメントⅠ」の e-ラーニングの事前テストを受け、教育コンテンツを受講し、事後テストを満点になるまで受講し、対面講義・演習に備えること。授業展開後は、知識やスキルの確認に努め、それらの確実な修得を目指すこと。			

授 業 科 目 名	臨床薬理学特論	共通科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	大塚 公一郎			
到 達 目 標	(1) 薬物の人体における作用機序と体内動態の基礎を理解する。 (2) 薬物の有益な効果と有害な効果に関する知識に基づき、臨床における薬物使用とその調整について考えることができる。 (3) 緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理を中心に、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上を図るための専門看護師の実践について考えることができる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：大塚公一郎・小原 泉・今井靖・相澤健一・澤城大悟・桂田健一・星出聡・田中優子・米川力・矢野晴美・山口博紀・井上荘一郎・牧野好倫・倉科智行・東めぐみ・宮原富士子（非常勤） ○概要：薬剤の人体における作用機序と体内動態、有害作用、治療薬物モニタリング等の臨床薬理学の基礎的知識を教授する。緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬物療法について、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上を図るための知識と技術を教授する。				
授業内容				
第 1 回	臨床薬理学とは／最新情報の入手とその理解			(今井)
第 2 回	薬の作用と作用機序			(相澤)
第 3 回	薬の吸収・分布・代謝・排泄／薬の有害反応・薬物相互作用・中毒			(桂田)
第 4 回	治療薬物モニタリング（TDM）／症状モニタリング			(澤城)
第 5 回	状況別の臨床薬理学(1) 血圧と薬（降圧剤）：使用薬物、使用の判断、有害事象等			(星出)
第 6 回	薬剤師の臨床実践現場におけるモニタリング・薬物調整と看護職との協働(2) 在宅療養中の患者の院内・院外処方の処方箋疑義照会による薬物調整			(宮原・小原)
第 7 回	状況別の臨床薬理学(6) 救命救急・生命危機状況時の臨床薬理：使用薬物（鎮静剤含む）、使用の判断等			(米川)
第 8 回	状況別の臨床薬理学(2) 感染症と薬（感染症と薬の基本用語、抗菌薬とその作用、抗菌薬の副作用、抗菌薬の相互作用			(矢野)
第 9 回	状況別の臨床薬理学(4)がん：使用薬物、使用の判断、有害事象等			(山口)
第 10 回	状況別の臨床薬理学(5)疼痛コントロール：使用薬物、使用の判断、有害事象等			(井上)
第 11 回	看護職による患者の生活調整・回復力促進のための薬剤調整（薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、服薬指導、生活調整）(1)：事例検討（講師が示した事例についての意見交換）			(田中) (小原)
第 12 回	状況別の臨床薬理学(3) 糖尿病：使用薬物、使用の判断、有害事象等			(倉科)
第 13 回	看護職による患者の生活調整・回復力促進のための薬剤調整（薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、服薬指導、生活調整）(2)：事例検討（講師が示した事例についての意見交換）			(東・小原)
第 14 回	状況別の臨床薬理学(7) 精神疾患：使用薬物（抗不安薬、睡眠薬を含む）、使用の判断、有害事象等			(大塚)
第 15 回	薬剤師の臨床実践現場におけるモニタリング・薬物調整と看護職との協働(1) 入院治療中の患者の薬剤調整			(牧野・小原)
評 価 方 法	参加・討議内容 45%（各回 3%），課題レポート 55%（6・15 回 8%、1～5 回・9～14 回 3%）			
テ キ ス ト	大橋京一，藤村昭夫，渡邊裕司編：疾患からみた臨床薬理学，第 3 版，じほう，2012.			
履修上の留意事項	本科目は、専門看護師教育課程（38 単位）の共通科目 B「臨床薬理学」（2 単位）に相当する。各回の分担教員より、随時、事前準備（予習）の課題が出されるので、テキストを一読し、不明確な点を明確化した上で授業を受けること。事後の展開（復習）の課題についても、各回の分担教員の指示に従って行い、該当する授業の理解を確実なものとする。			

授 業 科 目 名	看護実践研究論	共通科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	半澤 節子			
到 達 目 標	看護学分野における研究の発展について理解し、自らの臨床経験を踏まえながら、先行研究におけるエビデンスをさらに発展させた看護研究課題を設定し、適切な研究方法とその展開方法について理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：半澤節子、永井優子				
○概要：看護実践の質の向上における看護研究の重要性、研究課題の検討にあたり必要となる文献検討、研究論文のクリティックの実際、各種研究方法、看護研究倫理など、看護研究の具体的展開について教授する。また、院生の研究関心に基づく研究課題を明確にしながら、先行研究を踏まえた理論的枠組みの設定、適切な研究方法の選定について検討し、研究計画書作成への基礎的知識の修得を目指す。				
○授業内容				
第 1 回	看護実践における研究の重要性と理論との関係 1			(永井)
	・高度看護実践における研究活動の意味、Evidence-Based Practice 環境と看護研究			
第 2 回	看護実践と研究の発展			(永井)
	・看護実践と看護研究の発展の歴史、高度看護実践における研究とエビデンスレベル			
第 3 回	看護実践研究における倫理			(永井)
	・研究倫理の歴史、高度実践看護職に求められる看護研究倫理			
	・高度看護実践における研究活動の人権擁護、研究承諾、実践の場の研究倫理審査			
第 4 回	看護実践における研究の重要性と理論との関係 2			(永井)
	・高度看護実践で活用する理論とは、看護研究の実践における活用と看護のエビデンス			
第 5 回	自己の看護実践における研究課題について、関連する理論、看護研究倫理についての検討			(永井)
第 6 回	研究目的と研究方法 1			(永井)
	・看護実践上の疑問と研究疑問、研究目的と研究の意義			
第 7 回	研究目的と研究方法 2			(永井)
	・文献検討の意義と方法、研究計画書に必要な項目、研究デザイン			
第 8 回	看護実践向上に役立つ研究のための文献検討			(半澤)
第 9 回	研究目的を達成するための研究方法の選択			(半澤)
第 10 回	看護実践の場における研究			(半澤)
第 11 回	科学的に課題を探究するための研究課題の設定：文献検索により研究課題の検討			(半澤)
第 12 回	科学的に課題を探究するための研究方法の検討：対象、方法、結果の整合性の検討			(半澤)
第 13 回	科学的に課題を探究するための研究結果の示し方：結果、考察、結論の整合性の検討			(半澤)
第 14 回	看護実践の質の向上に役立つ研究計画書の作成			(半澤)
	・研究課題の焦点化、キーワードの明確化、概念枠組みと仮説の設定			
第 15 回	看護実践の質の向上に役立つ研究計画書の作成；実証可能な研究方法と再現性			(半澤)
評 価 方 法	課題レポート(40%)、プレゼンテーション内容(30%)、討議内容 (30%) から総合的に評価を行う。			
テ キ ス ト	1. 南裕子、野嶋佐由美編：看護における研究（第 2 版）．日本看護協会出版会, 2017. 参考書（半澤） 2. Gray JR,Grove SK., Sutherland S.: The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 8th ed., Elsevier, Saunders, 2016. 参考書（永井）			
履修上の留意事項	・本科目は、専門看護師教育課程（38 単位）の共通科目 A「看護研究」（2 単位）に相当する。 ・事前準備（予習）として、教科書を一読し、不明確な点を明確化した上で授業を受けること。事後の展開（復習）として、自らの研究課題、先行文献の整理を踏まえた研究目的の明確化、研究方法について検討し、11 月の合同研究セミナーにおいて研究構想を発表できるよう準備を進めていく。			

授 業 科 目 名	コンサルテーション論	専 門 科 目	1 年 次 前 期	2 単 位
科 目 責 任 者	永井 優子			
授 業 目 標	コンサルテーションに関する理論と倫理的側面を含むコンサルテーションをめぐる問題や課題について検討する。看護カウンセリングの実際にふれながら、ロールプレイやコンサルテーション体験にもとづいてコンサルテーションの実際について理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名:永井優子、広瀬寛子（非常勤）、本看護学研究科修了生(ゲスト) ○概要：看護実践で行うコンサルテーションに関する理論を踏まえて、高度実践看護職が必要とするコンサルテーション技能と役割について検討する。				
授業内容				
第 1 回	コンサルテーションに関する理論 1 コンサルテーションの定義、タイプ、モデル、役割			(永井)
第 2 回	コンサルテーションに関する理論 2 コンサルテーションのプロセス、 コンサルタントとコンサルティとのダイナミクス			(永井)
第 3 回	コンサルテーションに関する理論 3 コンサルテーションの評価、コンサルタントの資質			(永井)
第 4 回	コンサルテーションの活用 コンサルタントの活用、コンサルテーションの活用、活用される領域			(永井)
第 5 回	看護実践におけるコンサルテーションの活用状況 看護実践におけるコンサルタントの活用、活用される領域			(永井)
第 6 回	看護実践におけるコンサルテーションの活用の実情と必要性に関する討議			(永井)
第 7 回	看護職のサポートとしてのコンサルテーション 1 アサーションと看護、看護職自身の振り返りの方法			(永井)
第 8 回	看護職のサポートとしてのコンサルテーション 2 専門看護師の役割と活動組織とコンサルテーション			(永井) (ゲスト修了生)
第 9 回	看護職のサポートとしてのコンサルテーション 3 コンサルテーションとリエゾン精神看護			(永井)
第 10 回	看護カウンセリングとコンサルテーションの実際 1 看護カウンセリングから見たコンサルテーション			(広瀬)
第 11 回	看護カウンセリングとコンサルテーションの実際 2 看護の対象者および看護職自身の問題に焦点を当てたコンサルテーションの実際			(広瀬)
第 12 回	看護カウンセリングとコンサルテーションの実際 3 看護の対象者および看護職自身の問題に焦点を当てた事例について			(広瀬)
第 13～ 15 回	グループコンサルテーションおよびスーパービジョンの体験的演習 事例の提出者をコンサルティとし、他の受講生はグループコンサルタントとして、コンサルテーションを試みる。一事例を終了した後に、全員でコンサルテーションのプロセスを振り返り、検討する。最後に体験的演習の共有をしてまとめる。			(広瀬・ 永井)
評 価 方 法	各回の討議内容（40%）、プレゼンテーション（30%）、課題レポート（30%）			
テ キ ス ト	1) Geraldine S. Pearson (2019). Consultation. In A. B. Hamric, C. M. Hanson et al (Eds.), <i>Advanced practice nursing; An Integrative Approach</i> (6 th ed., pp.203-255). Philadelphia: Saunders 2) 広瀬寛子(2003).看護カウンセリング, 第 2 版, 医学書院 3) 広瀬寛子(2011).悲嘆とグリーフワーク, 医学書院 その他の文献は授業の中で提示する。			
履修上の留意事項	本科目は専門看護師教育課程（38 単位）の共通科目 A「コンサルテーション論」（2 単位）に相当する。第 10 回以降は 2 日間(各日 3 コマ)に集中して行う。初回に受講生がコンサルティとして検討したい事例の準備について具体的に指示する。なお、履修人数によって演習方法を調整する。初回にテキスト 1)を準備して、各回の課題について検討できるように準備をして取り組む。			

授 業 科 目 名	看護倫理	共通科目	1 年次後期	2 単位
科 目 担 当 者	小原 泉			
授 業 目 標	保健医療福祉の現場における倫理的課題と看護職に求められる倫理を理解し、倫理的課題に対するアプローチや関係職種間の調整方法等、高度実践看護職が果たす役割について学修する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、加藤直克・渥美一弥・服部健司（非常勤）				
○概要：保健医療福祉の現場における倫理的課題と看護職に求められる倫理について教授する。さまざまな看護場面で生じる倫理的な課題や葛藤にアプローチする方法や、関係職種間の倫理的調整に必要な知識を教授し、高度実践看護職が果たす役割について考察する。				
○授業内容				
第1回～第2回 看護職に求められる倫理				
第1回	看護実践における倫理的行動		小原 泉	
第2回	看護職の倫理的責任		小原 泉	
第3回～第4回 看護実践における倫理的分析と倫理的意思決定				
第3回	看護実践における倫理的課題に対するアプローチ		小原 泉	
第4回	倫理的意思決定プロセスと倫理的行為の実践		小原 泉	
第5回～第6回 ケアの倫理				
第5回	ケアとは何か、その哲学的考察		加藤直克	
第6回	現代医療の特質とケアの倫理		加藤直克	
第7回～第8回 保健医療福祉専門職に対する倫理教育				
第7回	保健医療福祉専門職に対する倫理教育の基本的課題		服部健司	
第8回	看護職に対する倫理教育		服部健司	
第9回～第15回 保健医療福祉の現場における倫理的調整の実際と高度実践看護職の役割				
ケースを用いて保健医療福祉の現場における倫理的課題や葛藤にアプローチし、関係職種間の倫理的調整等、高度実践看護職が果たす役割について検討する。				
第9回	救急医療に伴う倫理的課題と高度実践看護職が果たす役割	}		
第10回	終末期医療に伴う倫理的課題と高度実践看護職が果たす役割			
第11回	高齢者の医療や療養生活に関する倫理的課題と高度実践看護職が果たす役割		加藤直克	
第12回	地域医療における倫理的課題と高度実践看護職が果たす役割		渥美一弥	
第13回	アドバンス・ケア・プランニングをめぐる倫理的課題と高度実践看護職が果たす役割		小原 泉	
第14回	インフォームド・コンセントをめぐる倫理的課題と高度実践看護職が果たす役割			
第15回	高度実践看護職の行う倫理的調整のまとめ			
評 価 方 法	プレゼンテーション内容（25%）と討議内容（25%）、最終レポート（50%）をもとに科目責任者が総合的に評価を行う。			
テ キ ス ト	医療倫理学のABC 第4版、井部俊子監修、服部健司・伊東隆雄編著、メヂカルフレンド社、2018.			
履修上の留意事項	本科目は専門看護師教育課程（38 単位）の共通科目 A「看護倫理」（2 単位）に相当する。			

授 業 科 目 名	看護継続教育論	共通科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	塚本 友栄			
到 達 目 標	看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけとして、様々な学習形態をとる教育環境づくりの方策について理解する。看護継続教育の実際から、看護ケアの質向上の基盤となる教育的関わりの方策を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：塚本友栄、本田芳香・福田順子（非常勤）				
○概要：看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけとして、教育現象を経験学習の視点から体系的に計画された学習、個々人の自律的な学習を推進するための教育環境づくりに関する方策及び、教育的関わりの方策を教授する。				
○授業内容				
第 1 回～第 6 回 看護継続教育に関わる諸理論、看護実践能力の育成を図るための方策など、看護継続教育に必要な知識と技術を教授する。				
第 1 回	科目ガイダンス、および生涯学習における看護継続教育の現況について概説する。	（塚本・本田）		
第 2 回	看護継続教育に関わる経験学習理論、リフレクションなどの諸理論について概説する。	（本田）		
第 3 回	卒前・卒後教育の一環として看護基礎教育と新人教育の現況を概説し、看護実践能力の育成を図るための方策について考究する。	（本田）		
第 4 回	ジェネラリストを育成、スペシャリストを育成する教育の現況を概説する。	（本田）		
第 5 回	看護管理者育成、看護継続教育における教育者、研究者を育成する教育の現況を概説する。	（本田）		
第 6 回	看護実践における組織内・外の看護継続教育の現状と課題について討議し、考究する。	（本田）		
第 7 回～第 11 回 高度実践看護職が、看護ケアの質を高めるため看護職に必要な教育的働きかけとして、様々な学習形態をとる教育環境づくりに関する方策を教授する				
第 7 回	高度な看護実践に必要な授業デザイン及び評価方法に関する知識と技術を概説する。	（塚本）		
第 8 回	高度な看護実践に必要な看護継続ニーズ・アセスメント及び教育計画に関する知識と技術を概説する。	（塚本）		
第 9 回	高度実践看護職が、看護ケアの質を高めるために必要な教育的働きかけに言及し、事例または文献を用いてプレゼンテーション及びディスカッションを行う。	（塚本）		
第 10 回	高度実践看護職が、様々な学習形態をとる教育環境づくりに言及し、事例または文献を用いてプレゼンテーション及びディスカッションを行う。	（塚本）		
第 11 回	高度実践看護職が、高度な看護実践をするために必要な教育的働きかけと教育環境づくりに関する課題について討議する。	（塚本）		
第 12 回～第 15 回 各自の所属組織における看護継続教育の実際を通して、看護ケアの質を向上するための教育的関わりの方策を教授する。				
第 12 回	所属組織における必要な授業立案とその評価をおこなう。	（福田）		
第 13 回	所属組織における必要な教育プログラムを作成する。	（福田）		
第 14 回	上記で立案した教育計画及びその評価方法について討議する。	（福田）		
第 15 回	看護ケアの質を高めるための看護継続教育の実際を通して、今後取り組むべき自己課題を明確にし、改善策について考察する。	（本田）		
評 価 方 法	課題レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、出席・参加態度（20%）を評価基準にし、総合的に評価する。			
テ キ ス ト	参考書 ・schoen, DA. (1984) The Reflective Practitioner: How Professionals Think in Action. Basic Books. 柳沢昌一，三輪健二監訳（2007），省察的実践とは何かプロフェッショナルの行為と思考，鳳書房。 ・井部俊子監修、手塚恵編集：看護管理学習テキスト第 3 巻人材管理論、第 3 版、日本看護協会出版会、2022.			
履修上の留意事項	本科目は、専門看護師教育課程（38 単位）の共通科目 A「看護教育論」（2 単位）に相当する。各教員より事前・事後の学習課題が提示されるため取り組むこと。			

授 業 科 目 名	地域医療論	共通科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	浜端 賢次			
到 達 目 標	地域に根ざした医療や保健を展開する方法を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：浜端賢次、塚本友栄、春山早苗、小谷和彦・北田志郎（非常勤） ○概要：地域のニーズの捉え方、ニーズに即した医療の提供方法、地域の保健医療福祉施設等の有機的な連携、医療資源のアウトソーシングの実際について学修する。				
第1回	ガイダンス 地域医療序論 1（春山） 地域医療の概念ならびに、わが国の保健医療福祉システム変遷を踏まえた地域医療の歴史と現状について説明する。			
第2回	地域医療序論 2（小谷） 日本の地域医療において、自治医科大学の果たした役割を説明し、加えて自治医科大学地域医療学講座の地域医療の実践を説明する。			
第3～4回	包括保健医療・福祉サービス 1（北田） 国内外の実践例を通して、地域包括ケアと保健・医療・福祉サービスの提供体制について説明する。			
第5回	包括保健・医療・福祉サービス 2（塚本） 地域医療における関係機関間の連携と役割分担、関係職種間の連携と役割分担について説明する。			
第6～7回	包括保健・医療・福祉サービス 3（浜端） 在宅医療における関係機関間の連携と役割分担、関係職種間の連携と役割分担について説明する。			
第8回	地域医療と医療政策（小谷） これからの地域医療をめぐる医療政策のあり方について議論する。			
第9回	都道府県併記保健医療計画（小谷） 都道府県のへき地保健医療の充実を目的とした、地域医療分析とへき地保健医療計画の策定支援に関する研究を紹介する。			
第10回	地域医療を支える人材と確保・支援策（春山） 地域医療を支える保健医療福祉施設の人材について説明し、人材確保とその定着のための対策、ならびに支援体制について討議する。			
第11～12回	地域医療における看護の役割 1（春山・浜端） 地域医療における看護活動の展開事例を通して、現代の地域医療における看護の課題について提起する。			
第13～14回	地域医療における看護の役割 2（春山・浜端・塚本） 第11・12回講義を踏まえて、学生自身の実践経験等に基づき、現代の地域医療における看護の課題と要因を討議する。			
第15回	まとめとして総合討論（浜端・塚本・春山）			
評 価 方 法	授業への参加態度（50%）、プレゼンテーションおよびレポート（50%）			
テ キ ス ト	自治医科大学監修；「地域医療テキスト」、医学書院、2009			
履修上の留意事項	事前学習としてテキストや配布資料を一読し、ディスカッションに備えること。事後の展開として、各々が選択した領域が地域医療においてどのように位置づけられるか思考を深めること。			

授 業 科 目 名	地域調査法	共通科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	関山 友子			
到 達 目 標	地域における健康問題や健康ニーズを把握するための調査の方法を理解する。また、調査で収集した資料やデータの分析方法、結果の読み方などを理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：関山友子、大塚公一郎、春山早苗、渡邊亮一（非常勤） ○概要：地域において効果的かつ効率的な看護活動・保健活動やその管理的活動を展開する上に必要な地域の健康問題や健康ニーズを把握するための質的な調査法や量的な調査法を講義や演習を通じて教授する。さらに、調査によって収集した資料やデータの分析方法、分析結果の読み方などを講義や演習を通じて教授する。				
第1回	地域調査において注意しなければならないこと（渡邊・関山）			
第2～4回	地域調査のための質問紙の作成方法（渡邊・関山）			
第5～8回	地域調査のための量的研究方法（関山）			
第9回	保健医療に関わる地域調査における質的研究法の概要と意義（大塚）			
第10～11回	医療におけるナラティブ・インタビュー ーグラウンデッド・セオリー・アプローチの演習を含む（大塚）			
第12回	保健医療の現場におけるエスノグラフィー的観察法 ーDVDを用いた演習を含む（大塚）			
第13回	看護活動における地域調査の目的と収集するデータの特質（春山）			
第14回	看護活動における地域調査の方法の特質（春山）			
第15回	看護における地域調査の有用性ーディベートによる研究論文のクリティーク（春山）			
評 価 方 法	授業への参加態度（約 15%）、プレゼンテーション（約 50%） およびレポート（約 35%） により総合的に評価する。			
テ キ ス ト	指定しない。関係書籍・論文を広く活用する。			
履修上の留意事項	統計学の基礎的な内容（統計量、仮説検定など）を事前学習しておくことが望ましい。授業後は、授業内容を他の講義や演習に活かす際に再度振り返りを行うこと。			

授 業 科 目 名	Academic Writing & Oral Presentation	共通科目	1 ～ 2 年次 (通年)	1 単位
科 目 責 任 者	角川 志穂			
到 達 目 標	英文抄録の作成からプレゼンテーションまで、国際学会での研究発表に必要な知識と技術を修得する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：角川 志穂、鹿野 浩子				
○概要：国際学会で研究発表を行うために必要な抄録の書き方、プレゼンテーションスキルを学修する。前半では、英文抄録の書き方の基礎を学び、最終的に数ページのサイエンスペーパーが書ける技術を学修する。後半では、英文抄録をもとに国際学会で発表するためのプレゼンテーションスキルを修得する。				
授業内容				
第 1 回	Unit 1: パラグラフライティングとは			(鹿野)
第 2 回	Unit 1: パラグラフライティングの構成			(鹿野)
第 3 回	Unit 2: 一貫性のあるパラグラフライティングの書き方			(鹿野)
第 4 回	Unit 3: 3 つのタイプのパラグラフのタイプ(叙述文, 比較・対照文 & 因果関係文)			(鹿野)
第 5 回	Unit 4: パラグラフライティングからエッセーライティングへ展開			(鹿野)
第 6 回	Unit 5: 比較・対照のパラグラフの書き方 – そのⅠ			(鹿野)
第 7 回	Unit 6: 比較・対照のパラグラフの書き方 – そのⅡ			(鹿野)
第 8 回	Unit 7: 分類別パラグラフの書き方			(鹿野)
第 9 回	スライドプレゼンテーション・ポスター発表の準備の方法			(鹿野)
第 10 回	学会で使用する英語表現方法、サンプルプレゼンテーション			(鹿野)
第 11 回	文献・自己の研究を用いてプレゼンテーション及びディスカッション			(鹿野)
第 12 回	文献・自己の研究を用いてプレゼンテーション及びディスカッション			(鹿野)
第 13 回	文献・自己の研究を用いてプレゼンテーション及びディスカッション			(鹿野)
第 14 回	文献・自己の研究を用いてプレゼンテーション及びディスカッション			(鹿野)
第 15 回	文献・自己の研究を用いてプレゼンテーション及びディスカッション			(鹿野)
評 価 方 法	レポートの提出物 (40%)、発表 (40%)、授業中の参加度 (20%)			
テ キ ス ト	Folse, Keith S., Elena V., and Clabeaux, David. (2020) Great Writing: From Great Paragraphs to Great Essays 3, Cengage Learning. 佐藤雅昭 (2016) 国際学会発表：流れがわかる英語プレゼンテーション How To. メディカルレビュー社 参考書として以下提示する： その他、専門誌から適宜提示する			
履修上の留意事項	提示された事前課題を仕上げて、受講すること。受講生には、毎回の講義終了後、Moodle において講義資料を閲覧可能とするので、やむを得ず欠席した場合は、事前に閲覧し次回の講義に臨むこと。前半部分の予習として、テキストの練習問題を事前に解いておく。授業は練習問題の答え合わせを中心に、Unit の解説を行う。復習は、返却されたパラグラフの修正と、授業内で行った範囲のパラグラフライティングを行う。後半部分の予習では、指摘されたプレゼンテーションスライドの修正を行い、復習では、プレゼンテーションの原稿の加筆訂正を行う。			

授業科目名	小児看護学講義 I	専門科目	1 年次前期 2 単位
科目責任者	田村 敦子		
到達目標	(1) 小児看護における主要な理論を学び、小児看護への活用について思考する。 (2) 子どもと家族の成長と発達を学ぶとともに、成長発達を育む健康な生活を理解し、臨床実践への適用について考察する。		
○担当教員名：田村 敦子 ○概要：小児看護における主要な理論と、子どもと家族の成長と発達、成長発達を育む健康な生活について理解し、それぞれの臨床実践を振り返り、臨床実践への活用について考察する。			
授業内容			
小児看護における理論：			
第 1 回	エリクソン（自我の発達）	（講義）	田村
第 2 回	ピアジェ（認知発達やシンボルとしての言語の発達）	（講義）	田村
第 3 回	ボウルビィ（愛着理論）	（講義）	田村
第 4 回	マラー（分離一個体化理論）	（講義）	田村
第 5 回	ヴィゴツキー（発達と学習）	（講義）	田村
第 6 回	親・家族の発達（親性の発達、家族の発達段階、家族の危機）	（講義）	田村
第 7 回	セルフケア理論	（講義）	田村
第 8 回	コーピング理論	（講義）	田村
第 9 回	アンナ・フロイト（自我と防衛）	（講義）	田村
第 10 回	小児看護における子どもの理解と理論の位置づけ	（ディスカッション）	田村
第 11 回	乳児期の子どもと家族の成長と発達、成長発達を育む健康な生活の理解	（講義）	田村
第 12 回	幼児期の子どもと家族の成長と発達、成長発達を育む健康な生活の理解	（講義）	田村
第 13 回	学童期の子どもと家族の成長と発達、成長発達を育む健康な生活の理解	（講義）	田村
第 14 回	思春期の子どもと家族の成長と発達、成長発達を育む健康な生活の理解	（講義）	田村
第 15 回	子どもの成長と発達、成長発達を育む健康な生活のかかわり（ディスカッション）	田村	
※第 15 回には、学生自らの臨床実践に合わせ、第 11 回～第 14 回の内容から時期を一つ選び、「子どもと家族の成長と発達、成長発達を育む健康な生活」についてプレゼンする。プレゼン後のディスカッションから、自らの実践事例を分析し、子どもと家族の成長と発達、成長発達を育む健康な生活について考察し、課題レポートとしてまとめる（課題レポート②）。			
評価方法	プレゼンテーションを含んだ討議内容 50%, 最終課題レポート 50%		
テキスト	・村井潤一編：発達の理論をきずく〈別冊発達4〉，ミネルヴァ書房, 1986. ・J・ボウルビィ著：黒田実郎他訳：母子関係の理論Ⅰ～Ⅲ，岩崎学術出版社，2018. 他		
履修上の留意事項	・本科目は、小児看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野共通科目（小児・家族の成長・発達／健康生活に関する科目）（2 単位）に相当する。 ・事前準備としてテキストおよびその他関係論、関連文献について予習する。		

授 業 科 目 名	小児看護学講義Ⅱ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	大海 佳子			
到 達 目 標	(1) 小児看護専門看護師の高度看護実践機能について理解する。 (2) 小児看護専門看護師のコンサルテーション機能について理解する。 (3) 小児看護専門看護師の調整機能について理解する。 (4) 小児看護専門看護師の倫理調整機能について理解する。 (5) 小児看護専門看護師の教育機能について理解する。 (6) 小児看護専門看護師の臨床での研究活動について理解する。 (7) 小児看護専門看護師の地域における活動について理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：田村敦子（非常勤）大海佳子、村山有利子、佐々木祥子、手塚真由美、黒田光恵、田野井寛子 ○概要：小児看護専門看護師の役割・機能について概括し、今後の実践について思考する。特に小児看護専門看護師の実践する、様々な健康レベルにある子どもと家族に対する、臨床判断に基づく状況に応じた高度な看護実践について教授する。				
授業内容				
第 1 回	オリエンテーション 小児看護専門職として必要な機能と役割	(講義)	大海・田村 村山	
第 2 回	小児看護専門看護師の高度看護実践機能	(講義)	村山	
第 3 回	小児看護専門看護師のコンサルテーション機能	(講義)	村山	
第 4 回	小児看護専門看護師の調整機能（コーディネーション機能）	(講義)	佐々木	
第 5 回	小児看護専門看護師の倫理調整機能	(講義)	佐々木	
第 6 回	小児看護専門看護師の教育機能	(講義)	手塚	
第 7 回	小児看護専門看護師の臨床での研究活動	(講義)	村山・田村	
第 8 回	小児看護専門看護師の倫理調整機能	(講義)	佐々木	
第 9 回～第 10 回	PICU に入院する子どもと家族への臨床判断に基づく、状況に応じた高度な看護実践（①見学、②臨床講義、③ディスカッション）		村山・田村	
第 11 回～第 12 回	小児がんで入院する子どもと家族への臨床判断に基づく、状況に応じた高度な看護実践（①見学、②臨床講義、③ディスカッション）		黒田・田村	
第 13 回～第 14 回	慢性疾患をもつ子どもと家族への臨床判断に基づく、状況に応じた高度な看護実践（①見学、②臨床講義、③ディスカッション）		黒田・田村	
第 15 回	小児看護専門看護師の活動の課題 (ディスカッションと課題レポート作成)		大海・田 村・黒田	
評 価 方 法	プレゼンテーションを含んだ討議内容 50%，課題レポート 50%			
テ キ ス ト	・中村美鈴他監訳：高度実践看護－統合的アプローチ．ヘルス出版（原著第 5 版），2017. ・井部敏子・大生定義監修：専門看護師の思考と実践．医学書院，2015．他			
履修上の留意事項	・本科目は、小児看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野共通科目（小児看護援助の方法に関する科目）（2 単位）に相当する。 ・事前準備としてテキストおよびその他関係論からプレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションを行い、授業中に討議した内容から再考察し、それに基づき課題レポートを作成する。 ※レポート課題：小児看護専門看護師の 6 つの機能のうち 1 つについて、自らも実践に関わったケースについて、ケースを紹介するとともに、授業内のディスカッションに基づき、その実践が小児看護専門看護師に求められるレベルとの比較、改善すべき点はどこかに ついて分析し、まとめる。			

授 業 科 目 名	小児看護学講義Ⅲ	専 門 科 目	1 年次前期	2 単 位
科 目 責 任 者	大海 佳子			
到 達 目 標	(1) 小児看護における看護倫理について理解する。 (2) 児童の権利、小児医療・看護の倫理的判断にかかわる種々のガイドライン、最新の研究成果を検討する。 (3) 小児期に発症する遺伝性疾患における倫理に焦点を当て、疾患の成り立ち、子どもと家族の理解から、遺伝性疾患を有する子どもと家族への看護について思考する。 (4) 小児看護専門看護師がかかわる倫理的課題とその解決への働きかけについて理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：田村敦子（非常勤）大海佳子、中込さと子、佐々木祥子 ○概要：小児看護領域での高度看護実践において、倫理的判断にかかわる基本となるガイドライン・最新の研究成果を把握し、医療事故や看護研究における倫理や、倫理的な課題を持つ遺伝性疾患を有する子どもと家族の状況について理解し、小児看護専門看護師の倫理的実践における役割について思考する。				
授業内容				
第 1 回	小児看護と看護倫理	(講義)	大海	
第 2 回	児童の権利、小児医療・看護の倫理的判断にかかわる種々のガイドライン、最新の研究成果の検討	(演習)	田村・大海	
第 3 回～第 6 回	① 各院生が担当したガイドライン、研究成果について、プレゼンし、ディスカッションする。さらに、各自の臨床経験に照らして再度分析し、レポート①を作成しする。		田村・大海	
第 7 回・第 8 回	①小児期に発症する遺伝性疾患の成り立ち ②小児期に発症する遺伝性疾患への対応～倫理的視点から～	(講義)	中込	
第 9 回	小児期に発症する遺伝性疾患を有する子ども・家族への看護～倫理的視点から～ (ディスカッションとレポート作成)		中込	
第 10 回	小児看護における医療事故と倫理		大海	
第 11 回	小児看護実践と研究における倫理		大海	
第 12 回・第 13 回	小児看護専門看護師がかかわる倫理的課題とその解決への働きかけ（1）～院生がかかわった事例のプレゼンと改善に向けてのディスカッション～		佐々木・大海	
第 14 回	小児看護専門看護師がかかわる倫理的課題とその解決への働きかけ（2）～小児医療・看護を提供する組織における倫理的な課題～ (講義)		佐々木・大海	
第 15 回	小児看護専門看護師がかかわる倫理的課題とその解決への働きかけ（3）～小児看護専門看護師としての倫理的課題へのかわり方～ (ディスカッションとレポート③作成)		佐々木・大海	
評 価 方 法	プレゼンテーションを含んだ討議内容 50%，課題レポート（①～③） 50%			
テ キ ス ト	・松岡真里:小児看護と看護倫理-日常的な臨床場面での倫理的看護実践. へるす出版, 2020. ・家永 登, 仁志田 博司他：シリーズ生命倫理学, 第 7 巻 周産期・新生児・小児医療. 丸善出版, 2012. 他			
履修上の留意事項	・本科目は、小児看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野共通科目（小児看護援助の方法に関する科目）（2 単位）に相当する。 ・事前準備としてテキストおよびその他関係論からプレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションを行い、授業中に討議した内容から再考察し、それに基づき課題レポートを作成する。			

授 業 科 目 名	小児看護学演習Ⅰ	専 門 科 目	1 年次前期	2 単 位
科 目 責 任 者	田村 敦子			
到 達 目 標	(1) 高度看護実践に必要な、子どものフィジカルアセスメントと発達評価について学ぶ。 (2) 高度看護実践に必要な、子どもと家族の状態を心理・社会的に評価するための観察法とインタビュー方法について学ぶ。 (3) 高度看護実践に必要な、子どもと家族のヘルスアセスメントについて学ぶ。 (4) 収集した情報から、子どもと家族を包括的にアセスメントする方法について思考する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：田村敦子（非常勤）熊谷秀規、矢田ゆかり、川上直子（小児看護 CNS）、黒田光恵（小児看護 CNS）、川中子知里（小児看護 CNS） 臨地講義および演習：自治医科大学とちぎこども医療センター（子ども外来、小児慢性期病棟）および自治医科大学附属病院総合周産期母子医療センター（産科（新生児室）、新生児集中治療部・新生児回復治療室（NICU・GCU と略）） ○概要：高度看護実践での子どもと家族の包括的アセスメントに必要な、系統的フィジカルアセスメント、発達評価、痛みの評価方法と、心理・社会的アセスメントに必要な観察・インタビューの方法について臨床的に学ぶとともに、収集した情報から包括的にヘルスアセスメントする方法について身につける。				
授業内容				
第 1 回	子どものヘルスアセスメントの概要	（講義）	田村	
第 2 回	子どもの系統的なフィジカルアセスメントの概要	（講義）	熊谷	
第 3 回	子どもの系統的フィジカルアセスメント：全身状態	（臨地講義）	矢田・川中	
第 4 回	子どもの系統的フィジカルアセスメント：全身状態	（演習）	子・田村	
第 5 回	子どもの系統的フィジカルアセスメント：頭部・感覚器系	（臨地講義）	熊谷・川	
第 6 回	子どもの系統的フィジカルアセスメント：頭部・感覚器系	（演習）	上・田村	
第 7 回	子どもの系統的フィジカルアセスメント：胸部	（臨地講義）	熊谷・川	
第 8 回	子どもの系統的フィジカルアセスメント：胸部	（演習）	上・田村	
第 9 回	子どもの系統的フィジカルアセスメント：頭部・感覚器系	（臨地講義）	熊谷・川	
第 10 回	子どもの系統的フィジカルアセスメント：頭部・感覚器系	（演習）	上・田村	
第 11 回	子どもの系統的フィジカルアセスメント：筋骨格・反射	（臨地講義）	熊谷・川	
第 12 回	子どもの系統的フィジカルアセスメント：筋骨格・反射	（演習）	上・田村	
第 13 回	発達スクリーニングの意義と方法（1）		矢田・黒	
第 14 回	発達スクリーニングの意義と方法（2）		田・田村	
第 15 回	子どもの痛みとその評価	（講義）	黒田・田村	
第 16 回	子どもの痛みの評価の実際	（演習）		
第 17 回	子どもと家族の観察とインタビューの方法	（講義）	田村	
第 18 回	子ども・家族の観察とインタビュー：新生児期	（臨地講義）	川中子・田村	
第 19 回	子ども・家族の観察とインタビュー：新生児期	（演習）		
第 20 回	子ども・家族の観察とインタビュー：乳児期	（臨地講義）	川上・黒	
第 21 回	子ども・家族の観察とインタビュー：乳児期		田・田村	
第 22 回	子ども・家族の観察とインタビュー：幼児期	（臨地講義）	川上・黒	
第 23 回	子ども・家族の観察とインタビュー：幼児期		田・田村	
第 24 回	子ども・家族の観察とインタビュー：学童期・思春期	（臨地講義）	川上・黒	
第 25 回	子ども・家族の観察とインタビュー：学童期・思春期		田・田村	
第 26 回	子ども・家族の包括的なヘルスアセスメント	（講義）	田村	
第 27 回～第 30 回	子どもと家族の包括的なヘルスアセスメントの実際		川上・黒	
回	※第 19 回～第 26 回でかわった各期の子どもと家族 1 組から得られた情報について分析し、子どもと家族についての包括的ヘルスアセスメントとし		田・川中 子・田村	

てまとめ、その結果をプレゼンテーションしディスカッションする。 ※学んだ結果から課題レポートを作成する。	
評 価 方 法	プレゼンテーションを含んだ討議内容 50%, 課題レポート 50%
テ キ ス ト	・小野田千枝子監修：こどものフィジカル・アセスメント. 金原出版, 2001. ・小林 奈美著：実践力を高める家族アセスメント PartI ジェノグラム・エコマップの描き方と使い方カルガリー式家族看護モデル実践へのセカンドステップ/実践力を高める家族アセスメント Part II ファシリテートのエキスパートをめざして FASC 式家族事例検討の展開から研究へカルガリー式家族看護モデル実践へのセカンドステップ. 医歯薬出版, 2009. ・ケヴィン ブラウン他 著, 上野昌江他訳：その他保健師・助産師による子ども虐待予防「CAREプログラム」乳幼児と親のアセスメントに対する公衆衛生学的アプローチ. 明石書店, 2012. 他、関係書籍・論文を広く活用する。
履修上の留意事項	・本科目は、小児看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野共通科目（小児看護対象の査定に関する科目）（2 単位）に相当する。

授 業 科 目 名	小児看護学演習Ⅱ	専 門 科 目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	田村 敦子			
到 達 目 標	(1) 小児期の小児期の疾患について、高度看護実践の専門的なケアを提供するための病態生理、検査、診断、治療法（手術療法、薬物療法など）、症状マネジメントについて学ぶ。 (2) 小児期の疾患の病態・治療等を踏まえ、それぞれの疾患を持つ子どもと家族に必要な高度看護実践の専門的なケアについて思考する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：田村敦子（非常勤医師） 矢田ゆかり、門田行史、田島敏広、嶋田明、眞田幸弘、柳橋達彦、薄井佳子 子 （非常勤看護職）：大海佳子、川上直子（小児看護 CNS）、黒田光恵（小児看護 CNS）、川中子知里（小児看護 CNS）、関由希 臨地講義および臨地演習：自治医科大学とちぎこども医療センター（子ども外来、小児急性期病棟、小児外科系病棟、小児慢性期病棟、小児集中治療室（PICU と略）、小児精神病棟）および自治医科大学附属病院総合周産期母子医療センター（産科（新生児室）、新生児集中治療部・新生児回復治療室（NICU・GCU と略）） ○概要：高度看護実践の専門的なケアを提供するために、小児期の疾患、その病態生理、検査、治療法、症状マネジメントについて学び、子ども自身と家族に必要な専門的なケアについて思考する。				
授業内容				
第 1 回	子どもの疾患の診断と治療のプロセス（概要）			田村
第 2 回～第 5 回	新生児期の疾患（ハイリスク児、出生に伴う異常等）の診断、病態生理、治療のプロセス、症状マネジメント（臨地講義・臨地演習） ※NICU・GCU、新生児室での臨地演習			矢田・川中子・田村
第 6 回～第 9 回	子どもの神経疾患の診断、病態生理、治療のプロセス、症状マネジメント（臨地講義・臨地演習）			門田・川上・田村
第 10 回～第 13 回	子どもの内分泌疾患の診断、病態生理、治療のプロセス、症状マネジメント（臨地講義・臨地演習）			田島・川上・田村
第 14 回～第 17 回	子どもの血液・造血器疾患の診断、病態生理、治療のプロセス、症状マネジメント（臨地講義・臨地演習）			嶋田・黒田・田村
第 18 回～第 21 回	手術を要する疾患とその対応（診断、病態生理、治療のプロセス、手術後の対応含む）（臨地講義・臨地演習）			薄井・関・田村
第 22 回～第 25 回	子どもの移植医療とその後の支援（診断、病態生理、治療のプロセス、症状マネジメント）（臨地講義・臨地演習）			眞田・関・田村
第 26 回～第 29 回	子どもの精神疾患・心身医学的問題とその対応（診断、病態生理、治療のプロセス、症状マネジメント）（臨地講義・臨地演習）			柳橋・田村
第 30 回	疾患の診断、治療、症状マネジメントを前提として、疾患を持つ子どもと家族に寄り添った支援について考える（ディスカッション、レポート作成）			田村・大海・黒田
評 価 方 法	プレゼンテーションを含んだ討議内容 50%、課題レポート 50%			
テ キ ス ト	・スバプナ・サブニス 他(著)：小児症候学 89 原著第 2 版，東京医学社，2018。 ・稲毛康司編：症候から入る小児の身体診察。文光堂，2020. 5 ・日本精神神経学会小児精神医療委員会，齊藤 万比古他編：臨床医のための小児精神医療入門。医学書院，2014。 他、関係書籍・論運を広く活用する。			
履修上の留意事項	・本科目は、小児看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野共通科目（小児の病態・治療に関する科目）（2 単位）に相当する。			

授 業 科 目 名	小児看護学演習Ⅲ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	田村 敦子			
到 達 目 標	(1) 高度医療の場における小児看護専門看護師の活動の実際から、高度看護実践活動の課題について思考する。 (2) 高度医療機関周辺地域における小児医療保健福祉の現状を学び、地域における子どもへの高度看護実践と課題について思考する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：田村敦子（非常勤看護職）大海佳子、村山有利子（小児看護 CNS）、川上直子（小児看護 CNS）、黒田光恵（小児看護 CNS）、川中子知里（小児看護 CNS）、関由希 ○概要：高度医療の場における小児看護専門看護師の活動の実際、高度医療機関と地域の連携における小児看護の実際を見学し、そこでの事例を用いて、小児看護実践における課題および高度実践看護師としての援助について思考する。 臨地講義および臨地演習：自治医科大学とちぎこども医療センター（子ども外来、小児急性期病棟、子どもの心の診療科および自治医科大学附属病院総合周産期母子医療センター新生児集中治療部・新生児回復治療室（NICU・GCU と略）、ひばりクリニック（NPO 法人うりずん併設）				
授業内容				
第 1 回～4 回	急性状況にある子どもと家族への支援 臨地演習：小児急性期病棟あるいは NICU・GCU あるいは PICU	村山・川中 子・川上・ 関・田村		
第 5 回～8 回	慢性的な経過をたどる疾患をもつ子どもと家族への支援 臨地演習：NICU・GCU あるいは子ども外来	川中子・黒 田・田村		
第 9 回～12 回	精神・神経症状のある子どもと家族への支援 臨地演習：子ども精神病棟	黒田・田村		
第 13 回～16 回	重症心身障害のある子どもと家族への支援 臨地演習：小児急性期病棟	川上・田村		
第 17 回・18 回	高度医療施設での小児看護専門看護師の活動からみた高度看護実践活動の課題 (学生のプレゼンテーションとディスカッション)	川上・黒田・ 川中子・ 田村・大海		
第 19 回・20 回	高度医療機関と地域の連携—現状と課題（概要）	(講義)	大海・田村	
第 21 回・第 22 回	高度医療機関周辺地域における小児医保健福祉療提供施設の現状と課題 (1) 周辺地域の小児医療保健施設とその連携	(演習)	黒田・田村	
第 23 回	(2) 医療的ケア児の生活と看護在宅移行の実際	(講義)	黒田・田村	
第 24 回・第 25 回	医療的ケア児の在宅での生活の実際	(臨地演習)	黒田・田村	
	臨地演習：ひばりクリニック・うりずん			
第 26 回	医療的ケア児の支援体制の実際	(演習)	黒田・田村	
第 27 回	(3) エンド・オブ・ライフ期の在宅移行と支援 子どものエンド・オブ・ライフ期とその支援	(講義)	黒田・田村	
第 28 回	子どものエンド・オブ・ライフ期の在宅移行の実際	(臨地演習)	黒田・田村	
第 29 回・第 30 回	地域で展開される子どもへの高度看護実践とその課題 (プレゼン、ディスカッション、レポート作成)	黒田・大海・ 田村		
評 価 方 法	プレゼンテーションを含んだ討議内容 50%、課題レポート 50%			
テ キ ス ト	・Mary Fran Tracy 他著、中村美鈴・江川幸二監訳：高度実践看護 統合的アプローチ 第 2 版 (原著第 6 版)、へるす出版、2020. 他、関係書籍・論文を広く活用する。			
履修上の留意事項	・本科目は、小児看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野共通科目（小児看護援助の方法に関する科目）（2 単位）に相当する。			

授 業 科 目 名	小児看護学演習Ⅳ	専 門 科 目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	田村 敦子			
到 達 目 標	(1) 健康な子どもの健康を守る社会のシステムについて理解する。 (2) 子どもを取り巻く社会のサポートシステムを理解する。 (3) 地域で生活する健康な子どもに対する看護支援について理解する。 (4) 地域で生活する疾患を持つ子どもの支援について理解する。 (5) 子どもを取り巻く社会のサポートシステムの中での高度実践看護職の役割について思考する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：田村敦子（非常勤看護職）大海佳子、玉村尚子、田野井寛子 （非常勤医師）河野由美 臨地講義および臨地演習：自治医科大学とちぎこども医療センター（子ども外来、小児急性期病棟、小児外科系病棟、小児慢性期病棟、小児集中治療室（PICU と略）小児精神病棟）および自治医科大学附属病院総合周産期母子医療センター（産科（新生児室）、新生児集中治療部・新生児回復治療室（NICU・GCU と略））（施設見学（幼保連携型こども園第2愛泉幼稚園あるいは国分寺小学校）※獨協大学病院子ども医療センター外来、独立行政法人国立病院機構とちぎ医療センター小児科で演習 自治医科大学こども医療センターおよび総合周産期母子医療センター、獨協医科大学病院とそれぞれの周辺地域 ○概要：子どもを取り巻く社会、保健、医療、福祉、教育等について、小児保健、社会のサポートシステム、地域で生活する健康な子どもについて学んだうえで、その学習を踏まえ、主に地域で生活する子どもの健康問題として、アレルギー疾患、児童虐待、移植医療の3つを取り上げ、実例を通して制度・政策等の理解を深めるとともに、小児看護専門看護師の役割と課題を考察する。				
授業内容				
第 1 回・第 2 回	小児保健学（概論） 小児保健のねらいと意義（子どもの健康、小児保健の歴史と変遷、子どもの健康の維持・増進）	（講義）	河野・田村	
第 3 回・第 4 回	乳幼児健康診査の概要と最近の動向	（講義）	田村	
第 5 回・第 6 回	学校保健の概要と最近の動向	（講義）	田村	
第 7 回・第 8 回	予防接種の概要と最近の動向	（講義）	田村	
第 9 回・第 10 回	子どもを取り巻く社会のサポートシステム ① 子どもを支える主な法律や制度・政策の概要の理解 ② 保健医療、教育、福祉分野におけるサポートシステムの理解	（講義）	田村	
第 11 回	地域で生活する健康な子どもに対する看護支援	（講義）	田村	
第 12 回	地域で生活する健康な子どもに対する看護支援の実際：保育現場あるいは学校現場での看護職のかかわり （施設見学（幼保連携型こども園第 2 愛泉幼稚園あるいは国分寺小学校）、 プレゼン資料準備含む）		田村	
第 13 回	地域で生活する健康な子どもに対する看護支援の課題～高度実践看護職の役割（学生のプレゼンテーションとディスカッション、課題レポートの作成）		田村	
第 14 回	主に地域で生活する子どもの健康問題とその支援体制① アレルギー医療体制と看護職の役割	（講義）	玉村	

第 15 回～ 第 17 回	栃木県におけるアレルギー医療体制とそこでの看護の役割の実際 ～アレルギー専門職（小児アレルギーエデュケーター；PAE）の働きと その育成含む～（臨地での見学とプレゼン資料の作成） ・アレルギー疾患医療拠点病院と看護職の働き ・アレルギー専門医療機関と看護職の働き ・一般病院と看護職の働き ・保育・学校関係での対応と看護職の働き ※臨地演習：独協大学病院子ども医療センター外来、独立行政法人国立 病院機構とちぎ医療センター小児科	玉村・ 田野井・田 村
第 18 回	栃木県におけるアレルギー支援体制の現状と課題～高度実践看護職の役 割（学生のプレゼンテーションとディスカッション、レポートの作成）	玉村・ 田野井・田 村
第 19 回	主に地域で生活する子どもの健康問題とその支援体制② 児童虐待の予防とその対応 児童虐待の予防と早期発見、支援体制の概要（講義）	大海
第 20 回	生体肝移植前における看護職の支援（臨地での見学と臨地講義） 臨地：子ども外来	大海・田村
第 21 回	生体肝移植後における看護職の支援（臨地での見学と臨地講義） 臨地：PICU、小児外科系病棟	大海・田村
第 22 回	生体肝移植前後、その後の長期的支援における看護職の支援 （臨地での見学と臨地講義） 臨地：子ども外来	大海・田村
第 23 回	子どもの移植医療における高度実践看護職の役割（ディスカッション）	大海・田村
第 24 回	児童虐待の予防とその対応 児童虐待の予防と早期発見、支援体制の概要（講義）	大海・田村
第 25 回	医療機関での「虐待を受けている子ども」の早期発見とその後の対応 （臨地（栃木県県南児童相談所）での見学、プレゼン資料の作成）	田村
第 26 回	地域での児童虐待の予防、早期発見、支援の実際	田村
第 27 回	（臨地での見学、プレゼン資料の作成）	田村
第 28 回		田村
第 29 回	栃木県における児童虐待の支援体制の現状と高度実践看護職の役割 （学生のプレゼンテーションとディスカッション、レポートの作成）	田村
第 30 回	子どもを取り巻く社会のサポートシステムの中での高度実践看護職の役割 （学生のプレゼンテーションとディスカッション、レポートの作成）	大海・田村
評 価 方 法	プレゼンテーションを含んだ討議内容 50%、レポート 50%	
テ キ ス ト	・Mary Fran Tracy 他著、中村美鈴・江川幸二監訳：高度実践看護 統合的アプローチ 第 2 版 （原著第 6 版），へるす出版，2020. 他、関係書籍・論文を広く活用する。	
履修上の留意事項	・本科目は、小児看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野共通科目（小児看護援助の 方法に関する科目）（2 単位）に相当する。	

授 業 科 目 名	小児看護学演習Ⅴ	専 門 科 目	1 年次前期	1 単 位
科 目 責 任 者	田村 敦子			
到 達 目 標	小児看護学における研究課題を絞り込むために、自己の研究課題を焦点化し研究課題に取り組むための研究方法を探究する。			
授 業 概 要				
○担当教員名： 田村 敦子 ○概要： 自己の研究課題を焦点化するために、関連論文や文献のクリティークを行い、文献検討を行う。文献検討した結果から、小児看護学における自らの研究課題を明確にし、研究方法を検討する。 学習方法：発表資料を準備し、ゼミ形式で討議する。				
評 価 方 法	授業への取り組み（資料作成や討議内容）50%、課題レポート50%			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項				

授 業 科 目 名	小児看護専門看護実習 I	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	田村 敦子			
到 達 目 標	(1) 小児各期（新生児期、乳・幼児期、学童期、思春期）特有の疾患について、実習指導者（医師）の診断・治療のプロセスの実践の見学を通して学ぶ。 (2) それぞれの疾患に対する実習指導者（医師）の診断と治療のプロセスを踏まえた、病気を持つ子どもと家族に対する小児看護専門看護師の活動について思考する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：田村敦子 実習指導者（医師）：矢田ゆかり、門田行史、田島敏広、嶋田明、眞田幸弘、柳橋達彦、薄井佳子 実習指導者（看護職）：大海佳子、塚田祐子、川上直子（小児看護 CNS）、小畑美加子、菊地純子、築瀬順子、関由希、黒田光恵（小児看護 CNS）、川中子知里（小児看護 CNS） ○概要：高度医療の場において、小児各期（新生児期、乳・幼児期、学童期、思春期）特有の疾患について、実習指導者（医師）の診断・治療のプロセスの実践の見学を通して学び、それぞれの疾患に対する実習指導者（医師）の診断と治療のプロセスを踏まえた、病気を持つ子どもと家族に対する小児看護専門看護師の活動について思考する。 ○実習場所：自治医科大学とちぎ子ども医療センター、自治医科大学附属病院総合周産期母子医療センター ○実習期間：1 年次後期（後半）2 週間以上（開始と終了については、実習状況により調整） ○実習方法： (1) 小児各期（新生児期、乳・幼児期、学童期、思春期）特有の疾患について、実習指導者（医師）の診断・治療のプロセスの実践の見学を通して学ぶ。 小児各期（新生児期、乳・幼児期、学童期、思春期）それぞれ特有の疾患を持つ子どもをケースとして受け持ち、実習指導者（医師）の診察、検査の実施、その結果、治療のプロセスを見学、確認し、レポートを作成する。 (2) 小児期特有の疾患について、実習指導者（医師）の診断・治療のプロセスの実践の見学を通して学ぶ。 小児期特有の疾患（神経疾患、内分泌疾患、血液疾患、移植、外科疾患等）を持つ子どもをケースとして受け持ち、実習指導者（医師）の診察、検査の実施、その結果、治療のプロセスを見学、確認し、レポートを作成する。 ※受け持ちケースは実習指導者（医師）に紹介してもらうが、その後の診断経過、治療のプロセス等は、実習指導者（看護職、小児看護 CNS）の調整を受けて、実習していく。 (3) それぞれの疾患に対する実習指導者（医師）の診断と治療のプロセスを踏まえ、病気を持つ子どもと家族に対する小児看護専門看護師の活動について思考する。 個々のケースを受け持った際に指導を担当した実習指導者（看護職、小児看護 CNS）と担当教員とのディスカッションを通して、小児看護専門看護師としての活動について思考する。また、実習指導者（看護職、小児看護 CNS）、担当教員と最終カンファレンスを開催し、意見交換する。 ※1：受け持つケースについては、学生のそれまでの臨床経験を踏まえ、時々の臨床状況に応じて、実習指導者（医師）と相談の上、決定する。 ※2：受け持つケースの時期（小児期各期）、疾患（急性期、慢性期等）は、学生の臨床経験を踏まえたうえで、また、学生の学びの段階に合わせ、学び全体のバランスも考慮した上で、学生、実習指導者（看護職、小児看護 CNS）、担当教員が話し合い、決定する。 ※3：レポートは 10 例以上作成する。受け持ちケースを受け持ち状況により、それ以上例数受け持つことがある。 ※4：実習の途中経過においては、実習指導者（看護職、小児看護 CNS）、担当教員によるスーパーバイズを受けるとともに、ケースカンファレンスを開催して、広く意見をディスカッションする。				
評 価 方 法	実習への取り組み 50 %、課題レポート 50 %			
テ キ ス ト	適宜提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、小児看護専門看護師教育課程（38 単位）の小児の病態・治療に関わる実習科目（2 単位）に相当する。			

授 業 科 目 名	小児看護専門看護実習Ⅱ	専門科目	2 年次通年	8 単位
科 目 責 任 者	田村 敦子			
到 達 目 標	(1) 看護提供に困難を来している患児/親/家族に対して、必要なヘルスアセスメントを行い、生じている困難を分析する。 (2) (1) の分析結果から、看護計画を立案し、問題解決に向けて、周囲を巻き込んだケアを実践する。 (3) 受け持った患児/親/家族に必要な調整・倫理調整を実践する。 (4) 関わるスタッフに対してコンサルテーション、教育を実践する。 (5) 実習を通して、病気を持つ子どもと家族に対する小児看護専門看護師としての活動について思考する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：田村敦子 実習指導者（看護職）：大海佳子、塚田祐子、川上直子（小児看護 CNS）、小畑美加子、菊地純子、築瀬順子、関由希、黒田光恵（小児看護 CNS）、川中子知里（小児看護 CNS）、佐藤ひさ代（母性看護 CNS）、玉村尚子、田野井寛子（小児看護 CNS） 実習指導者（医師）：門田行史、田島敏広、嶋田明、眞田幸弘、柳橋達彦、薄井佳子 ○概要：看護提供に困難を来している患児/親/家族に対して、必要なヘルスアセスメントを行い、生じている困難を分析し、その結果から看護計画を立案し、問題解決に向けて、周囲を巻き込んだケアを実践する。必要時、調整・倫理調整を実践する。また、関わるスタッフに対してコンサルテーション、教育を実践する。実習を通して、病気を持つ子どもと家族に対する小児看護専門看護師としての活動について思考する。 ○実習場所：自治医科大学とちぎ子ども医療センター、自治医科大学付属病院総合周産期母子医療センター、獨協医科大学病院、周辺地域、関連施設 ○実習期間：2 年次前期 8 週間以上（開始と終了については、実習状況により調整） ○実習方法： (1) 看護提供に困難を来している患児/親/家族に対して、必要なヘルスアセスメントを行い、生じている困難を分析する。 (2) (1) の分析結果から、看護計画を立案し、自ら高度看護実践として介入する。 (3) 受け持った患児/親/家族に必要な調整・倫理調整を実践する。 (4) 関わるスタッフに対してコンサルテーション、教育を実践する。 (5) 実習を通して、病気を持つ子どもと家族に対する小児看護専門看護師としての活動について思考する。 ※1：受け持つケースについては、学生のそれまでの臨床経験、実習Ⅰでの受け持ちケースの状況も踏まえ、時々々の臨床状況に応じて、学生の意向を確認し、実習指導者（医師）、実習指導者（看護職、小児看護 CNS）、担当教員と相談の上、決定する。 ※2：受け持つケースの時期（小児期各期）、疾患（急性期、慢性期等）、家族の状況等は、学生の臨床経験を踏まえ、また、学生の学びの段階に合わせ、学び全体のバランスも考慮した上で、学生、実習指導者（医師）、実習指導者（看護職、小児看護 CNS）、担当教員が話し合い、調整する。 ※3：実習場所については、成人系の病棟、退院先等、ケースの状況により多様に考え、学生が交渉する。必要時、実習指導者（看護職、小児看護 CNS）、担当教員がサポートする。 ※4：レポートは実践機能（直接的ケア）5 例以上、コンサルテーション・調整・倫理調整・教育について各 2 事例以上作成する。受け持ちケースを受け持ち状況により、それ以上例数受け持つことがある。 ※5：実習の途中経過においては、実習指導者（看護職、小児看護 CNS）、担当教員によるスーパーバイズを受けるとともに、ケースカンファレンスを開催して、広く意見をディスカッションする。				
評 価 方 法	実習への取り組み 30 %、課題レポート 70%			
テ キ ス ト	適宜提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、小児看護専門看護師教育課程（38 単位）の高度実践者としての役割に関する実習科目（8 単位）に相当する。			

授 業 科 目 名	小児看護学課題研究	専門科目	2 年次後期 4 単位
科 目 責 任 者	田村 敦子		
到 達 目 標	講義・演習・専門看護実習をとおして見出された看護実践上の課題について、取得を目指す小児看護専門看護師の役割の遂行に寄与する研究を行い、研究指導を受けて修士論文を作成する。		
授 業 概 要			
○研究指導教員名： ○研究指導補助教員名：田村敦子 ○概要： 入学時から各学生の関心のある研究課題について検討し、選択した領域の授業科目などにおいて、研究指導教員の指導を受けて実施可能なテーマを決定し、研究指導を受けて、修士論文を作成する。 ○方法 研究指導は、小児看護専門看護実習の指導者による研究課題に関する直接的助言とともに、個別指導や領域内で開催される少人数指導によって行う。 小児看護専門看護師過程の終了を目指す学生が、小児看護専門看護実習で担当した患者、家族または集団、看護職を含むケア提供者や保健医療福祉に携わる人々を対象として、直接的ケア、相談、調整、倫理調整、教育、研究のうち、いずれか、またはいくつかの役割に焦点を当てて、看護実践の質の維持・向上に寄与する課題を設定する。設定したテーマに関する研究活動を展開し、研究指導を受けて、修士論文を作成する。			
評 価 方 法	修士論文の研究課題に関する研究活動の展開、論文執筆などの研究活動の経過（60％）及びその内容（40％）		
テ キ ス ト	指定しない		
履修上の留意事項	本科目を履修する場合、必ず「小児看護専門看護実習」の全科目を履修しなければならない。		

授 業 科 目 名	小児看護学特別演習	専 門 科 目	2 年次前期	4 単 位
科 目 責 任 者	田村 敦子			
到 達 目 標	小児看護学講義Ⅰ・Ⅱおよび小児看護学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの学修を発展させ、小児看護における現状を分析して課題を見出す。その課題の改善・改革の方法について明らかにする。			
授 業 概 要				
○担当教員名： 田村 敦子 ○概要： これまでの講義・演習の学修を通して見出された課題・探究の方法等を参考に、子どもと家族を対象とした小児看護活動の場に参加し、小児看護学の課題を見出すとともに、文献検討、演習などを行い、その課題の改善・改革の方法を検討し、自分自身の研究課題を明らかにする。 学習方法：演習 演習先は、院性それぞれが持つ課題に応じて、担当教員と相談しながら決定する。				
評 価 方 法	レポート			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	・小児看護学講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、小児看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで学んだ内容を統合しながら、自らが考える研究課題について文献検討を行い授業に臨む。 ・明らかになった研究課題について実践看護学研究に繋げていけるように準備を進めていく。			

授 業 科 目 名	母性看護学講義Ⅰ（令和6年度以降の入学生対象）	専 門 科 目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	角川 志穂			
到 達 目 標	(1)周産期にある母子と家族の状況を理解するための諸理論（愛着理論や親役割理論、発達危機理論、人間関係論）を理解できる。 (2)周産期にある母子とその家族の状況と健康問題について、関連する知識（生殖内分泌学的知識、周産期医学知識、遺伝学的知識）の理解に基づき思考できる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：角川 志穂、川野 亜津子 ○概要：周産期にある母子と家族の状況を理解するための諸理論（愛着理論や親役割理論、発達危機論、人間関係論等）の理解および関連する知識（生殖内分泌学的知識、周産期医学知識、遺伝学的知識）の理解を通して、周産期にある母子とその家族の状況と健康問題について思考する。				
授業内容				
第 1 回～第 2 回	母親役割取得過程の諸理論の理解（愛着理論を含む）			（角川）
第 3 回～第 4 回	父親役割取得過程の諸理論の理解			（角川）
第 5 回～第 6 回	家族看護学の諸理論の理解			（角川）
第 7 回～第 8 回	人間関係論の理解—家族内の人間関係に焦点を当てて			（角川）
第 9 回～第 10 回	発達危機理論の理解			（角川）
第 11 回	生殖内分泌学に関する基礎的知識			（川野）
第 12 回～第 13 回	周産期医学に関する基礎的知識			（川野）
第 14 回～第 15 回	周産期・周生期における遺伝学と遺伝看護学の最新情報			（角川）
評 価 方 法	参加・討議内容（プレゼン含む）70％，課題レポート 30％			
テ キ ス ト	参考書として以下を提示 ・ルヴァ・ルービン；新道幸恵・後藤桂子訳：母性論．医学書院，1997. ・Romona T. Mecer：Becoming A Mother．Springer Publishing Company, 1995. ・鈴木和子，渡辺裕子：家族看護学—理論と実践，第5 版，日本看護協会出版会，2019. ・柏木恵子：家族心理学—社会変動・発達・ジェンダーの視点．東京大学出版会，2003. ・中込さと子監修：基礎から学ぶ遺伝看護学．羊土社，2019. 他、専門誌からの論文を中心とし、必要時提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野共通科目「周産期にある母子とその健康問題の理解に関する科目」（2 単位）に相当する。事前準備として、母性看護学における諸理論や、生殖内分泌学・周産期医学・遺伝看護学に関する基礎的知識について学習して臨むこと。事後課題については諸理論を活用した文献や遺伝疾患等の文献について調べ、課題レポートを作成し学びを深めること。			

授 業 科 目 名	母性看護学講義Ⅱ（令和6年度以降の入学生対象）	専 門 科 目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	角川 志穂			
到 達 目 標	(1)ハイリスク状態にある母子と家族に関する諸理論、周産期の心理的問題・社会的問題を理解し、必要な援助について思考できる。 (2)周産期ケアに関連する最新エビデンスを獲得する方法を学び、その適用について思考できる。 (3) 母子保健行政、周産期における医療の質と安全、周産期ケアシステムとその組織化に関する理論などについて理解し、母子と家族を支える社会的なシステムについて思考できる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：角川 志穂、川野 亜津子 新井 陽子・中込 さと子（非常勤） ○概要：ハイリスク状態にある母子と家族に関する諸理論、周産期特有の心理社会的問題を理解し、必要な援助について思考する。周産期医療ケアに関連する最新エビデンスを獲得する方法を学び、その適用について思考する。また、母子保健行政、周産期における医療の質と安全、周産期ケアシステムとその組織化に関する理論などについて理解し、母子と家族を支える社会的なシステムについて思考する。				
授業内容				
第 1 回～第 2 回	ハイリスク状態にある母子と家族に対する危機理論、ストレス・コーピング理論等の適応		川野	
第 3 回～第 4 回	周産期のメンタルヘルスの評価とその支援		新井	
第 5 回～第 6 回	ペリネイタルロスとその支援		角川	
第 7 回～第 8 回	遺伝看護学の展開と遺伝カウンセリングの実際		中込	
第 9 回	最新の産婦人科ガイドラインを活用した妊産婦への支援		角川・川野	
第 10 回	妊娠高血圧症候群の診療指針を活用した妊産婦への支援		角川・川野	
第 11 回	妊婦の糖代謝異常 診療・管理マニュアルを活用した妊産婦への支援		角川・川野	
第 12 回～第 13 回	母子保健行政の仕組みと課題		川野	
第 14 回～第 15 回	周産期における医療の質と安全ー助産マネジメントの視点から		角川	
評 価 方 法	参加・討議内容（プレゼン含む）70%，課題レポート 30%			
テ キ ス ト	参考書として以下を提示。 ・Elizabeth S. Gilbert RNC MS FNPc: Manual of High Risk Pregnancy and Delivery, 5nd edi. Mosby, 2010. ・Elizabeth S. Gilbert & Judith S. Harmon ; 加納尚美・吉野八重・野田直子訳：ハイリスク妊娠・出産看護マニュアル1，2，3. じほう, 2005. ・日本産婦人科医会編：妊産婦メンタルヘルスケアマニュアル. 2017. ・岡野禎治他編：クロストークから読み解く周産期メンタルヘルス. 南山堂, 2016. ・山中美知子編：赤ちゃんを亡くした女性への看護. メディカ出版, 2009. ・産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023, 日本産科婦人科学会, 2023. ・成田伸：助産師基礎教育テキスト第3巻助産管理/医療の質と安全. 第3版, 日本看護協会出版会, 2024. 他、専門誌からの論文を中心とし、必要時提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野共通科目「周産期にある母子の援助に関する科目」（2 単位）に相当する。事前準備として諸理論や各種ガイドライン、母			

	子保健の行政の仕組みについて学習をして授業に臨むこと。遺伝看護については事前課題を提示するので取り組んだ上で臨むこと。事後の課題については、演習で学んだ内容をもとに自身関わった事例について課題レポートを作成し、学びを深めること。
--	---

授 業 科 目 名	母性看護学講義Ⅲ（令和6年度以降の入学生対象）	専 門 科 目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	川野 亜津子			
到 達 目 標	(1)ウィメンズヘルスケアの展開に必要な基本的概念を理解できる。 (2)女性のライフステージ各期における健康問題を診断するために必要な知識（生殖内分泌学、性感染症、ホルモン治療、受胎調節等）の最新情報について理解できる。 (3)各ライフステージにある女性の健康問題の特性について理解できる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：川野亜津子、角川志穂 左勝則（自治医科大学医学部医師）・大橋麻衣（自治医科大学医学部医師） 堀江健司（自治医科大学医学部医師）・村井文江（常磐大学看護学部母性看護学教授）・河野禎之（筑波大学人間系助教）（非常勤） ○概要：ウィメンズヘルスケアにおける基本的概念、生殖内分泌学、性感染症、女性医療とホルモン剤使用等の最新情報を理解したうえで、各ライフステージにある女性の健康問題について理解する。				
授業内容				
第 1 回～第 2 回	ウィメンズヘルスケアにおける基本的概念（リプロダクティブヘルス/ライツ、性差医療、女性総合医療等）の理解			（川野）
第 3 回～第 4 回	女性医療の基礎となる生殖内分泌学の最新知識			（左、川野）
第 5 回～第 6 回	女性医療に用いられるホルモン剤使用等の基礎知識（不妊治療等）			（大橋、川野）
第 7 回～第 8 回	性感染症の疫学・病態生理と感染の成立の理解			（堀江、川野）
第 9 回～第 10 回	思春期における健康問題および健康教育の現状と課題			（村井）
第 11 回～第 12 回	多様なジェンダー・アイデンティティを持つ女性の理解と支援			（河野、川野）
第 13 回	成熟期女性における健康問題の特性			（川野、角川）
第 14 回	更年期女性における健康問題の特性			（川野、角川）
第 15 回	老年期女性における健康問題の特性			（川野、角川）
評 価 方 法	参加・討議内容（プレゼン含む）70%，課題レポート30%			
テ キ ス ト	参考資料 産婦人科診療ガイドライン産科編：日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会編集・監修，2023. ／性感染症診断・治療ガイドライン：日本性感染症学会，最新号. ／生殖医療ガイドライン：日本生殖医学会編集・監修，2021. ／基礎から学ぶ女性医学：水沼英樹著，診断と治療社，2020. 他、適宜提示する			
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野共通科目「女性のライフサイクル全般にわたる個及び集団とその健康問題の理解に関する科目」（2 単位）に相当する。事前準備は授業各回に沿って基本的知識を学んでいくこと。事後の課題については、毎回提示する。			

授 業 科 目 名	母性看護学講義Ⅳ（令和6年度以降の入学生対象）	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	川野 亜津子			
到 達 目 標	(1)思春期から更年期までの対象者の健康問題を支援するために必要な、生殖内分泌学、性感染症、ホルモン治療、受胎調節等における看護の最新情報について理解できる。 (2)各ライフステージにある女性の健康問題への看護支援を理解できる。 (3)ウィメンズヘルスケアシステムとその組織化に関する理論、生涯を通じた女性の健康を守る保健施策、男女共同参画社会政策など、女性の健康問題への支援としての諸制度や社会システムを学ぶことができる。 (4)最新の研究成果の女性の保健・医療への適用について理解できる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：川野亜津子、角川志穂 鈴木幸子（埼玉県立大学母性看護学教授）・坂上明子（武蔵野大学母性看護学教授）（非常勤） ○概要：最新の研究成果の女性の保健・医療への適用、ウィメンズヘルスケアシステムとその組織化に関する理論、生涯を通じた女性の健康を守る保健施策、男女共同参画社会政策など、女性の健康問題への支援としての諸制度や社会システムを学ぶことを通して、女性のライフステージ全般にわたる援助について思考する。				
授業内容				
第 1 回～第 2 回	性感染症の検査・治療・予防への支援におけるウィメンズヘルスケアへの適用			（川野）
第 3 回～第 4 回	受胎調節（避妊（不妊手術含む）・妊娠・中絶）における看護支援			（鈴木）
第 5 回～第 6 回	不妊治療の実際と看護支援			（坂上）
第 7 回～第 8 回	思春期にある女性の健康問題への対応：PMS、PMDD などの月経障害に関する支援、プレコンセプション・ケアの実際			（川野）
第 9 回～第 10 回	成熟期にある女性の健康問題への対応：子宮頸がん、乳がん			（川野）
第 11 回	更年期にある女性の健康問題への対応：骨粗しょう症、尿失禁、子宮体がん			（川野）
第 12 回～第 13 回	最新の研究成果の女性の保健・医療への適用（診療ガイドラインの活用を含む）			（川野、角川）
第 14 回～第 15 回	各ライフステージにある女性の健康問題に対する保健施策、男女参画社会政策、女性医療ケアシステムの組織化等の理解			（川野）
評 価 方 法	参加・討議内容（プレゼン含む）70%，課題レポート 30%			
テ キ ス ト	参考資料 産婦人科診療ガイドライン産科編：日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会編集・監修，2023. ／性感染症診断・治療ガイドライン：日本性感染症学会，最新号. ／生殖医療ガイドライン：日本生殖医学会編集・監修，2021. ／基礎から学ぶ女性医学：水沼英樹著，診断と治療社，2020. 他、適宜提示する			
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野共通科目「女性のライフサイクル全般にわたる援助に関する科目」（2 単位）に相当する。事前準備は授業各回の授業内容に沿って、基本的知識を学んでくること。事後の課題については、毎回提示する。			

授 業 科 目 名	母性看護学演習Ⅰ（令和6年度以降の入学生対象）	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	角川 志穂			
到 達 目 標	(1) 母子とその家族の健康の維持・増進、正常から逸脱した対象者へのケアの実際について学び、症状のアセスメントに基づき、ケースの状況・診断・治療に応じた支援について考察できる。 (2) 周産期の母子に対する基礎的なフィジカルアセスメント能力を養うことができる。 (3) プライマリーケア、院内における助産システム、地域での母子とその家族への支援方法、病院から地域に母子と家族をつなぐシステム等を理解できる。 (4) 上記を総合して、高度看護実践の基盤となる母子とその家族への包括的なアセスメントに必要な能力を養うことができる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：角川志穂、川野亜津子 長坂桂子・立木歌織・佐藤ひさ代・小田郁代・小嶋由美・藤川智子（非常勤） ○概要：母子とその家族の健康の維持・促進、正常から逸脱した対象者へのケアの実際について学び、症状のアセスメントに基づき、ケースの状況・診断・治療に応じた支援について考察する。 また、プライマリーケア、院内における助産システム、地域での母子とその家族の支援方法、病院から地域に母子と家族をつなぐシステム等を理解して、高度看護実践の基盤となる母子と家族の包括的なアセスメントに必要な能力を養う。				
授業内容				
第 1 回～第 2 回	周産期における母子と家族の包括的アセスメント			(角川)
第 3 回～第 7 回	ハイリスク母子と家族に対する妊娠中から育児期までの調整の実際 (スタッフや組織に対するコンサルテーションや教育的役割を含む)			(長坂)
第 8 回～第 9 回	二次医療機関が担う地域での母子支援とその調整			(立木)
第 10 回～第 11 回	三次医療機関における他部門・多職種との連携の実際			(佐藤・角川)
第 12 回～第 13 回	周産期におけるプライマリーケアの立ち上げと看護職への教育			(小田・角川)
第 14 回～第 18 回	助産師外来における包括的アセスメントの実際 (問診、フィジカルアセスメントを含む)			(小嶋)
第 19 回～第 20 回	助産師外来と院内助産を活用した妊娠期から出産期にかけての プライマリーケアの実際 (ハイリスク妊産褥婦を含む)			(小嶋)
第 21 回～第 24 回	地域における訪問を活用した母子と家族のアセスメントと支援 ー新生児訪問等の臨床現場における演習を通して体験的に学ぶー			(藤川・角川)
第 25 回～第 26 回	地域における小集団を活用した母子や女性への支援方法			(角川)
第 27 回～第 28 回	病院から地域に母子と家族をつなぐシステムの実例ー「母子のための 地域包括ケア病棟」推進に向けた手引きの理解ー			(立木・川野)
第 29 回～第 30 回	自施設における組織・システム改善に向けた課題と対応策の検討			(川野)
評 価 方 法	参加・討議内容（プレゼン含む）70%，課題レポート 30%			
テ キ ス ト	参考書として以下を提示。 ・Tekoa King et.al：Varney’s Midwifery, Fifth edi. Jones & Bartlett Publishers, 2013. ・進純郎，高木愛子：助産外来の健診技術. 医学書院，2010. ・進純郎，堀内成子：正常分娩の助産術ートラブルへの対応と会陰裂傷縫合. 医学書院，2010. ・宮原富士子，松本佳代子，柴田ゆうか：女性の健康支援；薬局，2009 年 11 月臨時増刊号.			

	60 巻，南山堂，2009. 他、専門誌からの論文を中心とし、必要時提示する。
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野専門科目（2 単位）に相当する。事前準備として母性看護専門看護師に必要な6つの機能について学習をした上で授業に臨むこと。事後課題については、演習での学びから母性看護専門看護師としての在り方や病院や診療所、地域との連携について課題レポートを作成し、探求すること。

授 業 科 目 名	母性看護学演習Ⅱ（令和6年度以降の入学生対象）	専 門 科 目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	川野 亜津子			
到 達 目 標	(1) 女性の健康問題及び心理的問題・精神疾患の理解と看護介入について思考できる。 (2) 女性医療における教育的機能の発揮、および組織的活動、多職種連携のための能力を養うことができる。 (3) 社会的ハイリスクにある女性と家族の理解と支援、及び倫理的課題について思考できる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：川野亜津子、角川志穂 家吉望み（東京有明医療大学母性看護学准教授）・臼井いづみ（千葉大学看護学部特任講師）・小嶋由美（ことり助産院院長、母性看護専門看護師）・立木歌織（利根中央病院母性看護専門看護師）・佐藤ひさ代（自治医科大学附属病院母性看護専門看護師）・綿谷恵子（筑波大学附属病院精神看護専門看護師）・儀宝由希子（Women's Health & Family NP）（非常勤） ○概要：心理・社会的ハイリスク状態にある女性のスクリーニング、看護介入、組織的な支援について思考する。女性医療における教育的機能の発揮、および組織的活動、多職種協働のための能力を養う。社会的ハイリスクにある女性と家族における倫理的課題の検討について思考する。それらを通し、女性の健康におけるヘルスケアシステムを多面的に捉え、今後のわが国におけるヘルスケアシステムのあり方をウィメンズヘルスの視点から探求する。				
授業内容				
第1回～第5回	女性の健康支援に関わる最新情報の探索		(川野)	
第6回～第8回	DV／虐待のハイリスク状態にある女性と家族のスクリーニングとその支援		(家吉・川野)	
第9回～第10回	ヘルスケアチームにおける多職種連携の実際		(臼井)	
第11回・第12回	女性医療における医療システムの充実・発展：組織的活動における母性看護専門看護師の役割		(川野・小嶋・立木)	
第13回・第14回	女性医療における医療システムの充実・発展：多職種協働における母性看護専門看護師の役割		(川野・小嶋・立木)	
第15回・第16回	女性医療・ウィメンズヘルスにおける母性専門看護師としての教育的機能：女性医療における母性専門看護師の役割		(川野・小嶋・佐藤)	
第17回～第18回	女性医療・ウィメンズヘルスにおける母性専門看護師としての教育的機能：地域に生活する女性たちの健康支援における母性看護専門看護師の役割		(川野・小嶋・佐藤)	
第19回～第22回	高度先進医療を受ける女性と家族の理解および支援		(川野)	
第23回	心理的問題・精神疾患をもつ女性の支援：思春期にある女性への支援		(綿谷・川野)	
第24回	心理的問題・精神疾患をもつ女性の支援：性成熟期にある女性への支援		(綿谷・川野)	
第25回	心理的問題・精神疾患をもつ女性の支援：更年期にある女性への支援		(綿谷・川野)	
第26回	Women's Health & Family NP による女性の健康支援に関する活動の実際：思春期にある女性への支援		(儀宝)	
第27回	Women's Health & Family NP による女性の健康支援に関する活動の実際：性成熟期にある女性への支援		(儀宝)	
第28回	Women's Health & Family NP による女性の健康支援に関する活動の実際：更年期にある女性への支援		(儀宝)	
第29回～第30回	社会的ハイリスクにある女性と家族における倫理的課題の検討		(川野、角川)	

評 価 方 法	参加・討議内容（プレゼン含む）70%，課題レポート 30%
テ キ ス ト	参考書として以下を提示。 ・伏木信次：生命倫理と医療倫理（第4版）. kinpodo, 2020. ・小川たまか他著：災害と性暴力. 日本看護協会出版会, 2023. 他、専門誌からの論文を中心とし、必要時提示する。
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野専門科目（2 単位）に相当する。事前準備は授業各回の内容に沿って、基本的知識を学んでくること。事後の課題は毎回提示する。

授 業 科 目 名	母性看護学演習Ⅲ（令和5年度までの入学生対象）	専 門 科 目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	角川 志穂			
到 達 目 標	(1) 周産期において正常経過から逸脱した対象者についての産科学的診断・治療の実践について学び、症状アセスメントの技能を高めると共に、ケースの状況・診断・治療に応じた看護的な支援について思考できる。 (2)周産期における正常経過から逸脱した対象者へのケアについて、それぞれのエビデンスの臨床への適用について思考し、根拠に基づいた高度な看護介入の実践における産科医師との協働について思考できる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：角川 志穂、川野 亜津子、倉科 智行 桑田知之・高橋宏典・鈴木寛正（非常勤） ○概要：周産期において正常経過から逸脱した対象者についての産科学的診断・治療の実践について学び、症状アセスメントの技能を高めると共に、ケースの状況・診断・治療に応じた看護的な支援について思考する。周産期における正常経過から逸脱した対象者へのケアについて、それぞれのエビデンスの臨床への適用について思考し、根拠に基づいた高度な看護介入の実践における産科医師との協働について思考する。				
授業内容				
第 1 回～第 5 回	周産期における超音波診断の実践（妊娠期に胎児異常が指摘されている事例を中心に、その実践を理解する）			（桑田）
第 6 回	超音波診断結果によりリスクを指摘された妊産婦へのケア			（角川）
第 7 回～第 9 回	ハイリスク妊産婦の産科学的診断・治療の実践(1)（切迫流早産）			（高橋）
第 10 回	ハイリスク妊産婦の症状アセスメントとケア(1)（切迫流早産）			（角川）
第 11 回～第 13 回	ハイリスク妊産婦の産科学的診断・治療の実践(2)（妊娠高血圧症候群、HELLP 症候群等）			（鈴木）
第 14 回	ハイリスク妊産婦の症状アセスメントとケア(2)（妊娠高血圧症候群、HELLP 症候群等）			（角川）
第 15 回～第 16 回	ハイリスク妊産婦の産科学的診断・治療の実践(3)（妊娠糖尿病）			（倉科）
第 17 回～第 20 回	ハイリスク妊産婦の症状アセスメントとケア(3)（妊娠糖尿病）			（角川）
第 21 回～第 22 回	周産期における性感染症の診断・治療・看護・予防への支援の実践			（角川）
第 23 回～第 24 回	周産期における受胎調節への支援の実践			（角川）
第 25 回～第 30 回	周産期における診療ガイドラインの活用（NICE、産婦人科診療ガイドライン-産科編、助産所業務ガイドライン等を読み解く）			（角川・川野）
評 価 方 法	参加・討議内容（プレゼン含む）70%，課題レポート30%			
テ キ ス ト	参考資料 Tina Moore : High Risk Maternity Care. Routledge, 2014. Tekoa King 他著：Varney’s Midwifery , 5 版, Jones & Bartlett Pub, 2013. 産婦人科診療ガイドライン産科編：日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会編集・監修，最新号．／性感染症診断・治療ガイドライン：日本性感染症学会，最新号．／助産業務ガイドライン：社団法人日本助産師会，最新号．／周産期管理：池ノ上克著，メディカ出版，2009．他、適宜提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野専門科目「周産期看護に関する科目」（2 単位）に相当する。事前準備として、各担当教員より提示された事例について情報収集、アセスメントを行い看護や治療の方向性についてまとめた上で演習に臨むこと。事			

	後課題としては、演習での学びをもとに事前に立案した看護や治療について見直し、課題レポートを作成すること。
--	--

授 業 科 目 名	母性看護学演習Ⅲ（令和6年度以降の入学生対象）	専 門 科 目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	角川 志穂			
到 達 目 標	(1) 周産期において正常経過から逸脱した対象者についての産婦人科学からみた診断・治療の考え方について理解できる。 (2) 医師および他職種との協働を踏まえ、ケースの状況・診断・治療に応じた看護的な支援について思考できる。 (3) 周産期における正常経過から逸脱した対象者のケアについて現時点でのエビデンスを確認し、根拠に基づいた高度な看護介入の実践における産科医師との協働について思考できる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：角川志穂、川野亜津子 桑田知之・高橋宏典・小古山学・鈴木寛正・倉科智行・成田伸（非常勤） ○概要：周産期において正常経過から逸脱した対象者についての産婦人科学からみた診断・治療の考え方について理解する。また、医師および他職種との協働を踏まえ、ケースの状況・診断・治療に応じた看護的な支援について思考する。さらに、周産期における正常経過から逸脱した対象者のケアについて現時点でのエビデンスを確認し、根拠に基づいた高度な看護介入の実践について思考する。				
授業内容				
第1回～第2回	自治医科大学総合母子医療センターおよびさいたま医療センターにおける各県内での役割と機能の実際 ー多機関協働の実際ー		(桑田・角川)	
第3回～第4回	三次医療機関および二次医療機関における正常から逸脱した妊産婦への対応 ー医師および他職種との協働を踏まえてー		(桑田・角川)	
第5回～第6回	超音波診断の手法と診断の実際 ー超音波外来での実際ー		(高橋・角川)	
第7回～第8回	胎児異常が指摘された妊産婦への対応 ー事例検討ー		(高橋・角川)	
第9回～第10回	切迫流産の診断・治療の実際		(小古山・角川)	
第11回～第12回	切迫流産を繰り返す妊産婦への対応 ー事例検討ー		(小古山・角川)	
第13回～第14回	妊娠高血圧症候群の診断・治療の実際 ー妊娠高血圧外来での実際ー		(鈴木・角川)	
第15回～第16回	妊娠高血圧症候群と診断された妊産婦への対応 ー事例検討ー		(鈴木・角川)	
第17回～第18回	糖代謝異常のある妊産婦の診断・治療の実際		(倉科)	
第19回～第20回	糖代謝異常のある妊産婦への対応 ー内分泌代謝外来での実際ー		(倉科)	
第21回～第22回	糖代謝異常のある妊産婦のアセスメントとケア ー事例検討ー		(成田)	
第23回～第24回	糖代謝異常のある褥婦のアセスメントとケア ー事例検討ー		(成田)	
第25回～第26回	不育症と診断された女性への対応 ー抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の診療ガイドラインの活用と他職種協働の実際ー		(角川・川野)	
第26回～第27回	メンタルヘルスに課題のある妊産婦への対応 ー周産期メンタルヘルスコンセンサスガイドの活用と他職種協働の実際ー		(角川・川野)	
第28回～第29回	DV 疑いのある妊産婦への対応 ーEBM の手法による周産期ドメスティック・バイオレンス支援ガイドラインの活用と他職種協働の実際ー		(角川・川野)	
第30回	心疾患のある妊産婦への対応 ー心疾患患者の妊娠・出産の適応、管理に関するガイドラインの活用と他職種協働の実際ー		(角川・川野)	
評 価 方 法	参加・討議内容（プレゼン含む）70%，課題レポート30%			
テ キ ス ト	参考資料 Tina Moore : High Risk Maternity Care. Routledge, 2014. Tekoa King 他著 : Varney’s Midwifery , 5 版, Jones & Bartlett Pub, 2013. 産婦人科診療ガイドライン産科編：日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会編集・監修，最新号．／性感染症診断・治療ガイドライン：日本性感染症学会，最新号．／助産業務ガイド			

	ライン：社団法人日本助産師会，最新号． 他、適宜提示する。
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野専門科目（2 単位）に相当する。事前準備として、各担当教員より提示された事例について情報収集、アセスメントを行い看護や治療の方向性についてまとめた上で演習に臨むこと。事後課題としては、演習での学びをもとに事前に立案した看護や治療について見直し、課題レポートを作成すること。

授 業 科 目 名	母性看護学演習Ⅳ（令和6年度以降の入学生対象）	専 門 科 目	1・2年次後期	4単位
科 目 責 任 者	川野 亜津子			
到 達 目 標	母性看護学分野に関する文献検討、自らの関心領域の探求を踏まえて研究課題を焦点化し、研究計画書、研究倫理審査申請資料の作成までの一連のプロセスを理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：川野亜津子、角川志穂 ○概要：母性看護学分野に関連する文献検討、自らの関心領域の探求を踏まえて研究課題を焦点化し、研究計画書、研究倫理審査申請資料の作成までの一連のプロセスを学修する。				
授業内容				
第1回	オリエンテーション			(川野・角川)
第2回～第10回	受講生の母性看護学に関する実践経験・関心領域を踏まえた研究テーマの焦点化			(川野・角川)
第11回～第20回	受講生の研究テーマに関連する先行文献の収集（クリティーク含む）			(川野・角川)
第21回～第30回	先行文献を踏まえた研究テーマの再検討			(川野・角川)
第31回～第40回	研究テーマ・目的の設定と、それを明らかにするための研究方法の検討			(川野・角川)
第41回～第50回	研究計画書の作成方法			(川野・角川)
第51回～第60回	研究倫理審査申請資料の作成方法（研究方法における倫理的課題についての検討を含む）			(川野・角川)
評 価 方 法	参加・討議内容（プレゼン含む）80%，課題レポート20%			
テ キ ス ト	指定しない。広く資料や文献を活用する。			
履修上の留意事項	事前準備については授業各回の内容に沿って、基本的知識を学んでくること。事後課題は学修したことを踏まえ、復習すること。研究指導教員による研究指導を受けながら、研究計画を精錬すること。			

授 業 科 目 名	母性看護専門看護実習Ⅰ（令和5年度までの入学生対象）	専門科目	2 年次前期	6 単位
科 目 責 任 者	川野 亜津子			
到 達 目 標	高度医療施設、周辺地域、へき地等で生活する、複雑な健康問題・生活状況にある母子とその家族に対する支援を実践し、専門看護師の実践において必要な、 (1)高度看護実践の能力、 (2)コンサルテーションの能力、 (3)コーディネーションの能力、 (4)倫理調整の能力、 (5)教育および研究実践に関わる能力、 を養うことができる。 また、(1)～(5)の実習の展開の過程において、リーダーシップを発揮するための基礎的能力を養うことができる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：川野亜津子、角川志穂 小嶋由美・立木歌織・佐藤ひさ代・桑田知之(非常勤) ○概要：高度医療施設、周辺地域、へき地等で生活する、複雑な健康問題・生活状況にある母子とその家族に対する支援における、高度看護実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、教育および研究実践に関わる実習を行い、専門看護師として必要な能力を養う。また、実習の展開において、リーダーシップ発揮の能力を養う。 ○実習場所：自治医科大学附属病院とその周辺地域 ○実習期間：2 年次前学期 6 週間以上（開始と終了については、実習施設および実習状況により調整） ○実習方法： （1）高度看護実践：個人、家族及び集団に対する卓越した看護実践 【具体的な内容】バースプランを持つ自然分娩経過のケース、身体的ハイリスクケース、心理社会的ハイリスクケース等を受け持ち、身体・心理・社会的状態を包括的にアセスメントし、ケア計画を立案し、必要な看護を実践し、ケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （2）相談（コンサルテーション）：看護者を含むケア提供者に対するコンサルテーション 【具体的な内容】ケースに関する看護者を含むケア提供者からの相談に対するコンサルテーション活動を実践し、コンサルテーション活動の経緯を含むケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （3）調整（コーディネーション）：保健医療福祉に携わる人々間のコーディネーション 【具体的な内容】上記実習内容に相当するケースについて、調整活動（必要時ケースカンファレンスを開催）を実践し、調整活動の経緯を含めたケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （4）倫理調整：倫理的な問題や葛藤の解決 【具体的な内容】：倫理的課題を持つ事例に対して倫理調整活動を実践し、レポートを作成する。レポートは、1 ケース以上作成する。 （5）－①教育：看護者に対する教育的機能 【具体的な内容】病棟・スタッフの状況をアセスメントし、上記①に相当する教育内容を計画し、教育活動を実践し、レポートを作成する。レポートは、1 ケース以上作成する。 （5）－②研究：実践の場における研究活動 【具体的な内容】病棟においてスタッフが行なっている研究活動への指導、あるいは病棟・地域で見出した研究課題についてエビデンスに基づき分析し、病棟・地域に還元する研究活動を実践し、その経過からレポートを作成する。レポートは、1 ケース以上作成する。 （6）リーダーシップの発揮 【具体的な内容】(1) ～ (5) の実習の展開において、臨床スタッフとの協働を実践し、その過程において、リーダーシップを発揮するための基礎的能力を養う。その結果として、ケースレポートを作成する。ケースレポートは、1 ケース以上作成する。				

(7) 母性看護専門看護師・臨床指導者・指導教員によるスーパーバイズ それぞれのケースに対して実践する看護介入に関しては、それぞれの病棟管理者（師長）を指導者とする。また、地域への連携については、地域医療連携部黒田氏（小児看護専門看護師）および地域助産師の藤川氏の直接的な指導・助言を受け、また本学研究科修了の母性看護専門看護師2名から、定期的に専門看護実習のケースについてのスーパービジョンを受ける。教員は、日々の看護実践の指導をするとともに、必要時ケースカンファレンスの開催を支援するなど、定期的に調整・指導にあたる。	
評価方法	実習状況、実践結果の自己評価、課題レポート等を総合的に評価するが、実習の最終的な評価は、母性看護専門看護実習Ⅰ評価票に基づいて行う。
テキスト	適宜提示する。
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の実習科目（6単位）に相当する。

授 業 科 目 名	母性看護専門看護実習Ⅰ（令和6年度以降の入学生対象）	専門科目	2 年次前期	6 単位
科 目 責 任 者	川野 亜津子			
到 達 目 標	三次医療機関、周辺地域等で生活する、複雑な健康問題・生活状況にある母子とその家族に対する支援を実践し、専門看護師の実践において必要な、 (1)高度看護実践の能力、 (2)コンサルテーションの能力、 (3)コーディネーションの能力、 (4)倫理調整の能力、 (5)教育および研究実践に関わる能力、を養うことができる。 また、(1)～(5)の実習の展開の過程において、 心理・社会的ハイリスク状態にある女性への看護介入、組織的な支援をするための能力、およびリーダーシップを発揮するための基礎的能力を養うことができる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：川野亜津子、角川志穂 田中純（自治医科大学附属病院産科師長）・佐藤ひさ代（自治医科大学附属病院母性看護専門看護師）・小嶋由美（ことり助産院院長、母性看護専門看護師）・小田郁代（さいたま市立病院母性看護専門看護師）・立木歌織（利根中央病院母性看護専門看護師）（非常勤） ○概要：三次医療機関、周辺地域等で生活する、複雑な健康問題・生活状況にある母子とその家族、女性に対する支援における、高度看護実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、教育および研究実践に関わる実習を行い、専門看護師として必要な能力を養う。また、実習の展開において、心理・社会的ハイリスク状態にある女性への看護介入、組織的な支援をするための能力、およびリーダーシップを発揮するための基礎的能力を養う。 ○実習場所：自治医科大学附属病院とその周辺地域 ○実習期間：2 年次前学期 6 週間以上（開始と終了については、実習施設および実習状況により調整） ○実習方法： （1）高度看護実践：個人、家族及び集団に対する卓越した看護実践 【具体的な内容】バースプランを持つ自然分娩経過のケース、身体的ハイリスクケース、心理社会的ハイリスクケース等を受け持ち、身体・心理・社会的状態を包括的にアセスメントし、ケア計画を立案し、必要な看護を実践し、ケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （2）相談（コンサルテーション）：看護者を含むケア提供者に対するコンサルテーション 【具体的な内容】ケースに関する看護者を含むケア提供者からの相談に対するコンサルテーション活動を実践し、コンサルテーション活動の経緯を含むケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （3）調整（コーディネーション）：保健医療福祉に携わる人々の間のコーディネーション 【具体的な内容】上記実習内容に相当するケースについて、調整活動（必要時ケースカンファレンスを開催）を実践し、調整活動の経緯を含めたケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （4）倫理調整：倫理的な問題や葛藤の解決 【具体的な内容】：倫理的課題を持つ事例に対して倫理調整活動を実践し、レポートを作成する。レポートは、1 ケース以上作成する。 （5）－①教育：看護者に対する教育的機能 【具体的な内容】病棟・スタッフの状況をアセスメントし、上記①に相当する教育内容を計画し、教育活動を実践し、レポートを作成する。レポートは、1 ケース以上作成する。 （5）－②研究：実践の場における研究活動 【具体的な内容】病棟においてスタッフが行なっている研究活動への指導、あるいは病棟・地域で見出した研究課題についてエビデンスに基づき分析し、病棟・地域に還元する研究活動を実践し、その経過からレポートを作成する。レポートは、1 ケース以上作成する。 （6）リーダーシップの発揮				

【具体的な内容】(1) ～ (5) の実習の展開において、臨床スタッフとの協働を実践し、その過程において、リーダーシップを発揮するための基礎的能力を養う。その結果として、ケースレポートを作成する。ケースレポートは、1 ケース以上作成する。 (7) 母性看護専門看護師・臨床指導者・指導教員によるスーパーバイズ それぞれのケースに対して実践する看護介入に関しては、それぞれの病棟管理者（師長）を指導者とする。また、地域への連携については、地域医療連携看護師および地域助産師の直接的な指導・助言を受け、また本学研究科修了の母性看護専門看護師 2 名から、定期的に専門看護実習のケースについてのスーパービジョンを受ける。教員は、日々の看護実践の指導をするとともに、必要時ケースカンファレンスの開催を支援するなど、定期的に調整・指導にあたる。	
評価方法	実習状況、実践結果の自己評価、課題レポート等を総合的に評価するが、実習の最終的な評価は、母性看護専門看護実習Ⅰ評価票に基づいて行う。
テキスト	適宜提示する。
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の実習科目（6 単位）に相当する。

授 業 科 目 名	母性看護専門看護実習Ⅱ（令和5年度までの入学生対象）	専門科目	2 年次後期 4 単位
科 目 責 任 者	角川 志穂		
到 達 目 標	以下について、医師と協働した実践のための、基礎的能力を養うことができる。 (1) 複雑な健康問題・生活状況にある母子について、医師と協働した情報収集を行うことができる。 (2)収集した情報から、母子と家族をアセスメントし、必要な看護介入を査定できる。 (3)査定した結果から、医師との協働による介入を実施できる。 (4)上記実習の展開において、リーダーシップ発揮の能力を養うことができる。		
授 業 概 要			
○担当教員名：角川志穂、川野亜津子 小嶋由美・立木歌織・佐藤ひさ代・桑田知之(非常勤) ○概要：高度医療施設内あるいはへき地医療施設内に入院している複雑な健康問題・生活状況にある母子に対して、問診、フィジカルアセスメント、超音波検査、胎児心拍数モニタリング等を用いて、医師と協働した情報収集を行い、その結果から、母子と家族を包括的にアセスメントし、必要な看護介入を査定し、医師との協働による介入を実施し、必要なケアを展開できる能力を養う。			
○実習場所：自治医科大学附属病院とその周辺地域			
○実習期間：2 年次後学期 4 週間以上（開始と終了については、実習施設および実習状況により調整）			
○実習方法： （1）医師と協働した情報収集の実践 【具体的な内容】複雑な健康問題・生活状況にある母子、特に医学的課題を強く有する母子について、医学的な査定を行い、その結果から医師にアドバイスを受けることを繰り返すことで、医師と協働した情報収集の能力を養う。その結果として、ケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （2）収集した情報のアセスメントと看護介入 【具体的な内容】（1）で収集した情報から、母子をアセスメントし、必要な看護介入を査定する。 特に医学的情報のアセスメントと医学的介入の査定については、適時、医師の指導・助言を受けることを繰り返すことで、医師と協働した実践へ基礎的能力を養う。その結果として、ケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （3）医師との協働による介入の実施 【具体的な内容】（2）で査定した結果に応じて、医師との協働による介入を実施する。特に医学的介入の実施については、適時、医師の指導・助言を受けることを繰り返すことで、医師と協働した実践へ基礎的能力を養う。その結果として、ケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （4）母性看護専門看護師・臨床指導者・指導教員によるスーパーバイズ 医師と協働した情報収集、アセスメントの結果から、それぞれのケースに対して実践する看護介入に関しては、実習Ⅰと同様に、それぞれの病棟管理者（師長）を指導者とする。また、地域への連携については、地域助産師の藤川氏の直接的な指導・助言を受け、また本学研究科修了の母性看護専門看護師2 名から、定期的に専門看護実習のケースについてのスーパービジョンを受けることも同様である。教員は、日々の看護実践の指導をするとともに、必要時ケースカンファレンスの開催を支援するなど、定期的に調整・指導にあたる。			
評 価 方 法	実習状況、実践結果の自己評価、課題レポート等を総合的に評価するが、実習の最終的な評価は、母性看護専門看護実習Ⅱ評価票に基づいて行う。		
テ キ ス ト	適宜提示する。		
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の実習科目（4 単位）に相当する。		

授 業 科 目 名	母性看護専門看護実習Ⅱ（令和6年度以降の入学生対象）	専門科目	2 年次前期 4 単位
科 目 責 任 者	角川 志穂		
到 達 目 標	以下について、医師と協働した実践のための、基礎的能力を養うことができる。 (1) 三次医療機関に入院あるいは外来通院している複雑な健康問題・生活状況にある母子とその家族に対して、医師と協働した情報収集を行うことができる。 (2)収集した情報から母子とその家族をアセスメントし、必要な看護介入を査定できる。 (3)査定した結果をもとにその実践にあたっては、スタッフ助産師、医師、他職種と協働することができる。		
授 業 概 要			
○担当教員名：角川 志穂、川野 亜津子 塚田 祐子・佐藤 ひさ代・鈴木 寛正・高橋 宏典(非常勤) ○概要：三次医療機関に入院あるいは外来通院している複雑な健康問題・生活状況にある母子とその家族に対して、問診、フィジカルアセスメント、超音波検査、胎児心拍数モニタリング等を用いて、医師と協働した情報収集を行い、その結果から、母子とその家族を包括的にアセスメントし、必要な看護介入を査定し、必要なケアを展開できる能力を養う。その実践にあたっては、スタッフ助産師、医師、他職種と協働する。			
○実習場所：自治医科大学附属病院とその周辺地域			
○実習期間：2 年次前学期 4 週間以上（開始と終了については、実習施設および実習状況により調整）			
○実習方法： （1）医師と協働した情報収集の実践 【具体的な内容】複雑な健康問題・生活状況にある母子とその家族、特に医学的課題を強く有する母子とその家族について医学的な査定を行い、その結果から医師にアドバイスを受けることを繰り返すことで、医師と協働した情報収集の能力を養う。その結果として、ケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （2）収集した情報のアセスメントと看護介入 【具体的な内容】（1）で収集した情報から、母子とその家族をアセスメントし、必要な看護介入を査定する。特に医学的情報のアセスメントと医学的介入の査定については、適時、医師の指導・助言を受けることを繰り返すことで、医師と協働した実践へ基礎的能力を養う。その結果として、ケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （3）医師との協働による介入の実施 【具体的な内容】（2）で査定した結果に応じて、医師との協働による介入を実施する。特に、医学的介入の実施については、適時、医師の指導・助言を受けることを繰り返すことで、医師と協働した実践へ基礎的能力を養う。その結果として、ケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （4）母性看護専門看護師・臨床指導者・指導教員によるスーパーバイズ 医師と協働した情報収集、アセスメントの結果から、それぞれのケースに対して実践する看護介入に関しては、実習Ⅰと同様に、それぞれの病棟管理者（師長）を指導者とする。また、地域への連携については、地域医療連携部の看護師より直接的な指導・助言を受け、また本学研究科修了の母性看護専門看護師から、定期的に専門看護実習のケースについてのスーパービジョンを受けることも同様である。教員は、日々の看護実践の指導をするとともに、必要時ケースカンファレンスの開催を支援するなど、定期的に調整・指導にあたる。			
評 価 方 法	実習状況、実践結果の自己評価、課題レポート等を総合的に評価するが、実習の最終的な評価は、母性看護専門看護実習Ⅱ評価票に基づいて行う。		
テ キ ス ト	適宜提示する。		
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の実習科目（4 単位）に相当する。		

授 業 科 目 名	母性看護学課題研究 (令和 5 年度までの入学生対象)	専 門 科 目	2 年次後期 4 単位
科 目 責 任 者	川野 亜津子		
到 達 目 標	母性看護学の学修並びに看護実践を通じて見出された研究課題に沿って研究を行い、修士論文を作成することができる。		
授 業 概 要			
○研究指導教員：川野 亜津子、角川志穂 ○研究指導補助教員：なし ○概要：母性看護学講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、母性看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、母性看護専門看護実習において、明らかになった実践的課題の中から、看護実践の改善・改革につながるテーマを選び、研究し、研究論文を作成する。 授業形式：演習 ・研究計画を立案し、研究計画書の作成を行う。 ・計画に基づき、かつ十分に倫理的な配慮をした上でデータ収集を行う。 ・収集した情報を計画的・系統的・論理的に記述・整理し、分析して研究論文を作成する。 ・研究論文は、発表会において発表する。 以上を担当の教員の指導を受けながら行う。			
評 価 方 法	研究論文、発表会における発表内容		
テ キ ス ト	指定しない		
履修上の留意事項			

授 業 科 目 名	母性看護学課題研究 (令和 6 年度以降の入学生対象)	専 門 科 目	2 年次後期 4 単位
科 目 責 任 者	川野 亜津子		
到 達 目 標	母性看護学の学修並びに看護実践を通じて見出された研究課題に沿って研究を行い、修士論文を作成することができる。		
授 業 概 要			
○研究指導教員：川野亜津子、角川志穂 ○研究指導補助教員：なし ○概要：母性看護学講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、母性看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、母性看護専門看護実習において、明らかになった実践的課題の中から、看護実践の改善・改革につながるテーマを選び、研究し、研究論文を作成する。 授業形式：演習 ・研究計画を立案し、研究計画書の作成を行う。 ・計画に基づき、かつ十分に倫理的な配慮をした上でデータ収集を行う。 ・収集した情報を計画的・系統的・論理的に記述・整理し、分析して研究論文を作成する。 ・研究論文は、発表会において発表する。 以上を担当の教員の指導を受けながら行う。			
評 価 方 法	研究論文、発表会における発表内容		
テ キ ス ト	指定しない		
履修上の留意事項			

授 業 科 目 名	母性看護学特別演習（令和5年度までの入学生対象）	専 門 科 目	2 年次前期	4 単位
科 目 責 任 者	川野 亜津子			
到 達 目 標	母性看護学、女性の健康看護学、助産学に関連する臨床現場の現状を分析して見出された実践的課題について、エビデンスとの照らし合わせを行い、その課題の改善・改革の方法について明らかにすることができる。			
授 業 概 要				
担当教員名：川野 亜津子、角川 志穂				
授業形式：演習・レポート				
これまでの講義・演習から見出された課題・探求の方法等を参考に、母性看護学、女性の健康看護学、助産学に関連する臨床現場での実習、多様な場や状況での演習的取り組み、文献検討等を多様に組み合わせて、母性看護学、女性の健康看護学、助産学に関連する実践的課題の改善・改革の方法について検討する。				
実習・演習先は、院生それぞれが持つ課題に応じて選択する。				

授業科目名	母性看護学特別演習（令和6年度以降の入学生対象）	専門科目	2年次通年 4単位
科目責任者	川野 亜津子		
到達目標	母性看護学、女性の健康看護学、助産学に関連する臨床現場の現状を分析して見出された実践的課題について、エビデンスとの照らし合わせを行い、その課題の改善・改革の方法について明らかにすることができる。		
授 業 概 要			
担当教員名：川野亜津子、角川志穂			
授業形式：演習・レポート			
これまでの講義・演習から見出された課題・探求の方法等を参考に、母性看護学、女性の健康看護学、助産学に関連する臨床現場での実習、多様な場や状況での演習的取り組み、文献検討等を多様に組み合わせて、母性看護学、女性の健康看護学、助産学に関連する実践的課題の改善・改革の方法について検討する。			
実習・演習先は、学生それぞれが持つ課題に応じて選択する。			

授 業 科 目 名	精神看護学講義 I	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	我が国および海外の精神保健医療福祉の歴史や法制度および精神看護実践の発展過程について検討し、精神保健医療福祉の政策動向を把握して高度看護実践家の果たす役割について展望する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：永井優子、半澤節子				
○概要： 精神保健医療福祉の歴史と政策動向と高度看護実践の役割と活動について検討する。				
第 1～ 2 回	わが国の精神保健医療の歴史と看護 古代、近世、近代、現代の精神科医療と社会的出来事との関連を中心に			(永井)
第 3～ 5 回	精神障害者の権利と権利擁護の歴史と展望 国連「障害者権利条約」と我が国の精神障害者と家族の権利を中心に			(半澤)
第 6～ 8 回	我が国の精神保健医療福祉政策の現状と動向 医療計画および改正精神保健福祉法の課題と患者の権利			(永井)
第 9～10 回	西洋諸国の精神保健福祉システムと看護実践 イギリス・イタリア・北欧・アメリカ合衆国・カナダを中心に			(永井)
第 11～12 回	オセアニアとアジア諸国の精神保健福祉システムと看護実践 ニュージーランド・オーストラリア・韓国・台湾			(半澤)
第 13～14 回	精神保健医療福祉における 高度な看護実践の発展過程と展望 基礎教育と継続教育(高度実践看護師・認定看護管理者・日本看護協会 認定看護制度・日本精神科看護協会精神科看護認定看護師制度)の歴史と 発展			(永井)
第 15 回	精神保健医療福祉における上級看護実践の役割 総括プレゼンテーションと討議			(永井・半澤)
評 価 方 法	授業における討議内容(70%)および演習プレゼンテーション(30%)			
テ キ ス ト	1) K.R.Tusaie, J.J.Fitzpatrick, Ed: Advanced Practice Psychiatric Nursing, Integration Psychotherapy, psychopharmacology, and Complementary and Alternative Approaches Across The Life Span, 3 rd Ed, Springer,2023. 2) K.Evans, D.Nizette, A.O'Brien,Ed: Psychoatric and Mental Health Nursing in the UK,Elsevier,2020.			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「歴史・法制度に関する科目」(2 単位)に相当する。我が国の精神保健医療福祉に関する政策動向については事前に厚生労働省等の web サイト等を活用して踏まえておき、学生の関心等に関連させて検討できるように準備する。事後学修として学生の関心と関連が深い政策や歴史的背景の影響について検討するとよい。			

授 業 科 目 名	精神看護学講義Ⅱ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	精神看護において卓越した働きかけに必要な、精神力動論、対人関係論、セルフケア理論に関する最新の実践知識とエビデンスベースの実践との関係を学修し、看護実践上の課題を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：永井優子、半澤節子				
○概要： 心理社会的発達理論、精神力動理論、対人関係論、ストレス理論、家族理論、リカバリー論などについて 精神保健医療福祉領域におけるエビデンスに基づいて理解し、高度看護実践の課題を検討する。				
第 1～ 2 回	心理・社会的成長発達に関する理論 分離個体化理論(Mahler M.S.)と自己感の発達理論(Stern D.)	(永井)		
第 3～ 4 回	精神力動理論と自我機能	(永井)		
第 5～ 6 回	対人関係論	(永井)		
第 7～8 回	ストレスと心身相関に関する理論	(永井)		
第 9～ 10 回	ストレングス理論	(永井)		
第 11～12 回	家族に関する理論	(半澤)		
第 1～14 回	リカバリーと精神障害者リハビリテーションに関する理論	(半澤)		
第 15 回	精神看護に関する理論の理解と高度看護実践 総括プレゼンテーションと討議	(永井・半澤)		
評 価 方 法	授業における討議内容(70%)および第 15 回プレゼンテーション(30%)			
テ キ ス ト	1) 日本専門看護師協議会監修、宇佐美しおり、野末聖香編集:精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009. 2) K.R.Tusaie, J.J.Fitzpatric, Ed: Advancd Practice Psychiatric Nursing, Integration Psychotherapy, psychopharmacology, and Complementary and Alternative Approaches Across The Life Span, 3 rd Ed, Springer,2023. 3) K.Evans, D.Nizette, A.O’ Brien,Ed: Psychoatric and Mental Health Nursing in the UK, Elsevier,2020.			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「精神看護理論に関する科目」(2 単位)に相当する。取り上げる理論の基礎的理解について自己学習のうえで、検討するテーマを決定する。また、事後学修として学生の関心や高度実践とこれらの理論との関連について整理する。			

授 業 科 目 名	精神看護学講義Ⅲ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	最新の精神科薬物療法を中心とした精神科治療と精神科診断に関する知識と理論について学修し、看護実践との関連を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：永井優子、大塚公一郎、北田志郎（非常勤） ○概要： 精神疾患および障害の診断基準および臨床検査、および向精神薬の薬理作用と処方の原則、薬効の評価などを主とする精神科身体療法について学修し、精神科外来における診療に陪席することにより、見立てと治療に関する臨床判断を試み、担当医とともに検討する。最後に、精神科診断と治療に関する高度看護実践について、検討する。				
第 1～ 3 回	精神科診断法と診断基準 精神科診断面接と診断基準 DSM-5 および ICD-11 の課題	(大塚)		
第 4 回	精神科臨床検査総論	(大塚・永井)		
第 5 回	身体療法総論 修正型電気けいれん療法(m-ECT)、反復経頭蓋磁気刺激療法、等	(大塚・永井)		
第 6～11 回	精神科薬物療法 病態に応じた向精神薬の処方の考え方と薬効・副反応の評価 抗精神病薬、抗不安薬、睡眠薬、抗てんかん薬 抗うつ薬、感情調整薬 漢方薬、抗認知症薬	看護師特定行為研修 センターe-learning 区分別科目「精神及び 神経症状に係る薬物 薬物投与関連」 (大塚) (北田)		
第 12～14 回	精神科外来における診断と治療演習 精神科外来診療の実際を陪席して、診療終了後にリフレクションを行う	(大塚)		
第 15 回	精神科治療を受ける患者のアセスメントと看護援助 総括プレゼンテーションと討議	(永井)		
評 価 方 法	授業における討議内容(70%)および第 15 回プレゼンテーション(30%)			
テ キ ス ト	1) Stahl S. M, 仙波純一ら監訳:精神薬理学エッセンシャルズ、神経学的基礎と応用、第 5 版、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2023. 2) 長嶺敬彦:予測して防ぐ抗精神病薬の「身体副作用」—Beyond Dopamine Antagonism、医学書院、2009. 3) 稲田俊也、岩本邦弘、山本 暢朋: OPRS-IV 客観的精神科評価尺度ガイド 観察者による精神科領域の症状評価尺度ガイド 第 4 版、じほう、2016. その他の関連文献は、授業の中で提示する。			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「精神科薬物・身体療法に関する科目」(2 単位)に相当する。看護師特定行為研修センター区分別科目「精神及び神経症状に係る薬物薬物投与関連」はe-learning(小テストを含む)は各自で学修する。自己の看護実践上の課題に照らして演習課題を設定して演習を準備し、演習後に診断および治療に関する学生の課題について明確化する。			

授 業 科 目 名	精神看護学演習Ⅰ	専門科目	1 年次前期 2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子		
到 達 目 標	セルフケアモデル、ストレングスモデル、精神力動、家族力動、精神・身体状態、心身相関などに関するリスクマネジメントなどのアセスメントと支援について演習を通して学修する。		
授 業 概 要			
○科目担当者：永井優子、半澤節子、大竹眞裕美・釜英介(非常勤)			
○概要： 高度な精神看護実践に必要な患者及び家族の精神・身体・社会状況アセスメントと危機管理について、演習を通して教授する。			
第 1～2 回	セルフケアモデルに関するアセスメントと支援	(永井)	
第 3～4 回	精神力動的アセスメントと支援	(永井)	
第 5～6 回	ストレングスモデルに関するアセスメントと支援	(半澤)	
第 7～9 回	精神障害者の家族のアセスメントと支援	(半澤)	
第 10～11 回	自傷に関するアセスメントと支援	(永井)	
第 12～13 回	自殺に関するアセスメントと支援	(永井)	
第 14～15 回	攻撃性に関するアセスメントと支援	(永井)	
第 16～18 回	精神障害者の身体合併症のアセスメントと支援	(大竹)	
第 19～20 回	睡眠に関するアセスメントと支援	(永井)	
第 21～22 回	社会的機能のアセスメントと支援	(永井)	
第 23～24 回	精神科リスクマネジメント	釜英介	
	精神科における事故防止と行動制限最小化ための支援		
第 23～29 回	総合アセスメントと支援演習	永井優子・半澤節子	
	学生が関心のある病態をもつ事例の精神看護の実践に参加し、検査を含めて、バイオサイコソーシャルモデルに基づく総合的なアセスメントと支援について検討する。		
第 30 回	総合アセスメント演習のまとめと上級看護実践	永井優子・半澤節子	
評 価 方 法	授業における討議内容(70%)および演習プレゼンテーション(30%)		
テ キ ス ト	1) 釜英介:「リスク感性」を磨く OJT、人を育てるもう一つのリスクマネジメント、日本看護協会出版会、2004. 関連文献は授業の中で提示する。		
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「精神看護のアセスメント・支援モデルに関する科目」(2 単位)に相当する。自己の看護実践上の課題に照らして総合アセスメントと支援演習課題を設定して演習を準備し、演習後に学生の課題について明確化する。		

授 業 科 目 名	精神看護学演習Ⅱ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	精神療法、認知行動療法、集団療法、リラクゼーション技法、マインドフルネス、セルフコンパッション、ソーシャルスキルズトレーニング、トラウマインフォームドケア、カンファータプルケアについて学修し、演習を通して複雑な背景や課題をもつ精神障害者のリカバリーにつながる看護実践上の課題を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：永井優子、半澤節子、大塚公一郎、須田史郎(非常勤) ○概要： 高度な精神看護実践に必要となる治療的アプローチについて、演習を通して教授する。				
第 1～3 回	精神療法と精神療法的援助方法			(永井)
第 4～6 回	集団力動理論と集団精神療法			(永井)
第 7～8 回	心理教育的アプローチ			(永井)
第 9～10 回	認知行動療法			(永井)
第 11～13 回	Social Skills Training			(永井)
第 14～15 回	トラウマインフォームドケアとカンファータプルケア			(永井)
第 16 回	メンタルヘルスファーストエイド			(永井)
第 17～18 回	リラクゼーション技法、マインドフルネス、セルフコンパッション 呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法、			(永井)
第 19～20 回	アサーティブ・トレーニング			(永井)
第 21～30 回	精神科における心理・社会的療法演習 心理・社会的療法を担当するスタッフとともに複雑な背景や課題をもつ 抑うつ症状、不安、精神病症状、認知障害、発達障害、摂食障害などの 症状や病態の患者とその家族に対するアプローチに参加し、終了後の討 議を通して治療とケアの課題について検討する。30 回で、演習で学んだ ことをプレゼンテーションし、討議する。			(永井・半澤・大塚・ 須田)
評 価 方 法	授業における討議内容(70%)および演習プレゼンテーション(30%)			
テ キ ス ト	1) 土居健郎:新訂 方法としての面接、臨床家のために、医学書院、1992。 2) Gabbard GO、狩野力八郎監訳:精神力動的な精神療法、基本的テキスト、岩崎学術出版社、2012。 3) 堀越勝、野村敏明:精神療法の基本、支持から認知行動療法まで、医学書院、2012。 4) K. R. Tusaie, J. J. Fitzpatrick, Ed: Advanced Practice Psychiatric Nursing, Integration Psychotherapy, psychopharmacology, and Complementary and Alternative Approaches Across The Life Span, 3rd Ed, Springer, 2023。 5) K. Evans, D. Nizette, A. O' Brien, Ed: Psychoatric and Mental Health Nursing in the UK, Elsevier, 2020。 関連文献は授業の中で提示する。			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「心理・社会的技法に関する科目」(2 単位)に相当する。事前に学生の看護実践上の課題を検討し、演習で取り組みたい事例について調整する必要がある。第 30 回終了後、学生の看護実践上の課題を明確化する。			

授 業 科 目 名	精神看護学演習Ⅲ	専 門 科 目	2 年次前期	2 単 位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	精神看護において卓越した働きかけに必要なメンタルヘルス・イグザミネーションを含めた健康状態の評価と精神科ケアマネジメントおよびインタープロフェッショナルワークに関する知識と技術について学修し、看護実践上の課題を検討する。			
授 業 概 要				
○科目担当者：永井 優子、半澤 節子、土屋 徹・相澤 和美(非常勤) ○概要： 複雑で重度な障害を持つ精神障害者の健康状態の評価と多職種チームにおける高度な看護実践について、ケアマネジメントと看護倫理および権利擁護の視点から検討する。				
第 1～2 回	日常生活行動とメンタルヘルス・イグザミネーション			(永井)
第 3～4 回	精神科ケアマネジメントとインタープロフェッショナルワーク			(半澤)
第 5～6 回	地域包括ケアシステムにおける精神科救急を要する健康状態の評価			(永井)
第 7～8 回	精神保健医療福祉における健康状態の評価と地域包括ケア			(半澤)
第 9～10 回	重症精神障害者のケアマネジメント ICM、CBCM、ACT			(永井)
第 11～12 回	精神看護実践におけるコンコーダンスと Shared Decision Making			(永井)
第 13～14 回	症状自己管理と高度な看護実践			(半澤)
第 15～17 回	精神科訪問看護活動における高度な看護実践			(相澤)
第 18～20 回	当事者主体の地域精神保健活動と看護			(土屋・永井)
第 21～22 回	精神疾患早期介入と健康状態の評価			(半澤)
第 23～24 回	精神看護における倫理的判断と倫理調整			(永井)
第 25～26 回	メンタルヘルス上の問題をもつ人の妊娠・出産・育児支援			(川野・永井)
第 27～29 回	高度な精神看護実践における連携・協働に関する演習 学生自身の看護実践事例について健康状態を評価し、受診支援、入院等治療にかかる倫理的課題、退院調整・地域定着など連携・調整等との関連にかかる課題について検討する。			(永井・半澤)
第 30 回	まとめ			(永井・半澤)
評 価 方 法	授業における討議内容(70%)および事例および第 30 回プレゼンテーション(30%)。			
テ キ ス ト	指定しない。関連文献は授業の中で提示する。			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「精神の健康状態の評価に関する科目」(2 単位)に相当する。事前に学生の看護実践上の課題を検討し、演習で取り組みたい事例について調整する必要がある。第 30 回終了後、学生の看護実践上の課題を明確化する。			

授 業 科 目 名	精神看護学演習Ⅳ	専門科目	2 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	最新の地域精神看護に関する理論と技術について学修し、高度実践上の課題を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：永井優子、半澤節子 ○概要：地域保健医療計画における精神保健福祉の位置づけ、行政保健師による精神保健看護活動や医療機関が提供する外来・アウトリーチによるケアに関する新しい知見を理解し、高度実践上の課題を検討する。				
第 1～2 回	地域保健医療計画と地域精神保健看護実践:総論			(半澤)
第 3～4 回	地域における精神保健医療福祉のアセスメント方法			(半澤)
第 5～6 回	地域における精神保健看護活動の評価			(半澤・永井)
第 7～9 回	地域における精神保健医療機関における看護活動 精神科外来、訪問看護、精神科デイケア、障害者福祉施設等における看護			(半澤)
第 10～11 回	行政保健師による地域精神保健看護活動			(永井)
第 12～13 回	認知症に関する地域精神看護活動			(半澤)
第 14～16 回	へき地等精神科医療過疎地域における精神看護活動 島嶼や中山間地における地域精神保健看護活動			(永井・半澤)
第 17～18 回	地域におけるアディクション看護活動			(永井)
第 19～20 回	地域における精神保健看護福祉活動および活動組織の創設			(半澤・永井)
第 21～23 回	児童思春期の精神看護			(永井)
第 24～29 回	地域精神保健看護活動に関する演習 学生が関心のある地域精神看護の実践領域を選択し、文献検討により実践上の課題を設定して、選択したフィールドでフィールドワークを行ない、地域精神保健看護活動の特徴と課題を探究する			(半澤・永井)
第 30 回	演習のまとめ 地域精神看護における高度看護実践			(半澤・永井)
評 価 方 法	授業における討議内容(70%)および第 30 回プレゼンテーション(30%)			
テ キ ス ト	指定しない。関連文献は授業の中で提示する。			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専攻分野専門科目「地域精神看護」(2 単位)に相当する。様々な地域における看護活動に関する自己の実践上の課題について検討し、演習課題を設定する。最終回は学生看護実践力について自己評価し、実習または研究活動に向けた課題を明確化する。			

授 業 科 目 名	精神看護学演習Ⅴ	専門科目	2 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	最新のリエゾン精神看護に関する理論と技術について学修し、高度看護実践上の課題を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：永井優子、半澤節子、岡島美朗(非常勤) ○概要： コンサルテーション・リエゾン精神看護の目的と機能を理解し、一般科の患者における精神・身体状況の 相関とホリスティックなアプローチについて理解し、看護組織におけるリエゾン活動について検討する。				
第 1～2 回	医療におけるコンサルテーション・リエゾン活動の歴史と展望			(永井)
第 3～4 回	リエゾン精神看護の目的と機能、ホリスティック・アプローチ			(永井)
第 5～7 回	一般科におけるメンタルヘルス上の問題のある患者とその家族のアセスメント 〈不安、抑うつ、せん妄〉			(永井)
第 8～9 回	高い不安状態の患者とその家族の理解とケア			(永井)
第 10～11 回	抑うつ状態の患者とその家族の理解とケア			(永井)
第 12 回	せん妄状態の患者とその家族の理解とケア			(永井)
第 13～14 回	攻撃性の高い患者とその家族の理解とケア			(永井)
第 15～16 回	慢性疾患の患者とその家族の理解とケア			(永井)
第 17 回	がん患者とその家族のケア-緩和ケアチームと精神腫瘍学の立場から			(岡島)
第 18～19 回	精神科コンサルテーションチームにおける高度看護実践			(永井)
第 20～21 回	看護職のメンタルヘルス支援			(永井)
第 22～23 回	組織管理・変革者としてのリエゾン精神看護			(永井)
第 24～26 回	リエゾン精神看護活動の実際			(永井)
第 27～30 回	リエゾン精神看護 事例演習 学生が関心のあるリエゾン精神看護領域の課題を設定し、事例へのコンサルテーションプランを作成する。			(永井・半澤)
評 価 方 法	授業における討議内容(70%)および第 15 回プレゼンテーション(30%)			
テ キ ス ト	1) 野末聖香編:リエゾン精神看護、患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版株式会社、2004. 2) K.R.Tusaie, J.J.Fitzpatric, Ed: Advanecd Practice Psychiatric Nursing, Integration Psychotherapy, psychopharmacology, and Complementary and Alternative Approaches Across The Life Span, 3 rd Ed, Springer,2023. 3) K.Evans, D.Nizette, A.O’ Brien,Ed: Psychoatric and Mental Health Nursing in the UK, Elsevier,2020.			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専攻分野専門科目「リエゾン精神看護」(2 単位)に相当する。事前に看護に関する自己の実践上の課題について検討し、事例演習の課題を設定する。事例演習終了後に課題の達成状況について評価して、実習および研究活動の課題を明確化する。			

授 業 科 目 名	精神看護学専門看護実習 I	専門科目	1 年次後期 2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子		
到達目標	精神看護分野における専門看護師の役割機能とコンサルテーションおよびコーディネーションに関する高度看護実践能力を修得する。		
授 業 概 要			
○ 担当教員名:永井優子、半澤節子 ○ 実習指導者：則村 良(精神看護専門看護師) 高度で先進的な精神科専門医療を提供している病院において 2 週間以上の実習を行う。受講生の臨床能力と学習ニーズに応じて、事前に医療施設の状況について見学等を行い、指導教員および実習指導者となる精神看護専門看護師の指導を受け、実習の準備を十分に行う。 精神専門看護師に必要な役割と機能を学ぶために、まず、精神看護専門看護師の活動に同行し、直接ケア、コンサルテーション、コーディネーション、教育、倫理的調整などの役割と機能について全般的に参加観察を通して検討する。 コンサルテーションおよびコーディネーションについては、参加観察を通して精神看護専門看護師のコンサルテーションとコーディネーション活動の実際について学ぶ。対象となる事例の同意を得て、実習指導者の指導をうけながら、各 1 例を目標として実施し、スーパービジョンを受ける。 また、各実習日の最終に随時カンファレンスを行い、参加観察を行った精神専門看護師の活動の意図や使用した技法等について検討する。精神専門看護師および指導教員等からスーパービジョンを受け、これらの実践過程と今後の課題について最終カンファレンスにて発表し、最終的にレポートとしてまとめる。 実習施設 駒木野病院について 駒木野病院は精神科専門医療(チーム医療)に特化した病院で、地域に開かれた病院として、地域と病院をつなぐ様々な活動を行うサービスステーション駒木野(SSK)を設置し、精神科救急医療、児童精神科領域への対応など、様々なニーズに応えている病院である。			
評 価 方 法	精神看護専門看護師としての能力を実習の内容およびレポートで総合的に評価する。		
テ キ ス ト	指定しない。関連文献を活用する。		
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専攻分野実習(専門看護師の役割機能の実習(1 単位)および医療施設または地域におけるコンサルテーション・コーディネーション実習(1 単位)に相当する。		

授 業 科 目 名	精神看護学専門看護実習Ⅱ	専門科目	2 年次前期 6単位
科 目 責 任 者	永井 優子		
到 達 目 標	精神科医療施設における精神科診断・治療と直接ケアを中心に、必要に応じて倫理調整、教育およびコーディネーションを含めて、高度看護実践に必要な能力について実践的に修得する。		
授 業 概 要			
○ 担当教員: 永井 優子、半澤 節子 ○ 実習指導者：則村 良(精神看護専門看護師) 高度で先進的な精神科専門医療を提供している病院において6週間以上の実習を行う。受講生の臨床能力と学習ニーズに応じて、事前に指導教員と実習指導者となる精神看護専門看護師の指導を十分に受け、実習部署を決定する。4週間以上3～5事例程度に対して直接ケアを担当し、主治医および公認心理師等の診断・治療の陪席等を行い、精神科の診断と治療に関するディスカッションを行うことを原則とする。また、精神看護専門看護師に必要な実践(セラピーを含む)上の指導と計画・評価に関する指導教員との相談と助言を得て、必要時コンサルテーション、連携、教育、倫理的調整を行う。精神看護専門看護師の指導は随時および指導教員等からのスーパービジョンは週1回以上受け、これらの実践過程と今後の課題についてケースプレゼンテーションを行い、最終的にレポートとしてまとめる。 実習施設 駒木野病院について 駒木野病院は精神科専門医療(チーム医療)に特化した病院で、地域に開かれた病院として、地域と病院をつなぐ様々な活動を行うサービスステーション駒木野(SSK)を設置し、精神科救急医療、児童精神科領域への対応など、様々なニーズに応えている病院である。 精神科デイケア(大規模)、精神科作業療法(通院・入院)、精神科訪問看護部門もあり、学生の関心のある実習部署と事例を選択して、継続的にケアを行う。			
評 価 方 法	精神看護専門看護師としての能力を実習の内容およびレポートで評価する。		
テ キ ス ト	指定しない。関連文献を活用する。		
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専攻分野実習科目のうち、医療施設における精神科診断・治療実習(2 単位)と医療施設における直接ケア実習(4 単位)に相当する。		

授 業 科 目 名	精神看護学専門看護実習Ⅲ	専門科目	2 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	精神看護専門看護師のサブスペシャリティ(地域精神看護またはリエゾン精神看護)における高度実践能力について実践的に修得する。			
授 業 概 要				
○ 担当教員:永井 優子、半澤 節子 ○ 実習指導者:寺田 悦子(地域精神看護)、加藤 郁子(リエゾン精神看護、精神看護専門看護師) 学生が地域精神看護領域またはリエゾン精神看護領域のいずれかをサブスペシャリティとして選択し、前者では高度で先進的な地域精神保健看護活動を行っている地域施設、後者ではリエゾン精神看護活動を行っている大学病院において、2 週間以上の実習を行う。 学生の臨床能力と学修ニーズに応じて、事前に各施設の状況について見学等を行い、指導教員および実習指導者の指導を受け、実習の準備を十分に行う。いずれも実習指導者の指導を受けて2 事例程度に直接ケアを、コンサルテーション、連携、教育、倫理的調整に関する能力に焦点を当てた活動を、自律して行い、フィールドノートに記録する。また、随時カンファレンスを行い、実習指導者および指導教員等からスーパービジョンを得て、これらの実践過程と今後の課題について最終的にレポートとしてまとめる。 地域精神看護領域の実習施設 NPO法人 多摩在宅支援センター円 この法人は、「私たちは、その人らしい豊かで多様な生活を応援する」ことを理念に 2005 年 6 月に開設し、駒木野病院と同じ多摩地域にある。同年 9 月には「医療と福祉をつなぐ」というコンセプトのもとに「独立型精神科」訪問看護ステーションを八王子市に開設し、地域の多様なニーズに応えようと活動してきた。現在では、「訪問看護ステーション元」、および立川市に生活訓練と就労移行支援 B 型の多機能型事業所と委託事業の地域活動支援センターを運営し、国立市と八王子市にグループホームを 2 ヶ所、他に八王子市の居住生活安定化自立支援事業や東京都の障害者地域移行促進事業を展開している。看護師、作業療法士、精神保健福祉士、精神科医、ピアサポーター等多職種で地域で暮らす精神障害者、高齢者の生活支援を展開している。 学生の関心の高い部署を中心に実習を行い。実習指導者は各部署の施設長等と調整して実習指導を予定している。 リエゾン精神看護領域の実習施設 公立大学法人福島県立医科大学附属病院 39 診療科・778 床（一般 713 床、精神 49 床、結核 14 床、感染 2 床）をもち、福島県内の地域医療を支え、先進医療の充実や診療体制の整備に努め、多様化する医療に対する県民の期待に応えている県内唯一の大学附属病院において、リエゾン領域の精神看護専門看護師の活動について参加観察をし、リエゾン精神看護における対象とケアの場の特徴および専門看護師としての役割と機能を学ぶ。また、コンサルテーションのケースに関してスーパービジョンを受けながら、ケースの理解を深めてケアの方法等を検討する。精神看護専門看護師の活動についての参加観察から、活動の評価を試み、専門性を高める。				
評 価 方 法	精神専門看護師としての能力を実習の内容およびレポートで評価する。			
テ キ ス ト	指定しない。関連文献を活用する。			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専攻分野実習サブスペシャリティ実習(2 単位)に相当する。			

授 業 科 目 名	精神看護学課題研究	専 門 科 目	2 年次後期	4 単位
科 目 責 任 者	永井 優子、半澤 節子			
授 業 目 標	講義・演習・専門看護実習をとおして見出された看護実践上の課題について、取得を目指す精神看護専門看護師の役割の遂行に寄与する研究を行い、研究指導を受けて修士論文を作成する。			
授 業 概 要				
○研究指導教員名：永井優子、半澤節子 ○研究指導補助教員名:なし ○概要 入学時から各学生の関心のある研究課題について検討し、選択した領域の授業科目等において、研究指導教員の指導を受けて実施可能なテーマを決定し、研究指導を受けて、修士論文を作成する。 ○方法 研究指導教員は、看護学研究科委員会において決定する。 研究指導は、精神看護専門看護実習の指導者による研究課題に関する直接的助言とともに、個別指導や領域内で開催される少人数指導によって行う。 精神看護専門看護師教育課程の修了を目指す学生が、精神看護専門看護実習で担当した患者、家族または集団、看護職を含むケア提供者や保健医療福祉に携わる人々を対象として、直接的ケア、相談、調整、倫理調整、教育、研究のうち、いずれかまたはいくつかの役割に焦点を当てて、看護実践の質の維持・向上に寄与する研究課題を設定する。設定したテーマに関する研究活動を展開し、研究指導を受けて、修士論文を作成する。				
評 価 方 法	修士論文の研究課題に関する研究活動の展開、論文執筆等の研究活動の経過(60%)およびその内容(40%)			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	本科目を履修する場合、必ず「精神看護専門看護実習」の全科目を履修しなければならない。			

授 業 科 目 名	精神看護学特別演習	専 門 科 目	2 年次前期	4 単 位
科 目 責 任 者	半澤 節子			
到 達 目 標	精神保健看護に関連する文献検討、自らの関心領域の探求を踏まえて研究課題を焦点化し、研究計画書、研究倫理審査申請資料の作成までの一連のプロセスを学修する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：半澤節子				
第 1 回	オリエンテーション(半澤)			
第 2 回～第 10 回	精神保健看護に関する受講生の経験と研究テーマの検討(半澤) 受講生の精神保健看護に関する実践経験を踏まえながら、研究テーマを焦点化していく。			
第 11 回～第 20 回	先行文献の検討(半澤) 受講生の研究テーマに関連する先行文献を収集する。			
第 21 回～第 30 回	先行文献を踏まえた研究テーマの再検討 (半澤) 焦点をしばった文献検討および実践の場の分析を行い、現実的な研究課題を明らかにする。			
第 31 回～第 40 回	研究目的の設定とそれを明らかにするための研究方法の検討 (半澤) 先行文献で用いられている研究方法を概観しながら、自らの用いる研究方法を検討し、本研究における仮説を検討する。			
第 41 回～第 50 回	研究計画書の作成 (半澤) 先行研究を踏まえた研究の背景、研究目的、研究方法を記述し、研究計画書を作成する。			
第 51 回～第 60 回	研究倫理審査に必要な資料の作成 (半澤) 研究方法における倫理的課題について検討し、研究倫理審査申請書を作成する。			
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーション内容(50%)、研究計画書及び研究倫理審査申請書の内容(50%)から総合的に評価を行う。			
テ キ ス ト	研究テーマに関連した文献について、受講生自らが収集し、活用する。			
履修上の留意事項	・ 受講生の研究テーマ、研究計画によって、授業の内容、進行は多少の変更を行う。 ・ 事前準備(予習)としては、「看護実践研究論」の授業で作成した研究計画書、関連文献のまとめなどを見直し、さらに関連する文献を入手し先行文献の流れについて予習しておくこと、大学の研究倫理審査に必要な資料について情報収集しておくこと。 ・ 事後の展開(復習)としては、研究を開始するために検討を要する事項について準備すること。			

授 業 科 目 名	がん看護学講義 I	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
到 達 目 標	がんの分子生物学、病因と疫学、予防と検診、診断および治療法について最新の知識を得て、がん患者・家族に対する看護実践への適用方法を説明する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓、石井容子、黒住昌史・山口博紀・柴山千秋・藤原慎一郎・高橋詳史（非常勤） ○概要：がんの分子生物学、病因（遺伝学を含む）と疫学、予防と検診、診断および治療法について最新の知識を得て、がん患者・家族に対する看護実践への適用方法を学習する。				
○授業内容				
第 1 回	がん看護学総論			（小原）
第 2 回	がんの疫学と予防			（小原）
第 3 回	がんと遺伝			（小原）
第 4 回	発がんと浸潤・転移の分子生物学			（高橋）
第 5 回	がんの病理診断			（黒住）
第 6 回	がん診断期にある患者・家族に対する看護実践の理解（プレゼンテーションとディスカッション）			（小原・内堀・石井）
第 7 回	腫瘍内科学			（山口）
第 8 回	放射線腫瘍学			（柴山）
第 9 回	腫瘍外科学			（山口）
第 10 回	造血幹細胞移植			（藤原）
第 11 回	がん領域の臨床試験とがんゲノム医療			（小原）
第 12 回	有害事象に対する支持療法			（山口）
第 13 回	オンコロジー・エマージェンシー			（山口）
第 14 回	講義内容についての理解度確認テスト			（小原・内堀・石井）
第 15 回	がん治療に伴う機能・形態障害および有害事象が患者・家族に与える影響と求められる看護実践（プレゼンテーションとディスカッション）			（小原・内堀・石井）
評 価 方 法	理解度確認テスト（40%）、プレゼンテーション内容（50%）、ディスカッションを含めた授業への参加態度（10%）により評価する。			
テ キ ス ト	指定しない。授業毎に必要なに応じて提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、がん看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「がん看護に関する病態生理学」（2 単位）に相当する。講義の予習および復習を十分に行うこと。第 2～5 回、第 7～13 回の授業内容については、第 14 回に理解度確認テストを実施する。❖誤答があった問題は、正答となるまで取り組む。第 6 回と第 15 回のプレゼンテーションは、事前にプレゼンテーション資料を作成するとともに、ディスカッションによって理解が深まった点は事後にプレゼンテーション資料に加筆し、最終成果物として提出すること。			

授 業 科 目 名	がん看護学講義Ⅱ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	内堀 真弓			
到 達 目 標	がんの診断からエンドオブライフの時期に至るまで、患者・家族へ専門的な看護を実践するうえで基盤となる主要な概念や理論を学び、実践への活用方法を説明する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓、石井容子				
○概要： がんの診断からエンドオブライフの時期（家族に対しては患者との死別後の時期を含む）に至るまで、患者・家族へ専門的な看護を実践するうえで基盤となる主要な概念や理論を学び、それぞれの概念や理論を研究として用いている既報の論文を抄読する。さらに、自身の実践事例について概念や理論を用いて分析し、実践への活用方法を学習する。				
○授業内容				
第 1 回	ガイダンス がん看護領域における実践・研究・教育等の変遷と動向 がん医療とがん看護の現状と課題、専門看護師の歴史と実践、役割拡大について 研究結果や文献から理解する			(内堀)
第 2 回	専門的ながん看護実践のための基盤となる概念・理論の理解(1) ストレスの概念およびストレス・コーピング理論を学び、それらを研究として用いた論文の抄読により、がん看護実践への適用の実際について理解する			(小原、内堀)
第 3 回	専門的ながん看護実践のための概念・理論の活用方法(1) 自身の実践事例についてストレス、ストレス・コーピング理論を用いて分析し、その特徴を理解し、理論の実践への活用方法について学習する			(小原、内堀、石井)
第 4 回	専門的ながん看護実践のための基盤となる概念・理論の理解(2) 危機理論を学び、それを研究として用いた論文の抄読により、がん看護実践への適用の実際について理解する			(小原、内堀)
第 5 回	専門的ながん看護実践のための概念・理論の活用方法(2) 自身の実践事例について危機理論を用いて分析し、その特徴を理解し、理論の実践への活用方法について学習する			(小原、内堀、石井)
第 6 回	専門的ながん看護実践のための基盤となる概念・理論の理解(3) グリーフおよび喪失の概念を学び、それらを研究として用いた論文の抄読により、がん看護実践への適用の実際について理解する			(小原、内堀)
第 7 回	専門的ながん看護実践のための概念・理論の活用方法(3) 自身の実践事例についてグリーフおよび喪失の概念を用いて分析し、その特徴を理解し、概念の実践への活用方法について学習する			(小原、内堀、石井)
第 8 回	専門的ながん看護実践のための基盤となる概念・理論の理解(4) ヘルスプロモーションの概念や健康行動についての理論を学び、それらを研究として用いた論文の抄読により、がん看護実践への適用の実際について理解する			(小原、内堀)

第9回	専門的ながん看護実践のための概念・理論の活用方法(4) 自身の実践事例についてヘルスプロモーションや健康行動についての理論を用いて分析し、その特徴を理解し、概念や理論の実践への活用方法について学習する	(小原、内堀、石井)
第10回	専門的ながん看護実践のための基盤となる概念・理論の理解(5) エンパワメントやレジリエンスの概念を学び、それらを研究として用いた論文の抄読により、がん看護実践への適用の実際について理解する	(小原、内堀)
第11回	専門的ながん看護実践のための概念・理論の活用方法(5) 自身の実践事例についてエンパワメント、レジリエンスの概念を用いて分析し、その特徴を理解し、概念の実践への活用方法について学習する	(小原、内堀、石井)
第12回	専門的ながん看護実践のための基盤となる概念・理論の理解(6) セルフケアの概念やセルフケア理論を学び、それらを研究として用いた論文の抄読により、がん看護実践への適用の実際について理解する	(小原、内堀)
第13回	専門的ながん看護実践のための概念・理論の活用方法(6) 自身の実践事例についてセルフケアの概念やセルフケア理論を用いて分析し、その特徴を理解し、概念や理論の実践への活用方法について学習する	(小原、内堀、石井)
第14回	専門的ながん看護実践のための基盤となる概念・理論の理解(7) ケアリングの概念を学び、それを研究として用いた論文の抄読により、がん看護実践への適用の実際について理解する	(小原、内堀)
第15回	専門的ながん看護実践のための概念・理論の活用方法(7) 自身の実践事例についてケアリングの概念を用いて分析し、その特徴を理解し、概念の実践への活用方法について学習する	(小原・内堀、石井)
評価方法	プレゼンテーション内容(50%)、ディスカッションを含めた授業への参加態度(50%)より総合的に評価を行う。	
テキスト	指定しない。授業毎に必要なに応じて提示する。	
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野共通科目「がん看護に関する理論」(2単位)に相当する。事前及び事後の学習課題について、十分に取り組むこと。	

授 業 科 目 名	がん看護学講義Ⅲ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	内堀 真弓			
到 達 目 標	がん患者の複雑な健康問題をアセスメントするために必要な知識を得て、がんの診断からエンドオブライフの時期に至るまでの患者・家族への包括的な看護実践の展開方法を説明する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓、石井容子、山本真由美・藤本美生・横堀潤子・山崎智子（非常勤）				
○概要： がん患者の複雑な健康問題をアセスメントするために必要な知識を得て、がんの診断からエンドオブライフの時期（家族に対しては患者との死別後の時期を含む）に至るまでの患者・家族への包括的な看護実践の展開方法を学習する。				
○授業内容				
第 1 回	ガイダンス がん診断からエンドオブライフの時期に至るまでがん患者・家族に生じる健康問題のアセスメントとアセスメントに基づく包括的な看護実践			(内堀)
第 2 回	がん患者の症状緩和のための看護実践(1) アセスメントに必要な知識			(石井)
第 3 回	がん患者の症状緩和のための看護実践(2) エビデンスの活用や看護実践の展開方法			(石井)
第 4 回	がん薬物療法を受ける患者・家族への看護実践(1) アセスメントに必要な知識			(山本)
第 5 回	がん薬物療法を受ける患者・家族への看護実践(2) エビデンスの活用や看護実践の展開方法			(山本)
第 6 回	遺伝性のがんをもつ患者・家族への看護実践(1) アセスメントに必要な知識			(横堀)
第 7 回	遺伝性のがんをもつ患者・家族への看護実践(2) エビデンスの活用や看護実践の展開方法			(横堀)
第 8 回	放射線治療を受けるがん患者・家族への看護実践(1) アセスメントに必要な知識			(藤本)
第 9 回	放射線治療を受けるがん患者・家族への看護実践(2) エビデンスの活用や看護実践の展開方法			(藤本)
第 10 回	がん患者のリハビリテーションに関する看護実践(1) がん患者のリハビリテーションに関する課題の理解			(小原)
第 11 回	がん患者のリハビリテーションに関する看護実践(2) エビデンスの活用や看護実践の展開方法			(小原)
第 12 回	AYA 世代のがん患者・家族への看護実践 AYA 世代のがん患者・家族に関する課題と看護実践の展開方法			(内堀)
第 13 回	高齢がん患者・家族への看護援助 アセスメントに必要な知識と看護実践の展開方法			(内堀)
第 14 回	エンドオブライフにあるがん患者・家族への看護実践 アセスメントに必要な知識			(山崎)

第15回	エンドオブライフにあるがん患者・家族と遺族への看護実践 エビデンスの活用や看護実践の展開方法	(山崎)
評価方法	ディスカッションを含めた授業への参加態度(20%)、各段階で求める課題レポート(80%)により総合的に評価を行う。	
テキスト	指定しない。必要に応じて授業毎に提示する。	
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野共通科目「がん看護に関わる看護援助論」(2単位)に相当する。 講師より事前に課題が提示された場合は、各自文献を収集して抄読し、考えをまとめて授業に参加すること。	

授 業 科 目 名	がん看護学演習 I	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
到 達 目 標	がんの診断からエンドオブライフの時期に至るまで、患者・家族に最適な緩和ケアを提供するための高度実践看護職に求められる役割・機能を説明する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓、石井容子、飯塚由美子・平野勇太・藤原紀子・水野道代（非常勤）				
○概要： がんの診断からエンドオブライフの時期（家族に対しては患者との死別後の時期を含む）に至るまで、患者・家族に最適な緩和ケアを提供するための高度実践看護職に求められる役割・機能について、文献抄読ならびに実際の活動を知ることを通して理解を深め、プレゼンテーションやディスカッションの機会に説明する。				
○授業内容				
第 1 回	ガイダンス、緩和ケア概論			（小原・内堀・石井）
第 2 回	がん看護専門看護師の実践機能① テキスト第 7 章『患者の家族へケアリング』から優れた臨床実践と考えた事例を選択し、看護実践の構造を説明する資料を作成し、プレゼンテーションを行う。			（小原・内堀・石井）
第 3 回	がん看護専門看護師の実践機能② プレゼンテーションに対するディスカッションを行った後、新たに気づいた事柄をレポートにまとめ提出する。			
第 4～ 7 回	高度ながん看護：実践機能の実際 がん看護専門看護師の実践機能の実際についての臨地講義を受け（第 4～5 回）、活動を見学する（第 6～7 回）。			（飯塚）
第 8 回	見学内容に基づきがん看護専門看護師の実践機能を再考してプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。			（小原・内堀・石井）
第 9 回	がん看護専門看護師の相談・調整機能① テキスト第 10 章『論理的に述べること：臨床評価の共有とチームワークの改善』から優れた臨床実践と考えた事例を選択し、看護実践の構造を説明する資料を作成し、プレゼンテーションを行う。			（小原・内堀・石井）
第 10 回	がん看護専門看護師の相談・調整機能② プレゼンテーションに対するディスカッションを行った後、新たに気づいた事柄をレポートにまとめ提出する。			
第 11～14 回	高度ながん看護：相談・調整機能の実際 がん看護専門看護師の相談・調整機能の実際についての臨地講義を受け（第 11～12 回）、活動を見学する（第 13～14 回）。			（平野）
第 15 回	見学内容に基づきがん看護専門看護師の相談・調整機能を再考してプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。			（小原・内堀・石井）
第 16 回	がん看護専門看護師の倫理調整機能① テキスト第 9 章『死と向き合うこと：終末期ケアと意思決定』から優れた臨床実践と考えた事例を選択し、看護実践の構造を説明する資料を作成し、プレゼンテーションを行う。			（小原・内堀・石井）
第 17 回	がん看護専門看護師の倫理調整機能② プレゼンテーションに対するディスカッションを行った後、新たに気づいた事柄をレポートにまとめ提出する。			
第 18～21 回	高度ながん看護：倫理的な問題・葛藤と調整の実際 がん看護専門看護師の倫理調整機能の実際についての臨地講義を受け（第 18～19 回）、活動を見学する（第 20～21 回）。			（藤原）

第22回	見学内容に基づきがん看護専門看護師の倫理調整機能を再考してプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。	(小原・内堀)
第23回	がん看護専門看護師の教育機能① テキスト第13章『教育方法と提言』から優れた臨床実践と考えた事例を選択し、看護実践の構造を説明する資料を作成し、プレゼンテーションを行う。	(小原・内堀・石井)
第24回	がん看護専門看護師の教育機能② プレゼンテーションに対するディスカッションを行った後、新たに気づいた事柄をレポートにまとめ提出する。	(内堀)
第25～26回	高度ながん看護：教育機能の実際① 高度実践看護職の実践機能の実際についての講義 高度ながん看護：教育機能の実際②	
第27回	講義に基づいてがん看護専門看護師の教育機能を再考してプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。	(小原・内堀・石井)
第28～29回	がん看護専門看護師の研究機能① リサーチクエスションの設定、研究計画策定から実装までのプロセスについての講義	(水野)
第30回	がん看護専門看護師の研究機能② 自らの研究テーマに関するプレゼンテーションとディスカッション	(小原・内堀・石井)
評価方法	プレゼンテーション内容(90%)、授業への参加態度(10%)により総合的に評価を行う。	
テキスト	P. ベナーほか(井上智子監訳)：ベナー 看護ケアの臨床知—行動しつつ考えること 第2版, 医学書院. その他、関連する文献・研究論文を適宜提示する。	
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「緩和ケア」(2単位)に相当する。 プレゼンテーションの準備やプレゼンテーション後の再考について、十分に取り組むこと。	

授 業 科 目 名	がん看護学演習Ⅱ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
到 達 目 標	がん患者の苦痛症状を包括的にアセスメントし、症状緩和を図る看護実践方法を説明する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓、石井容子、岩永麻衣子（非常勤）				
○概要：講義、テーマについてのプレゼンテーションおよびディスカッション、高度な緩和ケア実践の見学を通して、がん患者の苦痛症状を包括的にアセスメントし、症状緩和を図る看護実践方法を説明する。				
○授業内容				
第 1 回	ガイダンス			(小原・内堀)
第 2 回	包括的アセスメント総論			(小原)
第 3 回	がん性疼痛のアセスメントと症状緩和のためのエビデンス			(小原)
第 4 回	がん性疼痛のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法① ペーパーペイシェントのがん性疼痛をアセスメントし、症状緩和を図る看護実践方法を発表する (プレゼンテーション)。			(小原・内堀・石井)
第 5 回	がん性疼痛のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法② 発表内容に対するディスカッションを通して、アセスメントならびに症状緩和を図る看護実践方法について理解を深める。			
第 6 回	倦怠感のアセスメントと症状緩和のためのエビデンス			(小原)
第 7 回	倦怠感のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法① ペーパーペイシェントの倦怠感をアセスメントし、症状緩和を図る看護実践方法を発表する (プレゼンテーション)。			(小原・内堀・石井)
第 8 回	倦怠感のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法② 発表内容に対するディスカッションを通して、アセスメントならびに症状緩和を図る看護実践方法について理解を深める。			
第 9 回	消化器症状のアセスメントと症状緩和のためのエビデンス			(内堀)
第 10 回	消化器症状のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法① ペーパーペイシェントの消化器症状をアセスメントし、症状緩和を図る看護実践方法を発表する (プレゼンテーション)。			(小原・内堀・石井)
第 11 回	消化器症状のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法② 発表内容に対するディスカッションを通して、アセスメントならびに症状緩和を図る看護実践方法について理解を深める。			
第 12 回	呼吸器症状のアセスメントと症状緩和のためのエビデンス			(小原)
第 13 回	呼吸器症状のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法① ペーパーペイシェントの呼吸器症状をアセスメントし、症状緩和を図る看護実践方法を発表する (プレゼンテーション)。			(小原・内堀・石井)
第 14 回	呼吸器症状のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法② 発表内容に対するディスカッションを通して、アセスメントならびに症状緩和を図る看護実践方法について理解を深める。			
第 15 回	精神的・心理的苦痛のアセスメントと苦痛緩和のためのエビデンス			(内堀)
第 16 回	精神・心理的苦痛のアセスメントと苦痛緩和を図る看護実践方法① ペーパーペイシェントの精神・心理的苦痛をアセスメントし、苦痛緩和を図る看護実践方法を発表する (プレゼンテーション)。			(小原・内堀・石井)
第 17 回	精神・心理的苦痛のアセスメントと苦痛緩和を図る看護実践方法②			

第 18 回	発表内容に対するディスカッションを通して、アセスメントならびに苦痛緩和を図る看護実践方法について理解を深める。	
第 19 回	社会的苦痛およびスピリチュアルな苦痛のアセスメントと苦痛緩和のためのエビデンス	(小原)
第 20 回	社会的苦痛およびスピリチュアルな苦痛のアセスメントと苦痛緩和を図る看護実践方法① ペーパーペイシエントの社会的苦痛およびスピリチュアルな苦痛をアセスメントし、苦痛緩和を図る看護実践方法を発表する (プレゼンテーション)。	(小原・内堀・石井)
第 21 回	社会的苦痛およびスピリチュアルな苦痛のアセスメントと苦痛緩和を図る看護実践方法② 発表内容に対するディスカッションを通して、アセスメントならびに苦痛緩和を図る看護実践方法について理解を深める。	
第 22 回	臨死期の苦痛のアセスメントと苦痛緩和のためのエビデンス	(小原)
第 23 回	臨死期における患者・家族の苦痛のアセスメントと苦痛緩和を図る看護実践方法① ペーパーペイシエント・家族の苦痛をアセスメントし、苦痛緩和を図る看護実践方法を発表する (プレゼンテーション)	(小原・内堀・石井)
第 24 回	臨死期における患者・家族の苦痛のアセスメントと苦痛緩和を図る看護実践方法② 発表内容に対するディスカッションを通して、アセスメントならびに苦痛緩和を図る看護実践方法について理解を深める。	
第 25 回	高度な緩和ケア実践の実際	(岩永)
第 26 回	がん看護専門看護師による高度な緩和ケアの実際について臨地講義を受け (第 24～25 回)、活動を見学する (第 26～27 回)	
第 27 回	見学内容に基づき、高度な緩和ケア実践について考察し、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う (第 28 回)。	(小原・内堀・石井)
第 28 回	まとめ① がん患者の苦痛症状のアセスメントならびに症状緩和を図る看護実践方法について、本科目で新たに理解したことをプレゼンテーションする。	(小原・内堀・石井)
第 29 回	まとめ② プレゼンテーションに対するディスカッションを通して、がん患者・家族に対する緩和ケアにおける今後の看護実践課題を説明する。	(小原・内堀・石井)
第 30 回		
評価方法	プレゼンテーション内容 (90%)、授業への参加態度 (討議内容) (10%) により総合的に評価を行う。	
テキスト	指定しない。必要に応じて授業毎に提示する。	
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「緩和ケア」(2 単位) に相当する。事前及び事後の学習課題について、十分に取り組むこと。	

授 業 科 目 名	がん看護学演習Ⅲ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科目責任者	小原 泉			
到達目標	がんの診断からエンドオブライフの時期に至るまで、患者・家族の療養過程で生じる倫理的課題ならびに看護システム上の課題を理解し、課題解決のための方略を探究する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓、石井容子、鮎澤みどり・角田直枝・黒崎雅子・佐藤由紀子・中島朋子（非常勤）				
○概要：がんの診断からエンドオブライフの時期（家族に対しては患者との死別後の時期を含む）に至るまで、患者・家族の療養過程で生じる倫理的課題ならびに看護システム上の課題を理解し、訪問看護や在宅看取り、死別の家族に対する看護の場の見学、プレゼンテーションならびにディスカッションを通して課題解決のための方略を探究する。				
○授業内容				
第 1 回	ガイダンス			(小原・内堀) (内堀)
第 2 回	がん患者と家族の療養過程で生じる倫理的課題：概論 がん患者と家族に対する緩和ケア提供に伴う看護システムの現状と課題：概論			(内堀)
第 3 回	がん患者・家族が治療や療養の場を選択するための意思決定支援(1) 意思決定支援に関するエビデンスの理解			(小原)
第 4 回	がん患者・家族が治療や療養の場を選択するための意思決定支援(2) 意思決定支援の実際と課題			(小原)
第 5 回	アドバンス・ケア・プランニング(1) アドバンス・ケア・プランニングに関するエビデンスの理解			(小原)
第 6 回	アドバンス・ケア・プランニング(2) アドバンス・ケア・プランニングの実際と課題			(小原)
第 7 回	長期療養過程にあるがん患者・家族の療養の場の選択における倫理的課題			(佐藤)
第 8 回	長期療養過程にあるがん患者・家族の療養の場の選択における倫理的課題の解決に向けた人材育成			(佐藤)
第 9 回	がん患者と家族の暮らしに関わる社会的課題			(中島)
第 10 回	がん患者と家族の暮らしに関わる社会的課題の解決に向けた仕組みづくり			(中島)
第 11 回	がん患者・家族の療養過程を支える看看連携の現状と課題			(角田)
第 12 回	がん患者・家族の療養過程を支える看看連携を円滑にする体制構築			(角田)
第 13～20 回	がん患者と家族の療養生活を地域で支えるための高度ながん看護の実際 がん患者に対する訪問看護の実際について臨地講義を受講する（第 13 回）。 講義内容をもとに、訪問看護の場の見学計画書を作成・発表し、助言を受ける（第 14 回）。 訪問看護の場を 1～2 日程度見学する（第 15～19 回）。 見学内容に基づき、がん患者と家族の療養生活を地域で支えるための高度ながん看護を考察して、 プレゼンテーションおよびディスカッションを行う（第 20 回）。			(黒崎)

第21～28回	在宅での看取りと死別後の家族ケアのための看護システムの実際 がん患者の在宅での看取りと死別後の家族ケアのための看護システムの実際について臨地講義を受講する(第21回)。 講義内容をもとに、在宅での看取りと死別後の家族ケアの場の見学計画書を作成・発表し、助言を受ける(第22回) がん患者の在宅での看取りと死別後の家族ケアについて、訪問看護師の活動を1～2日程度見学する(第23～27回)。 見学内容に基づき、がん患者の在宅での看取りと死別後の家族ケアのための看護システムのあり方を考察して、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う(第28回)。	(鮎澤)
第29～30回	がん患者・家族の療養過程で生じる倫理的課題ならびに看護システム上の課題解決のための方略の探求 プレゼンテーション(第29回)ならびにディスカッション(第30回)	(小原・内堀・石井)
評価方法	プレゼンテーション内容(60%)、授業への参加態度(討議内容を含む)(40%)により総合的に評価を行う。	
テキスト	指定しない。授業毎に必要なに応じて提示する。	
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「緩和ケア」(2単位)に相当する。事前及び事後の学習課題について、十分に取り組むこと。	

授 業 科 目 名	がん看護学演習Ⅳ	専 門 科 目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
到 達 目 標	がんの診断からエンドオブライフの時期に至るまで、高度な緩和ケアを患者・家族に提供するための看護実践方法を修得する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓、石井容子				
○概要：				
がんの診断からエンドオブライフの時期（家族に対しては患者との死別後の時期を含む）に至るまで、キュアとケアを統合した高度な緩和ケアを患者・家族に提供するための看護実践方法を修得する。特に臨床判断過程とケア計画については、シミュレーション学習を通して看護実践能力を向上させる。				
○授業内容				
第 1 回	ガイダンス キュアとケアを統合した高度な緩和ケア：概説	(小原・内堀)		
第 2～5 回	的確な患者アセスメントのための観察スキル 講義：観察スキルを高める意義と方法（第 2 回） 演習：ディベックス・ジャパン『乳がんの語り』より指定のコンテンツを視聴し、観察記録を作成、観察内容のアセスメントを行う（第 3～4 回）自己の観察スキルの振り返りについてのプレゼンテーションとディスカッション（第 5 回）	(小原・内堀・石井)		
第 6～9 回	コミュニケーション・スキル 講義：コミュニケーション・スキルを高める意義と方法（第 6 回） 演習：自らの看護実践経験から、患者とのコミュニケーションを振り返りたい場面をもとに事例を作成し、ロールプレイを行う。行ったコミュニケーション場面のプロセスレコードを作成し、コミュニケーションを振り返る（第 7～8 回）。 振り返った内容についてディスカッションを行い、コミュニケーションにおける自己課題を明確化する（第 9 回）	(小原・内堀・石井)		
第 10～14 回	高度な緩和ケアを提供するための臨床判断過程とケア技術①：がん性疼痛 がん性疼痛事例に対する臨床判断過程とケア計画：プレゼンテーションとディスカッション（第 10～11 回） 立案したケア計画の実践：模擬患者を導入したシミュレーション学習（第 12～13 回） 模擬患者に対するケア計画の実践の振り返り：プレゼンテーションとディスカッション（第 14 回）	(小原・内堀・石井)		
第 15～19 回	高度な緩和ケアを提供するための臨床推論・判断過程とケア技術の探求方法②：倦怠感 倦怠感事例に対する臨床判断過程とケア計画：プレゼンテーションとディスカッション（第 15～16 回） 立案したケア計画の実践：模擬患者を導入したシミュレーション学習（第 17～18 回） 模擬患者に対するケア計画の実践の振り返り：プレゼンテーションとディスカッション（第 19 回）	(小原・内堀・石井)		
第 20～24 回	高度な緩和ケアを提供するための臨床推論・判断過程とケア技術の探求方法③：消化器症状 消化器症状事例に対する臨床判断過程とケア計画：プレゼンテーションとディスカッション（第 20～21 回）	(小原・内堀・石井)		

	立案したケア計画の実践：模擬患者を導入したシミュレーション学習（第22～23回） 模擬患者に対するケア計画の実践の振り返り：プレゼンテーションとディスカッション（第24回）	
第25～29回	高度な緩和ケアを提供するための臨床推論・判断過程とケア技術の探求方法④： 呼吸器症状 呼吸器症状事例に対する臨床判断過程とケア計画：プレゼンテーションとディスカッション（第25～26回） 立案したケア計画の実践：模擬患者を導入したシミュレーション学習（第27～28回） 模擬患者に対するケア計画の実践の振り返り：プレゼンテーションとディスカッション（第29回）	（小原・内堀・石井）
第30回	高度な緩和ケアを提供するための臨床推論・判断過程とケア技術：まとめ これまでの学びの振り返り・自己課題のプレゼンテーション	（小原・内堀・石井）
評価方法	プレゼンテーション（60%）、シミュレーション学習における看護実践内容（20%）、授業への参加態度（準備、発表および討議内容を含む）（20%）により総合的に評価を行う。	
テキスト	指定しない。授業毎に必要な応じて提示する。	
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「緩和ケア」（2単位）に相当する。事前及び事後の学習課題について、十分に取り組むこと。	

授 業 科 目 名	がん看護学演習Ⅴ	専門科目	1 年次後期	4 単位
科 目 責 任 者	内堀 真弓			
到 達 目 標	研究計画書の作成に必要な構成要素を理解し、がん看護学領域における知識の総体を拡充するための研究過程を概観する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓、石井容子				
○概要： 文献検討の方法、概念や概念枠組み、代表的な研究デザインを学び、研究計画書の作成に必要な構成要素を理解してがん看護学領域における知識の総体を拡充するための研究過程を概観する。				
○授業内容				
第 1 回	ガイダンス 研究計画書作成の意義、実践経験からの研究疑問の検討			(小原、内堀、石井)
第 2 回～第 20 回	文献検討の方法の理解 文献検討の意義、学術論文の基本的構成、論文の種類、文献レビューの方法、文献クリティークの方法			(小原、内堀、石井)
第 21 回～第 24 回	概念や概念枠組みの理解 理論および概念モデルの特性、概念モデルの看護研究での活用方法			(小原、内堀、石井)
第 25 回～第 29 回	代表的な研究デザインの理解 1 研究デザインの特徴、エビデンスレベル			(小原、内堀、石井)
第 30 回～第 39 回	代表的な研究デザインの理解 2 量的研究のデザイン ―データ収集と分析方法―			(小原、内堀、石井)
第 40 回～第 49 回	代表的な研究デザインの理解 3 質的研究のデザイン ―データ収集と分析方法―			(小原、内堀、石井)
第 50 回～第 59 回	代表的な研究デザインの理解 4 量的デザインと質的デザインの統合 ―データ収集と分析方法―			(小原、内堀、石井)
第 60 回	自身の研究課題に関する研究計画に必要な構成要素の検討			(小原、内堀、石井)
評 価 方 法	プレゼンテーション内容 (50%)、ディスカッション内容 (40%)、授業への参加態度 (10%)より総合的に評価を行う。			
テ キ ス ト	指定しない。必要に応じて授業毎に提示する。			
履修上の留意事項	事前準備として、関連する参考文献や研究論文を読み、積極的に討議に参加すること。			

授 業 科 目 名	がん看護専門看護実習Ⅰ	専 門 科 目	2 年 次 前 期	6 単 位
科 目 責 任 者	小原 泉			
到 達 目 標	複雑な健康問題をもつがん患者・家族に、地域と連携して最適な緩和ケアを提供するための専門看護師の役割（直接ケア、相談、調整、倫理調整、教育および研究）と機能の実際を理解し、求められる実践能力と自己課題、役割開発について探求したことを説明する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓、石井容子 ○実習概要 本実習は、①専門看護師役割実習、②高度実践看護実習から成り、がん看護専門看護師（以下、CNS）に求められる役割と機能の実際を理解し、系統的かつ包括的な実践能力を育成する。				
1. CNS役割実習：1単位				
1) 目的 地域や組織の特性をふまえ、地域と連携して最適な緩和ケアを提供するために活動するCNSの思考や行動、実践の評価の視点を理解する。				
2) 期間 1週間				
3) 実習方法 CNSの活動を見学する。見学内容からCNSの思考や行動、実践の評価の視点を考察し、CNSより指導を受ける。CNSの役割についての考察を深め、レポートを作成する。詳細は「がん看護専門看護実習要項」参照。				
4) 実習場所 国立がん研究センター東病院あるいは茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター				
2. 高度実践看護実習：5単位				
1) 目的 複雑な健康問題をもつがん患者・家族に、地域と連携して最適な緩和ケアを提供するためのCNSの役割(直接ケア・相談・調整・倫理調整・教育・研究)を担う経験を通して、求められる実践能力や自己の課題を明らかにし、役割開発について探求する。				
2) 期間 5週間				
3) 実習方法 患者を受け持ち、看護実践を行う。受け持ったがん患者・家族に、地域と連携して最適な緩和ケアを提供する上で生じる課題に対して、CNSより指導を受けながら直接ケア・相談・調整・倫理調整・教育・研究役割を主体的に担う。実習カンファレンス、CNS のスーパービジョンを通して、CNS に求められる実践能力や自己課題および最適な緩和ケアを提供するための CNS の役割開発を探求し、レポートを作成する。詳細は「がん看護専門看護実習要項」参照。				
4) 実習場所 実習場所：栃木県立がんセンターあるいは自治医科大学附属病院（地域がん診療連携拠点病院）				
評 価 方 法	実習目標の到達度、レポート、実習態度等により総合的に評価を行う。がん看護専門看護実習要項に詳細は記載する。			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「実習」（6単位）に相当する。 実習の詳細は、「がん看護専門看護実習要項」を参照のこと			

授 業 科 目 名	がん看護専門看護実習Ⅱ	専門科目	2 年次後期	4 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
到 達 目 標	がん治療に伴う臨床判断、医療処置も含めた身体管理方法の実際を学ぶことを通して、がん患者・家族にキュアとケアを統合した最適な緩和ケアを提供するための看護実践に求められる能力を説明する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓、石井容子				
○概要（実習内容、実習方法、実習場所および実習期間）				
1. 実習目的				
がん治療に伴う臨床判断、医療処置も含めた身体管理方法の実際を学び、がん患者・家族にキュアとケアを統合した最適な緩和ケアを提供するための看護実践に求められる能力を探究する。				
2. 実習期間				
4 週間				
3. 実習内容				
外来および病棟でがん薬物療法を受け、症状緩和のための身体管理を要する患者を複数担当し、医師による臨床判断の内容や医療処置も含めた身体管理の方法を学ぶとともに、医師およびがん看護専門看護師のスーパーバイズの下で、患者の有害事象や苦痛の緩和に対する医学的な臨床判断の方法を理解し、キュアとケアを統合した最適な緩和ケアを提供するための看護実践を探究する。				
4. 実習方法				
1) 実習前準備				
各自が立案した実習計画書をもとに、実習指導者(医師とがん看護専門看護師)と事前面談をおこない、実習内容の調整をする。				
2) 実習中				
(1) 担当する外来あるいは病棟でがん薬物療法を受ける患者（以下、対象者）に関する医療情報について、電子カルテ等で情報を得る。				
(2) 医師の診察前に対象者と面談をする。				
(3) 対象者の有害事象や苦痛の内容および程度を包括的に把握し、その臨床判断過程を検討し記録する。				
(4) 対象者の有害事象や苦痛に対する身体管理方法や適切な医療処置を検討し記録する。				
(5) 医師の診察に同席し、自らが把握した患者の有害事象や苦痛の内容および程度、それらに対する臨床判断、身体管理方法や医療処置の妥当性を確認する。				
(6) 診察終了後、自らの臨床判断、身体管理方法や医療処置の理解を深めるため、医師からスーパーバイズを受け、適宜修正する。				
(7) 日々の実習終了後及び実習終了日に、がん薬物療法を受ける患者に対するキュアとケアを統合した看護実践を提供する方法を考察した内容について、医師、がん看護専門看護師、教員とともにカンファレンスを行い、スーパーバイズを受ける。				
3) 実習終了後				
ケースレポート及び、自己の課題をレポートにまとめる。				
4. 実習場所				
自治医科大学附属病院（地域がん診療連携拠点病院）でがん薬物療法を実施している外来および病棟				
評 価 方 法	レポート評価、実習評価等により総合的に評価を行う。がん看護専門看護実習要項に詳細は記載する。			
テ キ ス ト	日本臨床腫瘍学会編：新臨床腫瘍学（改訂第6版），南江堂, 2021. がん看護や専門看護師の役割に関する文献			
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「実習」（4 単位）に相当する。 実習の詳細は、がん看護専門看護実習要項を参照のこと			

授 業 科 目 名	がん看護学課題研究	専門科目	2 年次後期	4 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
授 業 目 標	講義・演習・専門看護実習をとおして見出された看護実践上の課題について、取得を目指す小児看護専門看護師の役割の遂行に寄与する研究を行い、研究指導を受けて修士論文を作成する。			
授 業 概 要				
○研究指導教員名：小原泉、内堀真弓 ○研究指導補助教員名：石井容子 ○概要 入学時から各学生の関心のある研究課題について検討し、選択した領域の授業科目等において、研究指導教員の指導を受けて実施可能なテーマを決定し、研究指導を受けて、修士論文を作成する。 ○方法 研究指導教員は、看護学研究科委員会において決定する。 研究指導は、がん看護専門看護実習の指導者による研究課題に関する直接的助言とともに、個別指導や領域内で開催される少人数指導によって行う。 がん看護専門看護師教育課程の修了を目指す学生が、がん看護専門看護実習で担当した患者、家族または集団、看護職を含むケア提供者や保健医療福祉に携わる人々を対象として、直接的ケア、相談、調整、倫理調整、教育、研究のうち、いずれかまたはいくつかの役割に焦点を当てて、看護実践の質の維持・向上に寄与する研究課題を設定する。設定したテーマに関する研究活動を展開し、研究指導を受けて、修士論文を作成する。				
評 価 方 法	修士論文の研究課題に関する研究活動の展開、論文執筆等の研究活動の経過(60%)およびその内容(40%)			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	本科目を履修する場合、必ず「小児看護専門看護実習」の全科目を履修しなければならない。			

授 業 科 目 名	がん看護学特別演習	専門科目	2 年次前期	4 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
到 達 目 標	がん看護学領域における自らの関心領域に関連する文献考察を通して研究課題を明確にする。研究課題に基づいた研究の進め方、研究成果の実践への適用し評価するまでの一連のプロセスを理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉,内堀真弓、石井容子				
○概要 がん看護学領域における自己の関心領域のテーマに関連する文献を概観し、クリティークし看護研究の方法について探究する。自己の関心領域に関連する文献検討より研究課題を明確にし、研究課題に基づいた研究方法について学修し、研究計画書を作成する。				
＜方法＞ 第 1 回～第 20 回：がん看護学領域における自己の関心領域のテーマに関連する文献を概観する。 文献クリティークを通して看護研究の方法について探究する。 第 21 回～第 45 回：自己の関心領域に関連する文献検討の結果より研究課題を明確にする。 第 46 回～第 60 回：研究課題に基づいた研究方法について学修し、研究計画書を作成する。				
評 価 方 法	プレゼンテーション内容（30％）、討議内容・授業への参加態度（30％）と、各段階で求める課題レポート（40％）により総合的に評価を行う。			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	事前準備として、関連する参考文献・研究論文を読み、討議には積極的に参加する。			

授 業 科 目 名	実践看護学特別研究	専門科目	2 年次後期	6 単位
科 目 責 任 者	半澤 節子			
到達目標	実践看護学分野におけるいずれかの領域の講義・演習・特別演習をとおして明らかになった実践的課題の中から、実践看護学分野の対象となる人々へのケアの改善・改革に関連する研究課題を設定し、その課題について研究活動を展開し、修士論文を作成する。			
授 業 概 要				
○研究指導教員名：川野亜津子、角川志穂、永井優子、半澤節子、小原泉、内堀真弓				
○研究指導補助教員名：田村敦子、石井容子				
○概要				
入学時から各学生の関心のある研究課題について検討し、選択した領域の授業科目等において、研究指導教員の指導を受けて実施可能なテーマを決定し、研究計画を立案し、研究活動を展開して、修士論文を作成する。				
○方法				
研究指導教員は、看護学研究科委員会において決定し、原則として入学時に学生に提示される。個別指導や領域内で開催される少人数指導を行う。				
「母性看護学」領域				
母性看護学の現状分析を踏まえ、さまざまな健康・生活状況にある母子とその家族に対する高度な看護・助産能力をもち、母性看護における専門的知識や研究課題を探究する。				
「小児看護学」領域				
小児看護学の現状と将来的な展望を踏まえ、さまざまな健康状況にある子どもがよりよく育つことを目的に、小児看護における専門的な知識や研究課題を探究する。				
「精神看護学」領域				
人間の生涯にわたる精神的健康の増進から重度の精神障害者の支援までを行う精神看護における高度な実践専門職として、役割を果たすことができ、実践状況を変革できる研究課題を探究する。				
「がん看護学」領域				
我が国のがん医療の高度化・専門分化に伴い、がんによる健康障害各期(急性期・慢性期・回復期・終末期)の看護に関する領域のさらなる充実を目指し、特に、がん看護における専門的な知識や研究課題を探究する。また、がん患者とその家族に生じる複雑な状況を的確に判断し、苦痛や苦悩を緩和し、生活の質の向上を目指した高度な看護実践に関する研究課題を探究する。				
評 価 方 法	修士論文の研究計画の立案、研究活動の展開、論文執筆等の研究活動の経過(60%)およびその内容(40%)			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	本科目を履修する場合、必ず実践看護学分野におけるいずれかの領域の「特別演習」を履修しなければならない。事前の準備(予習)としては、受講するにあたり、「特別演習」などの授業を通して、研究課題に関連する文献の概要をまとめ、先行研究の流れを踏まえた自身の研究課題の位置づけを整理しておくこと。事後の展開(復習)としては、修士論文としてまとめた内容について、所属する関連の学術団体などで発表すること。			

授 業 科 目 名	老年看護管理学講義 I	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	浜端 賢次			
到 達 目 標	高齢者看護の概念及び高齢期の特徴と健康課題を理解し、高齢者を対象とした看護管理について理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：浜端賢次、川上勝、上野まり（非常勤） ○概要：高齢者看護の概念及び高齢者の特徴と健康課題ならびに発達課題について教授するとともに、高齢者の看護管理に関する現状とその課題について検討する。				
第1回～第4回	高齢期の特徴と発達課題（浜端・川上） 高齢期の特徴とサクセスフル・エイジング 生涯発達理論（E.H.エリクソン）とGenerativity 高齢期と喪失			
第5回～第7回	高齢者看護に関連した諸理論（浜端） 高齢者看護に関連した諸理論やアセスメントの概要 ケアマネジメント、ケアリング・エンパワメント			
第8回～第9回	高齢者の意志決定と看護倫理（浜端） 高齢者の意志決定と看護倫理に関する問題と課題 高齢者の倫理的課題と権利擁護 認知症の告知、成年後見人制度等			
第10回～第12回	高齢者看護実践の現状（浜端・川上・上野） 高齢者看護の概念と高齢者看護や看護管理学の観点からの高齢者ケアの実践について			
第13回～第15回	高齢者と家族、高齢期の看護管理の現状と課題（浜端・川上・上野） 高齢者の家族形態の特徴と様々な課題 高齢者虐待、アドボカシー、 家族介護者に関する課題			
評 価 方 法	授業への参加態度（50%）、プレゼンテーションおよび課題レポート（50%）など総合的に評価する。			
テ キ ス ト	特に指定しない。国内外の専門誌や論文を用いる（高齢者に関する課題・重要度の高いトピックを取り上げる）。			
履修上の留意事項	事前学習として、推薦テキスト・資料等に目を通し不明点・問題点を明確化して授業に臨む。事後の学習としては、特に高齢者に関した重要事項や研究テーマに関連すると思われる所については、自己学習による深化を期待する。			

授 業 科 目 名	老年看護管理学講義Ⅱ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	浜端 賢次			
到 達 目 標	健康障害をもつ高齢者が社会資源を活用しつつ、最終発達課題である「死」を迎えて行くにあたり、終末期前後のケアや家族の様相及びエンパワメントについて体系的に理解し看護実践と研究課題を探究していく。			
授 業 概 要				
○担当教員名：浜端 賢次、川上 勝、上野 まり（非常勤） ○概要：健康障害にある高齢者が社会資源を活用し、終末期～「死」そして遺族へのケアについて学修する。同時に在宅看取りと家族及びエンパワメントについて探求する。また認知症高齢者の援助実践を包括的に理解し研究課題の探究に繋げる。				
第1回～第3回	高齢者の健康障害と生活を支える保健・医療政策の動向について（浜端・川上） 超高齢社会における高齢者の生活実態と健康課題 保健・医療・福祉を取り巻く実状とそれに対する施策や制度の在り方 超高齢社会と多死社会を支える高齢者看護に期待される役割			
第4回～第6回	高齢者とその家族の概念化とエンパワメントについて（浜端・川上・上野） 高齢者と家族のサポートシステムの実践・研究の動向 多様な場で生活・療養する高齢者と家族の研究の動向			
第7回～第10回	認知症高齢者ケアの史的変遷、実践・研究に関する動向について（浜端） 認知症高齢者ケアに関する国内の史的変遷 認知症高齢者ケアの実践・研究に関する動向			
第11回～第13回	在宅での看取りの実践・研究の最新の動向について（浜端・上野） 終末期の高齢者を看取る家族のニーズと支援 臨死期の看取り～遺族へのケアとスピリチュアリティの問題			
第14回～第15回	高齢者の終末期～遺族へのケアに関する研究の実際について（浜端・川上） さまざまな場における終末期の看護実践 研究課題と研究方法について文献等を用いた討論			
評 価 方 法	授業への参加態度(50%)、プレゼンテーションおよびレポート(50%)			
テ キ ス ト	指定しない。国内外の専門誌や論文を用いる。			
履修上の留意事項	事前学習として、学習課題を踏まえて不明点・問題点を明確化して授業に臨む。事後には、最新の文献による知見を確認し、高齢者看護における位置づけと問題点について思考を深める。			

授 業 科 目 名	老年看護管理方法 I	専門科目	1・2 年次前期 2 単位
科 目 責 任 者	浜端 賢次		
到 達 目 標	生活要因や保健行動との関連から、高齢者の健康課題の評価方法や心身機能の保持・回復にかかわる専門的ケアの提供方法を検討する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：浜端 賢次、川上 勝 ○概要：高齢者看護に関する文献検討を通して、健康課題の評価の方法や専門的ケアの提供方法に関する課題を明確にする。			
第 1 回～第 7 回	生活要因や保健行動との関連から高齢者の健康課題を評価する方法の検討 (浜端・川上) ・生活習慣病（高血圧、糖尿病など）における高齢者の健康課題と評価方法 ・老年症候群やフレイルにおける高齢者の健康課題と評価方法 ・認知症における高齢者の健康課題と評価方法 ・入院や施設入所・施設利用、住み慣れた場における健康課題と評価方法 ・ICFの視点やCGAを活用したヘルスニーズの把握とアセスメント など		
第 8 回～第 15 回	高齢者の心身機能の保持・回復にかかわる専門的ケアの提供方法に関する検討 (浜端・川上) 高齢者の統合ケア（ICOPE）に関する検討 転倒予防、介護者支援、重度の認知機能障害、予防と心理的ウェルビーイングの向上、尿失禁などの加齢に伴う健康状態の管理、筋骨格系の機能・活動性、活力の向上、感覚機能の維持 など 地域包括ケアシステムにおける専門的ケアの検討 ・ Case（CI, Parkinson’s Disease, Dementia など） ・地域包括リハビリテーション広域支援センターの役割 ・医療と介護の連携 ・多職種の協働・連携 ・市町村を中心とした行政の役割 ・入院中、施設利用中、在宅療養高齢者と家族（介護者）に対する看護		
評 価 方 法	授業への参加態度(50%)、プレゼンテーションおよびレポート(50%)		
テ キ ス ト	指定しない。研究成果に基づく関係論文を活用する。		
履修上の留意事項	事前学習資料等には目を通し、不明点・問題点を明確化して授業に臨む。事後の学習としては、特に高齢者に関した重要事項や研究テーマに関連すると思われる箇所については、自己学習による深化を期待する。		

授 業 科 目 名	老年看護管理方法Ⅱ	専門科目	1・2 年次後期 2 単位
科 目 責 任 者	浜端 賢次		
到 達 目 標	高齢者の健康課題の評価方法や専門的ケアの提供方法から、高齢者の看護管理の課題について理解する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：浜端賢次、川上勝、上野まり（非常勤） ○概要：高齢者の健康課題の評価方法や専門的ケアの提供方法に関する文献検討を通して、高齢者の看護管理の課題や展望について考察する。			
第 1 回～第 5 回	高齢者の看護管理の概要（浜端・川上） 高齢者にかかわる看護政策・施策 感染管理 リスク・マネジメント 認知症高齢者への対応 在宅の要介護高齢者 など		
第 5 回～第 10 回	高齢者の看護管理に関する課題の検討 1（浜端） 医療機関および介護保険関連施設における高齢者の看護管理の課題 施設におけるリスクとそのマネジメント 高齢者の看護管理のための連携 など		
第 11 回～第 15 回	高齢者の看護管理に関する課題の検討 2（上野） 訪問看護における高齢者の看護管理の課題 地域で生活する高齢者の看護管理の課題 なじみの場など 地域で暮らす高齢者の看護管理のための連携 など		
評 価 方 法	授業への参加態度（50％）、プレゼンテーションおよび課題レポート（50％）		
テ キ ス ト	指定しない。研究成果に基づく関係論文を活用する。		
履修上の留意事項	事前学習資料等には目を通し、不明点・問題点を明確化して授業に臨む。事後の学習としては、特に高齢者の看護管理に関する重要事項や自己の研究テーマに関連すると思われる箇所については、自己学習による深化を期待する。		

授 業 科 目 名	老年看護管理学演習	専門科目	1・2 年次後期 4 単位
科 目 責 任 者	浜端 賢次		
到 達 目 標	高齢者の看護管理に関連する研究を系統的に整理するとともに、医療機関や高齢者施設、訪問看護ステーション等における高齢者に対する看護体制を評価検討し、高齢者の看護管理に関する改善・改革の課題を探究する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：浜端 賢次、川上 勝、上野 まり（非常勤） ○概要：高齢者の看護管理に関する国内外の文献を検討するとともに、医療機関や高齢者施設、訪問看護ステーション等におけるフィールド演習を行い、高齢者に対する看護体制を評価検討する。老年看護管理学の講義の中から見出した課題も参考にして、高齢者の看護管理に関する改善・改革の課題を探究する。 第 1回～第10回 国内外の文献検討により、高齢者の看護管理に関する課題を検討する。 第11回～第54回 医療機関や高齢者施設、訪問看護ステーション等におけるフィールド演習を行い、高齢者に対する看護体制を評価検討する。 第55回～第60回 文献検討、フィールド演習等に基づき、高齢者の看護管理に関する課題を探究する。			
評 価 方 法	フィールド演習への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションおよびレポート（50%）		
テ キ ス ト	指定しない。興味の深い研究テーマに関する必読書を推薦する。また同じく必要な抄読文献があれば推薦する。		
履修上の留意事項	老年看護管理方法Ⅱで学修したことを復習して臨むこと。事後は、本科目で探究した高齢者の看護管理に関する改善・改革の課題を自己の研究的関心と照らし合わせ、研究目的の焦点化に活かすこと。		

授 業 科 目 名	老年看護管理学特別演習	専 門 科 目	2 年 次 前 期	4 単 位
科 目 責 任 者	浜端 賢次			
到 達 目 標	高齢者の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するための方法について、文献検討やフィールド演習等により多面的に検討し、改善・改革に関連する研究計画を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：浜端 賢次				
○概要：先行研究やフィールド演習等から、高齢者の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するために実行可能な方法を検討する。また、改善・改革に関連する研究計画を検討する。				
第 1 回～第10回	先行研究やフィールド演習等から、高齢者の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するために実行可能な方法を検討する。			
第11回～第50回	先行研究の知見を踏まえ、医療機関や高齢者施設、訪問看護ステーション等におけるフィールド演習を行い、高齢者の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するために実行可能な方法を検討する。			
第51回～第60回	高齢者の看護管理に関する改善・改革に関連する研究方法を見出し、研究計画を検討する。			

授 業 科 目 名	地域看護管理学講義Ⅰ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	春山 早苗			
到 達 目 標	様々な地域の特性や健康課題並びに保健医療福祉政策を踏まえて、地域看護管理、特に健康生活を支援する地域看護体制づくりの理論と考え方を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：春山早苗、塚本友栄、島田裕子 ○概要：文献検討、並びに、近年の地域看護活動の現状とその課題の検討により、個人・家族・地域の特性に応じて主体的に住民が健康生活を送れるような看護活動や住みやすい生活環境づくり、継続看護や在宅看護のあり方、保健、医療、福祉、教育、産業に関わる職種や機関との連携・調整及び在宅ケアシステム、地域ケア体制づくりの理論と考え方を教授する。 授業形式：講義・討議・プレゼンテーション 第1回 オリエンテーション（春山） 第2回 ～ 第6回 地域看護管理に関係する主要概念（春山・塚本） 第7回 ～ 第8回 地域における看護活動体制づくり 1-ケアコーディネーション-（春山・塚本） 第9回 ～ 第11回 地域における看護活動体制づくり 2-地域ケアシステム-（春山・島田） 第12回 ～第13回 地域における看護活動体制づくり 3-ケアマネジメント-（春山・塚本） 第14回 ～第15回 地域資源の評価と開発に関わる看護活動（春山・塚本）				
評 価 方 法	授業への参加態度（30%）、プレゼンテーション（30%）、プレゼンテーション資料（40%）			
テ キ ス ト	国内外の関連する文献			
履修上の留意事項	事前準備（予習）として、看護活動体制づくりにかかわる自己の実践事例の振り返りをした上で授業に臨むこと。事後（復習）は、地域における看護活動体制づくりにかかわる実践事例を一つ取り上げ、本科目で学修した理論や考え方を適用して説明してみることに。			

授 業 科 目 名	地域看護管理学講義Ⅱ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	春山 早苗			
到 達 目 標	へき地の地域特性と人々のヘルスニーズを踏まえ、へき地における看護活動の特徴と看護活動の展開方法に関する理論を理解する。さらに、へき地における地域看護管理体制のあり方を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：春山早苗、島田裕子 ○概要：文献抄読により、へき地に住む人々のヘルスニーズを明確にするための地域診断の視点、並びに、へき地看護活動に関わる概念と看護活動の展開方法に関する理論を教授する。さらに、へき地における地域看護管理体制の現状とその課題から、へき地における地域看護管理体制のあり方を検討する。				
授業形式：講義・討議・プレゼンテーション				
第 1 回～ 第 2 回 へき地に住む人々のヘルスニーズと地域診断の視点（春山） 第 3 回～ 第 6 回 へき地看護理論の基礎（春山） 第 7 回～ 第 11 回 へき地看護活動の展開方法（春山） 第 12 回～ 第 13 回 へき地で働く看護職を取り巻く状況と看護管理体制（春山） 第 14 回～ 第 15 回 へき地における健康危機管理体制と看護活動（島田）				

授 業 科 目 名	地域看護管理方法 I	専門科目	1・2 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	塚本 友栄			
到 達 目 標	医療機関における地域連携体制の構築に関わる看護活動、ケース管理・地域ケア体制づくりを含む地域看護管理活動、ならびに、施策化・政策化に関わる看護活動の方法について、実践事例や先行研究から検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：塚本友栄、春山早苗、田村須賀子（非常勤） ○概要：人々のヘルスニーズに基づく看護提供のための地域連携体制の構築や地域看護管理活動の展開方法、施策化・政策化に関わる看護専門職の役割と看護活動の展開方法について、実践事例や先行研究の知見から検討する。 第 1 回 ～ 第 2 回 地域看護管理の展開方法 1－ケース管理と事業・業務管理に関わる看護管理プロセスとリーダーシップ（塚本・春山） 第 3 回 ～ 第 4 回 地域看護管理の展開方法 2－組織運営管理と予算管理、人材育成・人事管理に関わる看護管理プロセスとリーダーシップ（塚本・春山） 第 5 回 ～ 第 8 回 退院支援と医療機関における地域連携体制の構築の実際（塚本） 第 9 回 ～ 第 10 回 保健看護ニーズに関わる政策決定過程と政策展開のプロセス（塚本・春山） 第 11 回 ～ 第 12 回 公衆衛生看護活動方法としての家庭訪問とケース管理（田村） 第 13 回 ～ 第 15 回 地域ケア体制づくりの展開方法（塚本・春山）				
評 価 方 法	授業への参加態度（20%）、事例分析資料（50%）、事例検討に基づく考察レポート（30%）			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	地域看護管理学講義 I で学修したことを復習して授業に臨むこと。事後（復習）は、地域看護管理活動または施策化・政策化に関わる看護活動にかかわる先行研究を一つ以上読み、看護活動方法について考えること。			

授 業 科 目 名	地域看護管理方法Ⅱ	専 門 科 目	1・2 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	春山 早苗			
到 達 目 標	へき地の地域特性と人々のヘルスニーズを踏まえ、関係機関との連携・協働体制の構築に関わる看護活動、地域資源の整備状況を考慮した地域資源づくり、並びに、へき地における地域看護管理活動の方法について、実践事例や国内外の文献から検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：春山早苗、塚本友栄、島田裕子 ○概要：へき地で生活する人々のヘルスニーズに基づく看護活動の展開方法、並びに、へき地における地域看護管理に関する課題と活動方法について、実践事例や国内外の文献を検討し、へき地における看護活動発展のための方法を考える。				
授業形式：講義・事例検討・討議				
第 1 回 ～ 第 2 回	山間へき地に住む人々のヘルスニーズに基づく看護活動の展開方法に関する国内外の文献や実践事例の検討（春山・塚本）			
第 3 回 ～ 第 4 回	離島に住む人々のヘルスニーズに基づく看護活動の展開方法に関する国内外の文献や実践事例の検討（春山・塚本）			
第 5 回 ～ 第 6 回	豪雪地帯に住む人々のヘルスニーズに基づく看護活動の展開方法に関する国内外の文献や実践事例の検討（春山・塚本）			
第 7 回 ～ 第 8 回	へき地における関係機関との連携・協働体制の構築に関わる看護活動の国内外の文献検討（春山・塚本）			
第 9 回 ～ 第 10 回	へき地における関係機関との連携・協働体制の構築に関わる看護活動の実際と展開方法の検討（春山・塚本）			
第 11 回 ～ 第 12 回	地域特性や地域資源の整備状況を考慮した地域資源づくりの方法に関する国内外の文献や実践事例の検討（春山・塚本）			
第 13 回 ～ 第 14 回	へき地における看護管理活動（健康危機管理を含む）と展開方法の検討（春山・島田）			
第 15 回	へき地における看護の質向上に関わる看護活動とへき地で働く看護職の確保と育成（春山・塚本）			
評 価 方 法	授業への参加態度（20%）、事例分析資料（50%）、事例検討に基づく考察レポート（30%）			
テ キ ス ト	特に指定しない			
履修上の留意事項	地域看護管理学講義Ⅱで学修したことを復習して授業に臨むこと。事後（復習）は、へき地における看護実践事例を一つ以上読み、へき地における関係機関との連携・協働体制の構築および地域資源づくりを含むへき地における看護管理活動の方法について考えること。			

授 業 科 目 名	地域看護管理学演習	専 門 科 目	1・2 年次後期	4 単 位
科 目 責 任 者	塚本 友栄			
到 達 目 標	地域特性と人々のヘルスニーズの分析から、行政機関、訪問看護ステーション、地域中核病院、へき地診療所、へき地医療拠点病院等の地域における看護提供機関の看護体制を評価検討し、看護管理に関する改善・改革の課題を探究する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：塚本友栄、春山早苗 ○概要：地域特性と人々のヘルスニーズの分析、ならびに、フィールド演習から、地域における看護提供機関の看護体制を評価検討し、地域看護管理学の講義の中から見出した課題も参考にして、看護管理に関する改善・改革の課題を探究する。 演習は、以下のような実践活動を対象に行う。 1）学生が所属する保健医療福祉機関における看護実践活動 2）市町村、保健所、訪問看護ステーション、地域中核病院等における看護実践活動 3）へき地診療所、へき地医療拠点病院における看護実践活動 等				
評 価 方 法	演習への取り組み状況（60%）、レポート（40%）			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	地域看護管理方法Ⅰで学修したことを復習して臨むこと。事後は、本科目で探究した看護管理に関する改善・改革の課題を自己の研究的関心と照らし合わせ、研究目的の焦点化に活かすこと。			

授 業 科 目 名	地域看護管理学特別演習	専 門 科 目	2 年次前期	4 単 位
科 目 責 任 者	春山 早苗			
到 達 目 標	地域における看護提供機関の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するための方法について、文献検討やフィールド演習等により多面的に検討し、改善・改革に関連する研究計画を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：春山早苗、塚本友栄、島田裕子 ○概要：文献、フィールド演習、討議から、地域における看護提供機関の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するために実行可能な方法を検討する。また、改善・改革に関連する研究計画を検討する。 授業形式：演習・レポート 演習は、以下のような保健医療福祉機関をフィールドとして行う。 1）学生が所属する保健医療福祉機関における看護実践活動 2）市町村、保健所、訪問看護ステーション、地域中核病院等における看護実践活動 3）へき地診療所、へき地医療拠点病院 等				
評 価 方 法	演習への取り組み状況（60％）、レポート（40％）			
テ キ ス ト	特に指定しない。			
履修上の留意事項	地域看護管理方法Ⅱで学修したことを復習し、また、地域看護管理学演習で学修したことを踏まえて臨むこと。事後は、文献検討を加え、研究指導教員による研究指導を受けながら、研究計画を精練すること。			

授 業 科 目 名	診療看護技術管理学講義Ⅰ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	村上 礼子			
到 達 目 標	特定行為を含む看護技術である診療看護技術の安全性を高めるための開発・改善から提供システムづくりに必要な他職種・他部門との連携・調整および、在宅、介護施設、病院などでのチーム医療の在り方の理論と考え方を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：村上礼子、長谷川直人、古島幸江				
○概要：特定行為を含む看護技術である診療看護技術の概念および特徴について文献検討を行いつつ、診療看護技術の安全性を高めるための開発・改善から提供システムづくりに必要な他職種・他部門との連携・調整および、在宅、介護施設、病院などでのチーム医療の在り方の理論と考え方を教授する。				
第 1 回	科目ガイダンス・オリエンテーション	(村上)		
第 2 回	診療看護技術の概念及び特徴			
	(1) 看護技術とは	(村上)		
第 3 回	診療看護技術の概念及び特徴			
	(2) 診療看護技術に係る制度	(村上)		
第 4 回	診療看護技術の概念及び特徴			
	(3) 看護師の役割拡大とは	(村上)		
第 5 回	診療看護技術の概念及び特徴			
	(4) 看護職の専門性とは	(古島)		
第 6 回	診療看護技術の概念及び特徴			
	診療看護技術の提供システムづくりの主要概念 (1)	(村上)		
第 7 回	診療看護技術の概念及び特徴			
	診療看護技術の提供システムづくりの主要概念 (2)	(村上)		
第 8 回	診療看護技術の概念及び特徴			
	診療看護技術の提供システムづくりの主要概念 (3)	(村上)		
第 9・10 回	診療看護技術の研究における動向			
	対象の客観的情報に基づいた診療看護技術研究 (1) (2)	(長谷川)		
第 11・12 回	診療看護技術の研究における動向			
	対象の主観的情報に基づいた診療看護技術研究 (1) (2)	(長谷川)		
第 13 回	診療看護技術の提供システム研究の動向			
	(1) 看護実践者を中心とした評価・成果	(古島)		
第 14 回	診療看護技術の提供システム研究の動向			
	(1) 看護管理者を中心とした評価	(村上)		
第 15 回	診療看護技術の提供システム研究の動向			
	(1) 医療組織を中心とした評価・成果	(村上)		
評 価 方 法	授業への参加態度 (30%) プレゼンテーション (30%) プレゼンテーション資料 (40%)			
テ キ ス ト	国内外の関連する文献を中心とするが、必要時提示する			
履修上の留意事項	事前準備（予習）として、看護技術、診療看護技術の概念や特徴に関する文献を一つ以上読んだ上で授業に臨むこと。事後（復習）は、診療看護技術に係る実践事例を一つ取り上げ、安全性と有効性の観点から考察していただくこと。			

授 業 科 目 名	診療看護技術管理学講義Ⅱ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	村上 礼子			
到 達 目 標	保健医療福祉制度や医療政策、組織特性などを踏まえ、継続教育を視野に入れた特定行為を含む看護技術である診療看護技術の教育体制のあり方とその実際を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：村上礼子、長谷川直人 ○概要：保健医療福祉制度や医療政策、組織特性などを踏まえ、特定行為を含めた看護技術である診療看護技術を効果的かつ適切に用いるために必要な看護技術教育について教授する。特定行為研修を含めた看護技術教育の実際を教授するとともに、診療看護技術の実施上、管理上の課題に照らし合わせて診療看護技術教育プログラムの開発や有効性、妥当性を検討する。さらに、在宅、介護施設、病院など組織特性を踏まえた診療看護技術の教育体制の課題について検討する。				
第 1 回	科目ガイダンス・オリエンテーション	(村上)		
第 2 回	看護技術の教育上の特徴及び課題 (1)	(村上)		
第 3 回	看護技術の教育上の特徴及び課題 (2)	(村上)		
第 4 回	看護技術の教育上の特徴及び課題 (3)	(長谷川)		
第 5 回	診療看護技術の看護技術教育上の特徴 (1)	(村上)		
第 6 回	診療看護技術の看護技術教育上の特徴 (2)	(村上)		
第 7 回	診療看護技術の看護技術教育上の特徴 (3)	(長谷川)		
第 8 回	診療看護技術の継続教育上の課題 (1)	(村上)		
第 9 回	診療看護技術の継続教育上の課題 (2)	(長谷川)		
第 10 回	診療看護技術教育のあり方 診療看護技術の教育プログラム開発 (1)	(村上)		
第 11 回	診療看護技術教育のあり方 診療看護技術の教育プログラム開発 (2)	(長谷川)		
第 12 回	診療看護技術教育のあり方 診療看護技術の教育プログラムの評価 (1)	(長谷川)		
第 13 回	診療看護技術教育のあり方 診療看護技術の教育プログラムの評価 (2)	(村上)		
第 14 回	診療看護技術の改善に係る教育的課題	(村上)		
第 15 回	診療看護技術の教育における今後の展望	(村上)		
評 価 方 法	授業への参加態度 (30%) プレゼンテーション (30%) プレゼンテーション資料 (40%)			
テ キ ス ト	国内外の関連する文献を中心とするが、必要時提示する			
履修上の留意事項	事前準備 (予習) として、「看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書」(厚生労働省 平成 15 年 3 月)、を一読した上で授業に臨むこと。事後 (復習) は、診療看護技術の教育・管理事例を一つ取り上げ、診療看護技術教育のあり方を考察してみること。			

授 業 科 目 名	診療看護技術管理方法Ⅰ	専門科目	1・2 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	長谷川 直人			
到 達 目 標	様々な医療現場における特定行為を含む看護技術である診療看護技術の提供体制の構築における倫理的課題、チーム医療の一員としての看護専門職としての役割について実践例や先行研究の知見から検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：長谷川直人、村上礼子、八木街子、古島幸江 ○概要： 様々な医療現場における特定行為を含む看護技術である診療看護技術の安全な提供方法や医療現場の連携体制の構築、診療看護技術の提供体制の構築における倫理的課題、チーム医療の一員として診療に係る看護専門職としての役割などについて、実践事例や先行研究の知見から検討する。				
第 1 回 科目ガイダンス （長谷川）				
第 2 回～第 6 回 診療看護技術に関する文献の系統的検索 （長谷川・村上・八木・古島） 				

授 業 科 目 名	診療看護技術管理方法Ⅱ	専門科目	1・2年次後期	2単位
科 目 責 任 者	村上 礼子			
到 達 目 標	特定行為を含む看護技術である診療看護技術の安全な提供のために、地域、組織特性を踏まえて組織内の関係職種との連携・協働体性の構築方法や診療看護技術の維持・向上のための教育活動の方法について、実践事例や国内外の文献から検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：村上礼子、長谷川直人、八木街子 ○概要： 地域、組織特性を踏まえて関係者、関係職種との連携・協働体制の構築方法や特定行為を含む看護技術である診療看護技術の維持・向上のための教育活動の方法について、国内外の文献から検討し、求められる診療看護技術の安全な提供体制構築のための方法を検討する。				
第 1 回	科目ガイダンス （村上）			
第 2 回～第 6 回	診療看護技術の教育方法に関する文献の系統的検索 看護技術の教育方法に関する研究疑問の検討 看護技術の教育方法に関する研究疑問に応じた系統的文献検索 (村上・長谷川・八木)			
第 7 回～第 11 回	診療看護技術の教育事例に関する国内外の文献抄読及び討議 看護技術の教育にする現状と課題の検討 看護技術の教育プロセスの検討 看護技術に関する教育研究における倫理的課題の検討 看護技術の教育体制に関連した文献レビューのまとめ (村上・長谷川・八木)			
第 12 回～第 15 回	診療看護技術の教育事例の検討 （村上） 看護技術の教育事例に必要な知見の検討 看護技術の教育展開上の課題の明確化 教育・管理体制づくり上の課題の明確化			
＊関連する学会に参加して知見の検討を必須課題とする。				
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーション（30％）プレゼンテーション資料（20％）、レポート課題（50％）			
テ キ ス ト	特に指定しない			
履修上の留意事項	事前準備として、診療看護技術管理学講義Ⅰならびに診療看護技術管理方法Ⅰで学修したことを踏まえて臨むこと。事後は、本科目で探求した診療に係る看護技術、看護技術教育、看護管理における研究方法上の課題を踏まえて、自己の研究方法を検討すること。			

授 業 科 目 名	診療看護技術管理学演習	専 門 科 目	1・2 年次後期	4 単位
科 目 責 任 者	村上 礼子			
到 達 目 標	安全かつ安心な診療看護技術の開発・改善、提供方法や、病院、介護施設、在宅などにおける他職種との連携を踏まえた看護管理活動について、実践・評価を行い、診療看護技術の医療提供システムづくりに関する改善・改革の課題を探求する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：村上礼子、長谷川直人、古島幸江 ○概要：対象特性、地域・組織特性の分析を行ったうえでのフィールド演習から、安全かつ安心な診療看護技術の提供・管理方法、教育方法を評価し、病院、介護施設、在宅などにおける他職種との連携を踏まえた看護管理活動について、特定行為を含む看護技術である診療看護技術の医療提供システムづくりに関する改善・改革の課題を探求する。				
第 1 回	科目ガイダンス （村上）			
第 2 回～第 21 回	診療看護技術の看護実践の展開 （村上・長谷川・古島） 例 特定機能病院、地域中核病院等における看護実践 例 ヘき地医療拠点病院、訪問看護ステーション等における看護実践			
第 22 回～第 41 回	診療看護技術の看護教育の展開 （村上・長谷川） 例 看護師特定行為研修、看護技術の教育展開			
第 42 回～第 60 回	診療看護技術の医療提供システムづくりに関する改善・改革の課題の探求 （村上）			
＊演習フィールドは適宜検討する。 ＊関連する学会に参加して知見の検討を必須課題とする。				
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーション（50％）およびレポート課題（50％）			
テ キ ス ト	特に指定しない			
履修上の留意事項	事前準備として、診療看護技術管理方法ⅠおよびⅡで学修したことを踏まえて臨むこと。事後は、本科目で探求した診療に係る看護技術、看護管理等に関する改善・改革の課題を自己の研究目的・研究方法の検討に活かすこと。			

授 業 科 目 名	診療看護技術管理学特別演習	専門科目	2 年次前期	4 単位
科 目 責 任 者	村上 礼子			
到 達 目 標	看護技術が必要なそれぞれの場の特徴を踏まえ、看護職の役割拡大に伴う安全・安心な診療看護技術の開発・改善、チーム医療の推進につながる医療提供システムづくりに取り組むための研究課題の明確化とその研究課題を解決するための研究方法を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：村上礼子、長谷川直人、古島幸江、八木街子 ○概要： 看護技術が必要なそれぞれの場の特徴を踏まえ、看護職の役割拡大に伴う安全・安心な診療看護技術の開発・改善、チーム医療の推進につながる医療提供システムづくりに取り組むための自己の研究疑問について、各種研究方法の学習とともに、文献の系統的レビューを行い、研究疑問の背景と研究課題の明確化を図り、その研究課題を解決するための研究方法を検討する。				
第 1 回	科目ガイダンス（村上）			
第 2 回～第 4 回	研究課題の明確化（村上・長谷川・八木・古島） ・診療看護技術に関する実践経験を踏まえ研究テーマの検討			
第 5 回～第 10 回	研究課題の明確化（長谷川・村上・八木・古島） ・診療看護技術に関する自己の研究疑問についての系統的文献レビュー			
第 11 回～第 20 回	研究課題の明確化（村上・長谷川・八木・古島） ・診療看護技術に関する自己の研究疑問の背景の明確化			
第 21 回～第 30 回	研究課題の明確化（長谷川・村上・八木・古島） ・診療看護技術の開発・改善を目的とする自己の研究課題の明確化			
第 31 回～第 40 回	研究計画の立案（村上・長谷川・八木・古島） ・研究課題を解決するための研究方法の検討			
第 41 回～第 50 回	研究計画の立案（村上・長谷川） ・研究背景、研究目的、研究方法を記述し、研究計画書を作成			
第 51 回～第 60 回	研究計画の立案（長谷川・村上） ・研究方法の倫理的課題について検討し、研究倫理審査申請書を作成			
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーション（50％）および研究計画書（50％）			
テ キ ス ト	特に指定しない			
履修上の留意事項	事前準備として、診療看護技術管理学講義Ⅰ・Ⅱならびに診療看護技術管理方法Ⅰ・Ⅱで学修したことを復習し、診療看護技術管理学演習での学修を踏まえて臨むこと。事後は、文献検討を加え、研究指導教員による研究指導を受けながら、研究計画を精錬すること。			

授 業 科 目 名	地域看護管理学特別研究	専 門 科 目	2 年次後期	6 単 位
科 目 責 任 者	村上 礼子			
授 業 目 標	地域看護管理学分野におけるいずれかの領域の講義・演習・特別演習をとおして明らかになった実践的課題の中から、看護ケアや看護サービスを提供する技術や体制の改善・改革に関連する研究課題を設定し、その課題について研究活動を展開し、修士論文を作成する。			
授 業 概 要				
○研究指導教員名：村上礼子、塚本友栄、長谷川直人、浜端賢次、春山早苗				
○研究指導補助教員名：川上勝、古島幸江、八木街子				
○概要				
入学時から各学生の関心のある研究課題について検討し、選択した領域の授業科目等において、研究指導教員の指導を受けて実施可能なテーマを決定し、研究計画を立案し、研究活動を展開して、修士論文を作成する。				
○方法				
研究指導教員は、看護学研究科委員会において決定し、原則として入学時に学生に提示される。個別または領域内ゼミにより指導を行う。				
「老年看護管理学」領域				
地域で生活する健康な高齢者の健康の保持・増進または健康障害をもつ高齢者とその家族の健康と生活の支援を目的とした看護サービス提供システムや看護管理の改善・改革に寄与することのできる研究課題を探究する。				
「地域看護管理学」領域				
地域の特性と人々のヘルスニーズに応じた地域資源づくりや地域ケア体制づくり、施策化・政策化など地域のニーズに合った看護サービス提供システムや地域看護管理の改善・改革に寄与することのできる研究課題を探究する。				
「診療看護技術管理学」領域				
病院、介護施設、在宅などにおける人々への看護技術提供について、それぞれの場の特徴を踏まえた高い看護技術の開発・改善や看護技術提供システムづくりに取り組む研究課題を探究する。また、看護職の役割拡大に伴うスキルの開発・改善や、安全・安心な医療提供システムづくりに寄与することのできる研究課題を探究する。				
評 価 方 法	修士論文の研究計画の立案、研究活動の展開、論文執筆等の研究活動の経過(60%)およびその内容(40%)			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	選択した領域の特別演習で学修したことを活かして、研究計画を立案する。			